クボタトラクタ

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

シンボル	意味
	火気厳禁
	燃料（残量）
	ディーゼル軽油
	バッテリ充電異常
	エンジンオイル
	水温計
	チルトハンドル
	ホーン

シンボル	意味
	方向指示器表示 （コンビネーションスイッチ）
	方向指示器表示 （メーターパネル）
	ヘッドライト
F	作業灯（前）
F	ワイパ（前）
R	ワイパ（後）
	アクセル高
	アクセル低

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお， 表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重 要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補 足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はKB225を基本とし，KB225と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

〈標準仕様〉

● エンジン出力(PS)によって ....KB165，KB185，KB205，KB225
● ミッション形式によって
　油圧無段変速トランスミッション付き.........**グライドシフト(F)仕様**
　マニュアルトランスミッション付き...........**マニュアルシフト仕様**
● モンロ・オート付き........................MA仕様
● 標準3点リンク・けん引ヒッチ付き...........P　仕様
● 安全キャブ仕様............................Q　仕様
● パワークローラ(パワクロ)...................PC仕様
(PC1:片ハシゴ,PC2:ハイラグ,PC3:幅狭)

本書の見方

この取扱説明書には，次のようなトラクタを使ってわからないことがあった時や便利な機能が簡単に調べられる「困ったときには」のページを設けています。

1．困ったこと，やりたいことから関連する項目が調べられる目次
2．レバー・スイッチの名称がわからなくてもイラストから関連する項目が調べられるイラスト目次

わからないことがあった時には，本書を有効にご活用いただき，機械の性能を最大限に発揮させてください。

目　次

⚠安全に作業するために

安全キャブ，安全フレームについて 1
運転前に 3
始動時に 4
運転時に 4
作業機使用時に 7
道路走行時に 9
駐車，格納時に 11
点検・給油・整備時に 12
パワクロ仕様の場合 15
　運転時に 15
　あゆみ板使用時に 15
表示ラベルと貼付け位置 17
表示ラベルの手入れ 22

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証 1
小型特殊自動車としての取扱い 3

運転のしかた

運転前の点検 4
エンジンの始動と停止 5
　始動のしかた 5
　停止のしかた 7
　キースイッチ 8
　寒冷時の暖機運転 9
　バッテリあがりの処置 9
　ならし運転（最初の約 50 時間） 10
運転席周りの調節 10
　シート 10
　安全キャブ・安全フレームとシートベルトについて 11
　チルトステアリングハンドル 12
　バックミラー 13
灯火類の操作 13
　コンビネーションスイッチ 13
　外部電源取出端子 14
走行装置の取扱い 15
　発進・走行 15
　停車・駐車 16
　ブレーキペダル 17
　クラッチペダル 17
　前輪駆動レバー 18
　倍速ターンレバー 18
　各変速レバーの取扱い 19
　マニュアルシフト仕様 19
　グライドシフト仕様 20
　アクセルレバーとアクセルペダル 22
　駐車ブレーキの解除のしかた 22
運転中の作動確認 23
　燃料計 23
　トラクタメータ 23
　水温計 23
状況に応じた操作 24
　デフロックの使い方 24
　旋回のしかた 24
　坂道での運転 24
　ほ場への出入り時の注意 25
　道路走行中の注意 26
　トラックへの積み・降ろし 26
　パワーステアリングの取扱い 27
　パワクロ仕様の運転のしかた 28

作業のしかた

作業機昇降装置 29
　油圧（ポジションコントロール）レバー .. 29
　電子アップレバー（ポンパ） 29
　バックアップスイッチ 30
　作業機落下速度の調整 31
三点リンク 32
　ロアーリンク取付け穴の選択 33
　トップリンク 33
　リフトロッドの調整 33
　チェックチェーン 34
　作業機を取付けないときの注意 34
けん引ヒッチ（別売） 34
PTO 35
　PTO 変速レバー 35
　PTO 軸キャップ 35
モンローマチックの取扱い ［MA 仕様］ .. 37
　各部の名称 37
　水平制御スイッチ 37
　角度調節ダイヤル 38
メカオートの取扱い 39
　オート耕深レバー 39
　ロータリ着脱時の注意［スーパージョイント (S) 仕様以外］.. 39
タイヤ・ウエイト 40
　タイヤの空気圧 40
　輪距の調整 40
　ウエイト（オプション） 41
一般的な耕うん要領 42
　隣接耕うんのしかた 42
　一うねおき耕うんのしかた 42
　トラクタの方向転換のしかた 42

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック 43
　ドア 43
　リヤウインド 43
　サイドウインド 44
ワイパ 44

目　次

フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 44
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ 45
寒冷時のワイパの使用 45
作業灯 45
作業灯スイッチ 45
エアコン 46
空気の流れ 46
風向調整 46
コントロールパネル 47
取扱い操作方法 48
ヒータ使用上の注意 48
インプルメントの装着 48
インプルメント用操作ボックスの取付 48

トラクタの簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について 49
洗車時の注意 49
定期点検箇所一覧表 50
給油（水）一覧表 53
トラクタの給油（水）................... 53
推奨オイル・グリース一覧表 54
エンジンオイル・ミッションオイル 54
グリース 54
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方 55
ボンネットの開閉 55
フロントグリルの取り外し 55
サイドカバーの取り外し 56
日常点検 56
前日の異常箇所 56
トラクタの周りを歩いて 56
エンジンオイルの量及び汚れ 57
ミッションオイルの量及び汚れ 57
冷却水の量 58
バキュエータバルブの清掃 58
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 59
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 59
防虫網の清掃 60
ブレーキペダルの遊び・点検 60
駐車ブレーキの作動点検 61
クラッチペダルの遊び・点検 61
メータ・ランプ類の作動 62
燃料の補給 62
満タンお知らせブザー［MA 仕様］........ 63
燃料供給台 63
日常点検［PC 仕様］.................. 63
ゴムクローラの張り調整 63
スプロケットの交換 64
ゴムクローラの交換 64
50 時間ごとの点検・整備 64
グリースの注入 64
エンジン始動システムの点検 65
倍速ターン高速けん制装置の点検 66
タイヤ取付けボルトの点検 67
ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの点検・交換 67
クラッチハウジングの水抜き 67
燃料ホースの点検 68
100 時間ごとの点検・整備 68
エンジンオイルの交換 68
バッテリ電解液の点検 69
エアクリーナエレメントの清掃 71
ファンベルトの点検・調整 72
クラッチペダルの点検・調整 72
ブレーキペダルの点検・調整 73
200 時間ごとの点検・整備 74
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 74
ラジエータホースの点検 74
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 .. 75
油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換 75
転輪・遊輪のオイルシール点検 76
トーイン調整・タイロッドの点検 76
吸気ホースの点検 76
室内エアフィルタの清掃 77
外気フィルタの清掃 77
エアコンコンデンサの詰まり 77
エアコンベルトの張り 78
300 時間ごとの点検・整備 78
ミッションオイルの交換 78
前車軸ケースオイルの交換 79
400 時間ごとの点検・整備 79
燃料フィルタエレメントの清掃・交換 79
800 時間ごとの点検・整備 80
エンジンバルブクリアランスの点検 80
１年ごとの点検・整備 80
エアクリーナエレメントの交換 80
ヒータ配管，ウォータホースの点検 80
エアコン配管，ホースの点検 80
２年ごとの点検・整備 80
冷却水の交換 80
ラジエータの洗浄 81
ラジエータホースの交換 81
燃料ホースの交換 81
吸気ホースの交換 81
モンローシリンダホースの交換［MA 仕様］ 81
必要に応じた点検・整備 82
燃料の空気抜きのしかた 82
ヒューズの交換 82
スローブローヒューズの交換 82
ランプ類の交換 82
注油 82
ウォッシャ液の補充 83
冷媒（ガス）量の点検 83
格納 83
長期格納時の手入れ 83
不調と処置 85
エンジンの不調と処置 85

付表

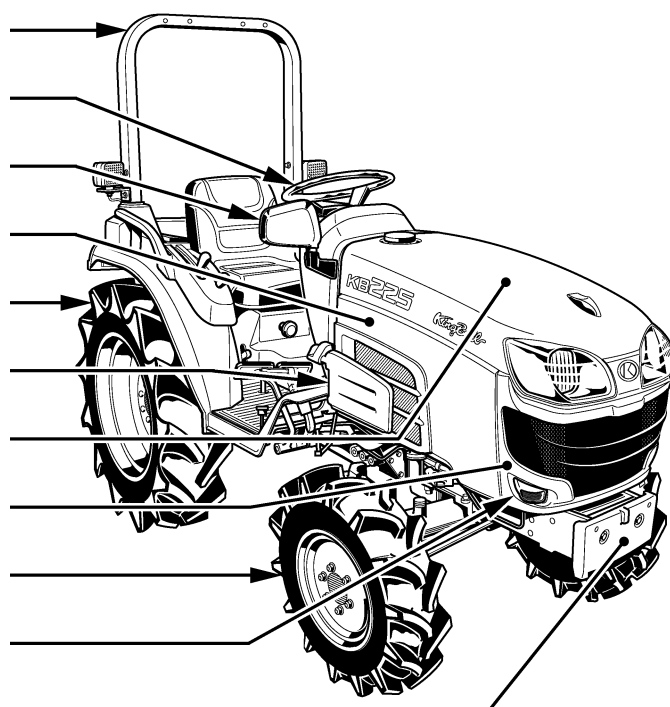
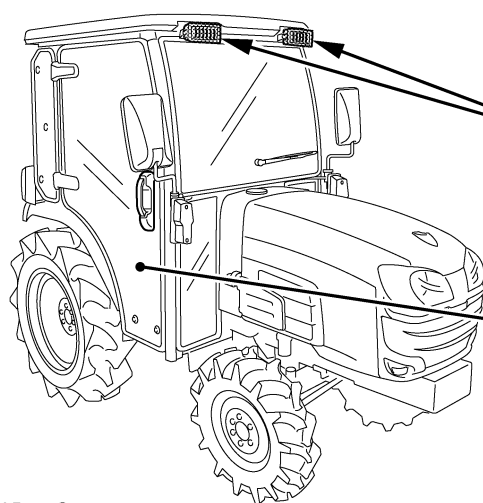
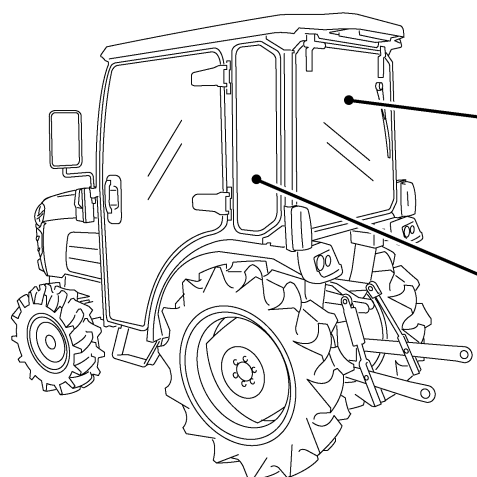
主要諸元 **86**
トラクタの主要諸元 86
走行速度表 89
PTO 回転速度表 90
標準付属品 90
主な消耗部品一覧表 **91**
アタッチメント一覧表 **93**
インプルメント一覧表 **95**
検査成績表 **96**
作業ごとの一般的な調整要領 **98**

困ったときには

こんな時には…

	目的	項目	参照ページ
エンジン始動時に	スタータモータが回らない	エンジンの始動と停止	5
道路走行時に	2WD, 4WD を切換えたい	前輪駆動レバー	18
	倍速を切換えたい	倍速ターンレバー	18
	ブレーキ連結解除ランプが点灯している	ブレーキペダル	17
作業時に	作業に適切な速度は	各変速レバーの取扱い	19
	グライドシフトで上限速度を設定したい	グライドシフトレバー	20
	一般的な耕うん要領は	一般的な耕うん要領	42
	モンローオートの一般的な調整要領が知りたい	作業ごとの一般的な調整要領	98
	傾斜地でモンローマチックを使用したい	水平制御スイッチ	37
	作業機を手動で傾けたい	水平制御スイッチ, 角度調節ダイヤル	37,38
	ロータリが下がらない	オート耕深レバー	39
	スリップした時には	デフロックの使い方	24
	作業機を取付ける時には	ロアーリンクの取付け穴の選択	33
	インプルメント操作ボックスを取付けるには	インプルメント用操作ボックスの取付け	48
	前輪の前を照らしたい	フロントサイド作業灯	13
	作業灯（前）を点灯させるには	作業灯（前）スイッチ	45
	ワンタッチでロータリの上げ下げをしたい	電子アップレバー（ポンパ）	29
メンテナンス時に	燃料補給時に便利な機能は	満タンお知らせブザーの取扱い	63
	燃料キャップを置く場所は	燃料供給台	63
	パワクロのメンテナンス項目は	パワクロの日常点検	63
	日常点検ですべきことは	日常点検	56
	オイル量を知りたい	給油（水）一覧表	53
	電球が切れた時には	主な消耗部品一覧表	91
その他	後部作業灯用の電源カプラの位置は	外部電源取出端子	14
	ドアをロックするには	ドア	43
	ワイパを止めた状態でウォッシャを使うには	フロントワイパ・ウォッシャスイッチ	44
	フロントガラスの曇りをとりたい	デフロスタ	48
	内気循環／外気導入を切換えたい	内外気切換えレバー	46

■ 外観

安全フレーム………………… 11 ページ
ハンドル…………………… 12 ページ
バックミラー……………… 13 ページ
サイドカバー……………… 56 ページ
後輪タイヤ………………… 40 ページ
燃料供給台………………… 63 ページ
ボンネット………………… 55 ページ
フロントグリル…………… 55 ページ
前輪タイヤ………………… 40 ページ
フロントサイド作業灯……… 13 ページ
ウエイト(オプション)……… 41 ページ

1AGATAHAP047A

作業灯(前)…………………… 45 ページ
ドア…………………………… 43 ページ

1AGATAHAP002G

リアウインドウ……………… 43 ページ
サイドウインドウ…………… 44 ページ

1AGATAHAP032C

■ 操作レバー・ペダル

［マニュアルシフト仕様］

倍速ターンレバー
（18 ページ）

シャトルレバー
（19 ページ）

チルトロックペダル
（12 ページ）

クラッチペダル
（17 ページ）

主変速レバー
（19 ページ）

落下速度調整グリップ
（31 ページ）

PTO 変速レバー
（35 ページ）

副変速レバー
（19 ページ）

シートベルト
（11 ページ）

シート（10 ページ）

アクセルレバー
（22 ページ）

電子アップレバー
（ポンパ）［MA仕様］
（29 ページ）

駐車ブレーキレバー
（5 ページ）

ブレーキペダル
（17 ページ）

アクセルペダル
（22 ページ）

油圧（ポジションコントロール）レバー
（29 ページ）

オート耕深レバー
［MA 仕様］
（39 ページ）

モンロー操作パネル
［MA 仕様］
（37 ページ）

デフロックペダル
（24 ページ）

前輪駆動レバー
（18 ページ）

1AGATAHAP029A

［グライドシフト仕様］

■ スイッチ

エンジンオイルランプ（8 ページ）

電子アップランプ（ポンパ）（29 ページ）

バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）（8 ページ）

倍速ターンランプ（18 ページ）

ウインカパイロットランプ（13 ページ）

水温計（23 ページ）

コンビネーションスイッチ（13 ページ）

ヘッドライト・サイド作業灯スイッチ
ウインカスイッチ

キャブドア用キー［安全キャブ（Q）仕様のみ］

トラクタメータ（23 ページ）

ブレーキ連結解除ランプ（17 ページ）

予熱ランプ（6 ページ）

バックアップランプ（30 ページ）

燃料計　（23 ページ）

バックアップスイッチ（30 ページ）

キースイッチ（8 ページ）

始動用キー（8 ページ）

ブレーキ連結解除
電子アップ
予熱
倍速
バックアップ
x1000n/min
00004HR

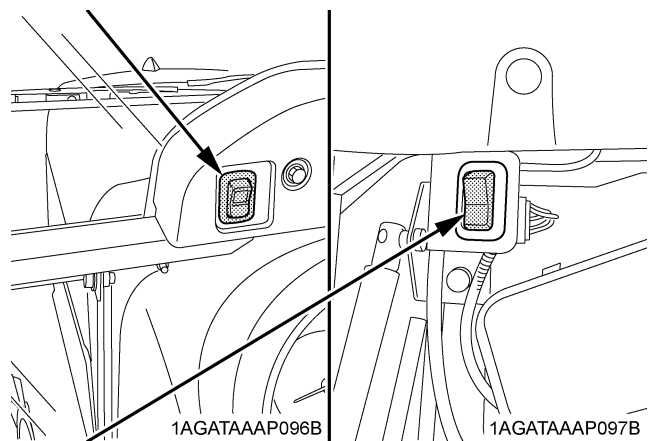
1AGATAHAP005E

［安全キャブ仕様］

1AGATAAAP093B

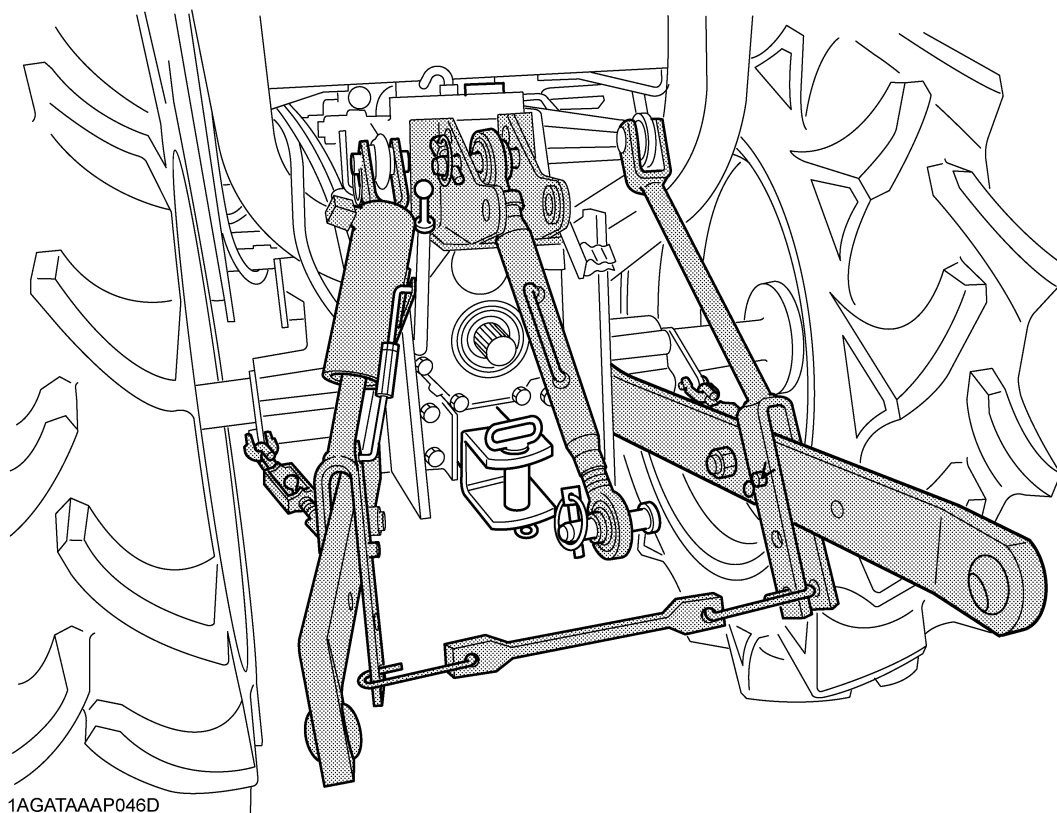
作業灯（前）スイッチ…………… 45 ページ

フロントワイパ・ウォッシャースイッチ……………… 45 ページ

1AGATAAAP096B　1AGATAAAP097B

リヤワイパスイッチ……………… 45 ページ

■ 三点リンク

詳細は三点リンクの項 32 ページ参照（下図は **［P 仕様］**）

1AGATAAAP046D

■ モンロ操作パネル

角度調節ダイヤル··············· 38 ページ

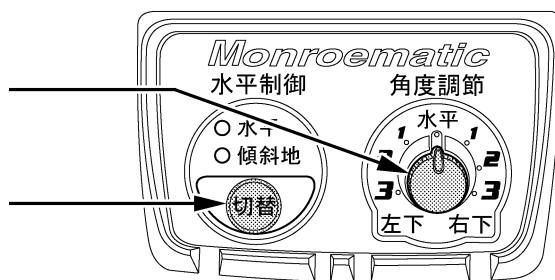
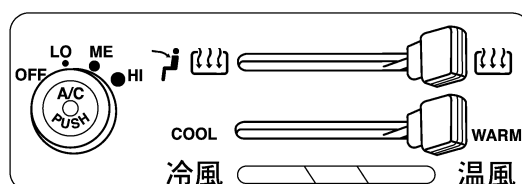
水平制御スイッチ··············· 37 ページ

1AGATAAAP045J

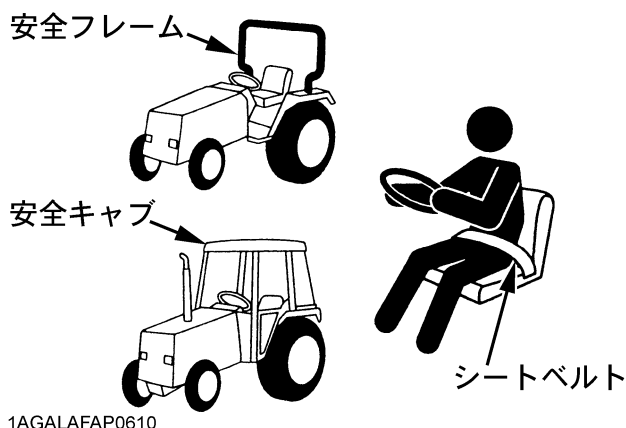
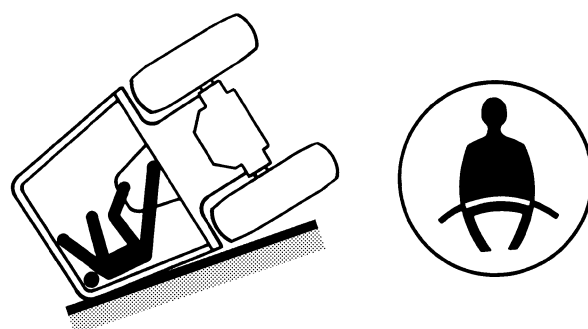
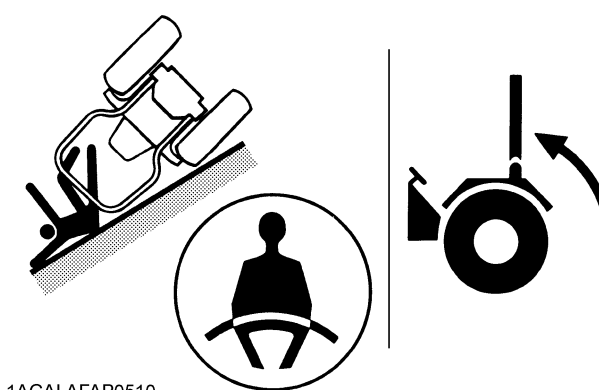
■ エアコン

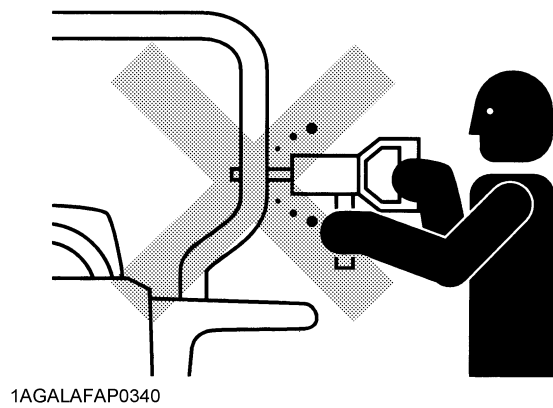
コントロールパネル············· 47 ページ

1AGATAAAP085B

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

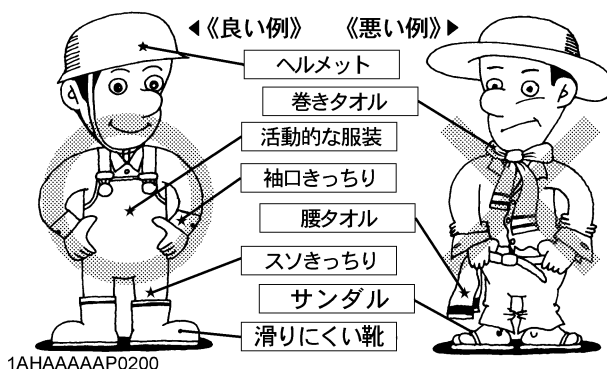
安全キャブ，安全フレームについて

安全キャブ，安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

1. 運転時は安全キャブ又は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。

2. 安全フレームを取外して運転しないでください。
3. 納屋への出入り等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
   安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
4. 安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
5. 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行なってください。

6. 安全キャブ又は安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

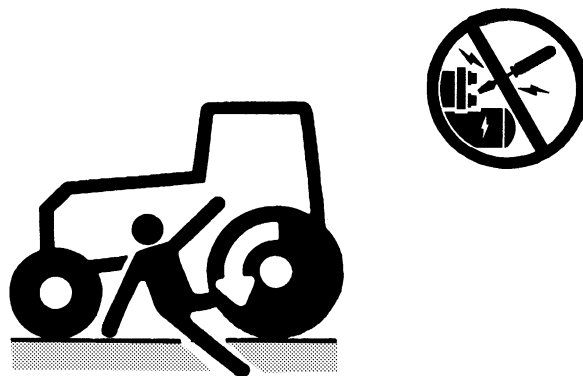
1AGALAFAP0340

運転前に

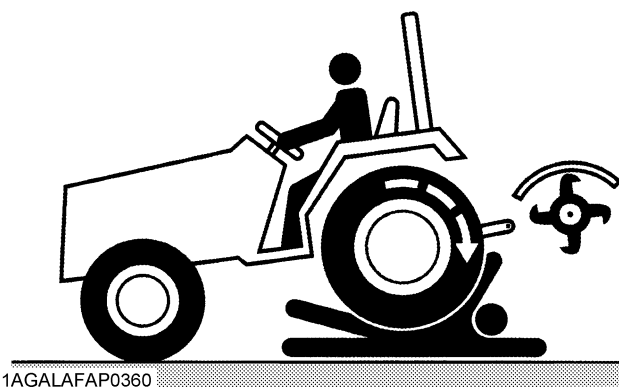
1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

1AGALAFAP0350

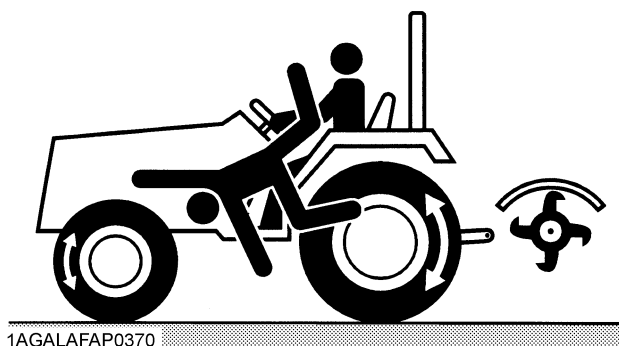
5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は **［トラクタの簡単な手入れと処置］** の章参照）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

1AHAAAAAP0200

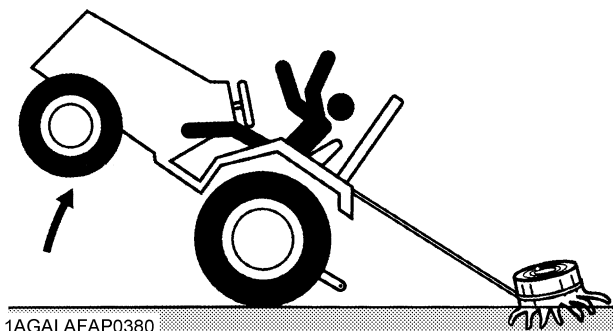
始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）やPTO変速レバーが**［中立］**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出す恐れがあります。

1AGAAAPAP084A

3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

1AGALAFAP0360

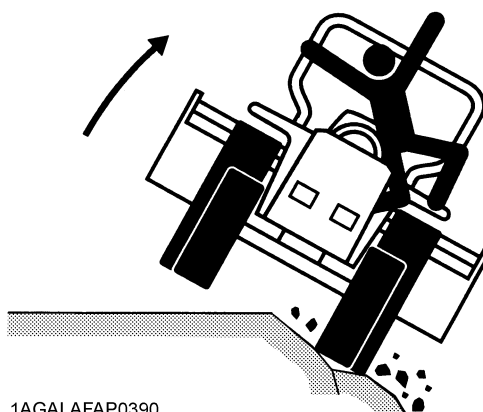
運転時に

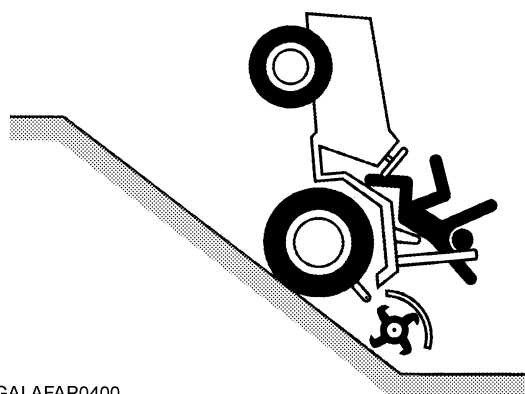
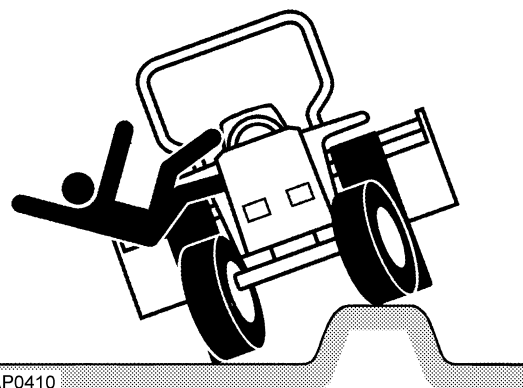
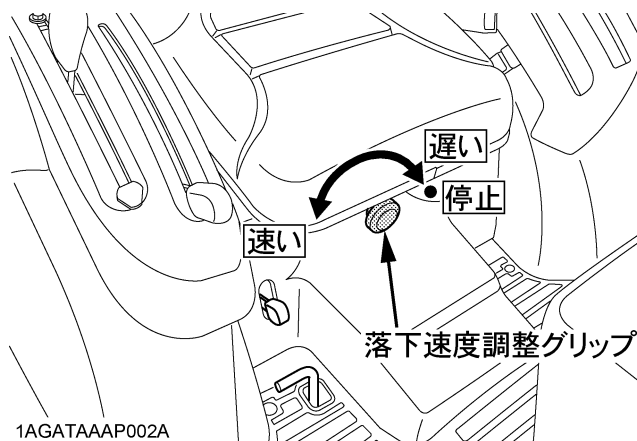
1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。

1AGALAFAP0370

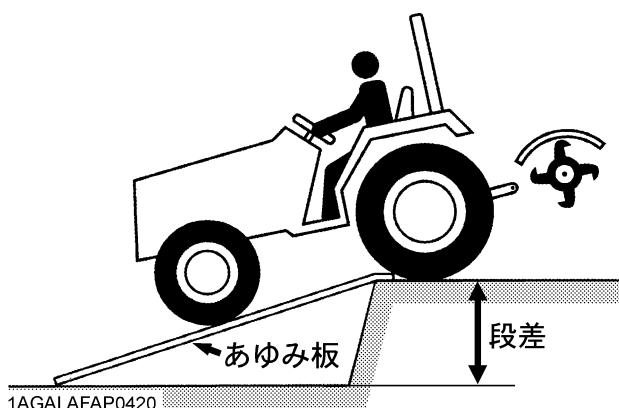
2. けん引作業には，けん引ヒッチ（別売）を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。

1AGALAFAP0380

3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。

1AGALAFAP0520

4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。

1AGALAFAP0390

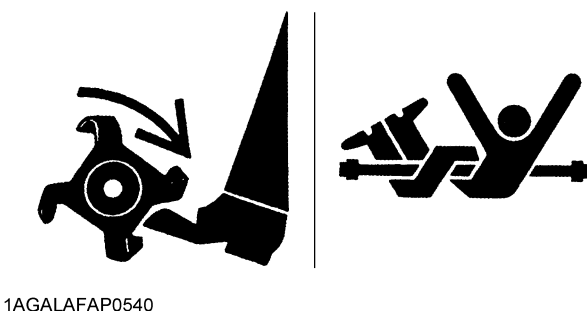
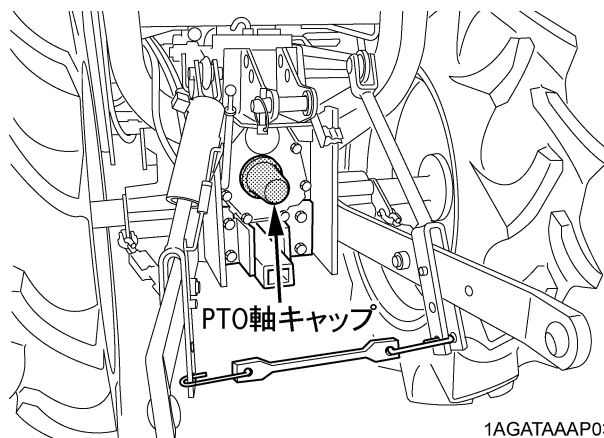
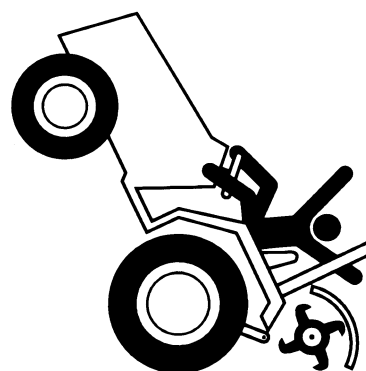
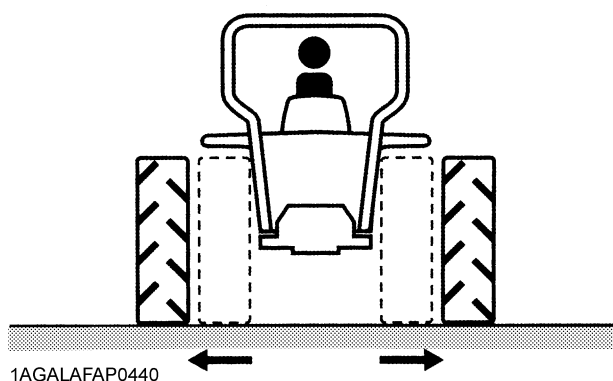
5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

8. ほ場外では，落下速度調整グリップで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。
遅い方向に締めきるとロック（停止）します。

9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
   あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

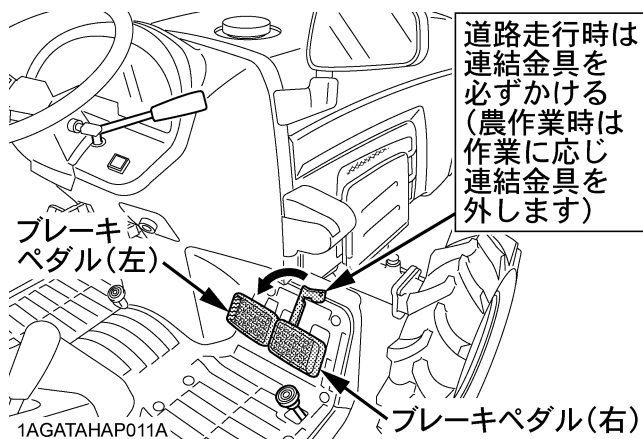
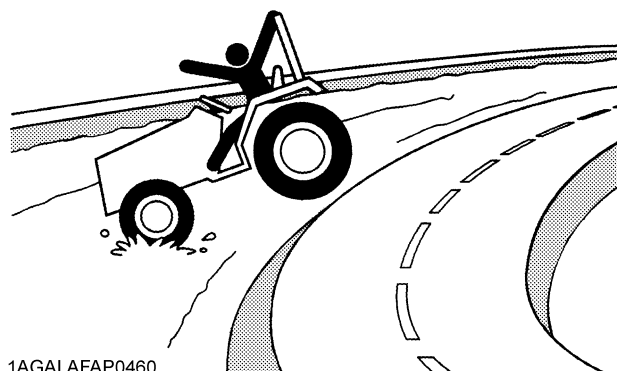
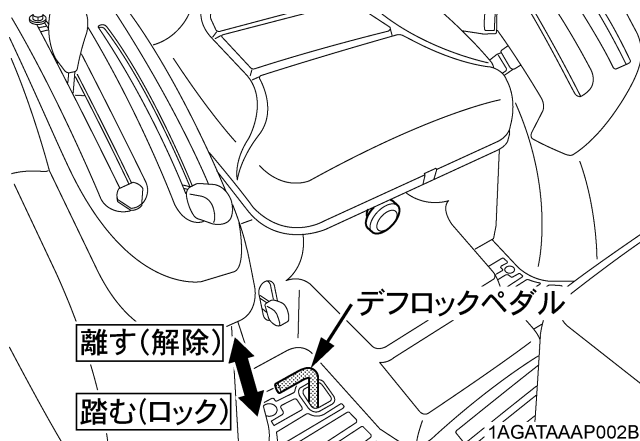
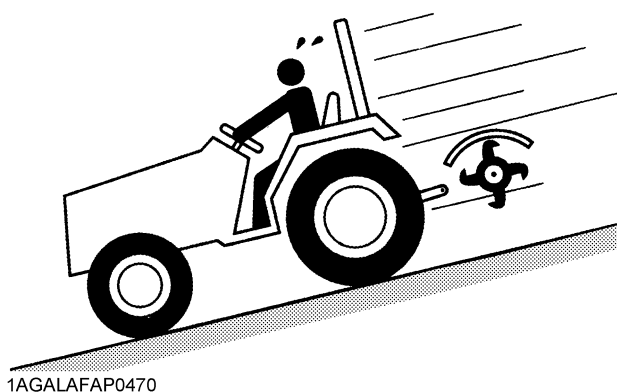
1AGALAFAP0420

11. 倍速ターンはほ場以外では**［切］**にし，使用しないでください。又，高速では倍速ターンを使用しないでください。

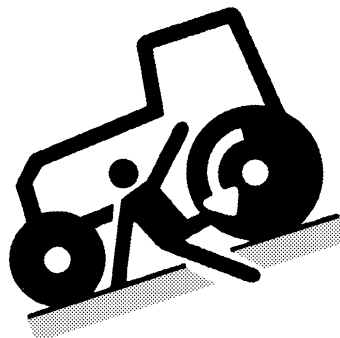
1AGAAAPAP085A

作業機使用時に

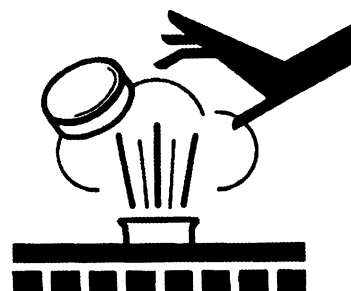
1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなどPTO 作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。

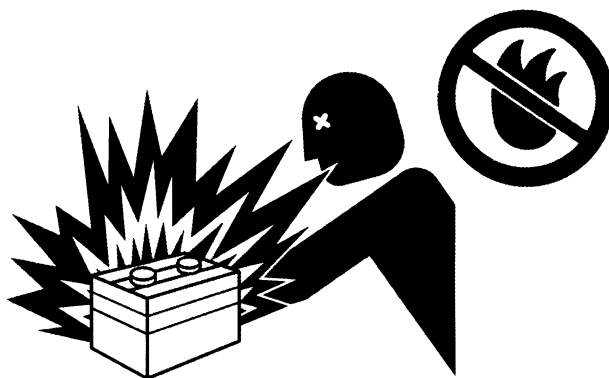
1AGALAFAP0540

3. PTO を使用しないときは，PTO 軸キャップを装着しておいてください。
4. PTO 作業機は，その作業機で定められた PTO 回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故の恐れがあります。

5. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20 ％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。
6. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

7. 傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。

道路走行時に

1. 道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
   高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ，転倒や交通事故の恐れがあります。

2. 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
   ハンドル操作が出来なくなります。
3. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
   高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。

4. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を**［中立］**にして惰性で走行しないでください。
   操縦ができなくなる恐れがあります。
5. トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。(道路運送車両法の保安基準)
6. 交通や安全規則を守ってください。
   運転免許証は，必ず携行してください。

駐車，格納時に

1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTO を **［中立］**，作業機を **［下げ］**，シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）を **［中立］**，駐車ブレーキを **［掛け］**，エンジンを **［停止］** してキーを抜いてください。
   やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行なってください。

1AGAAAPAP078A

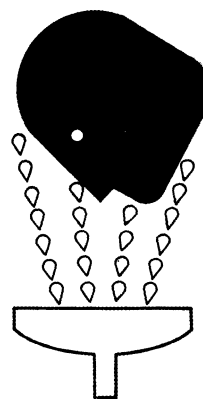
点検・給油・整備時に

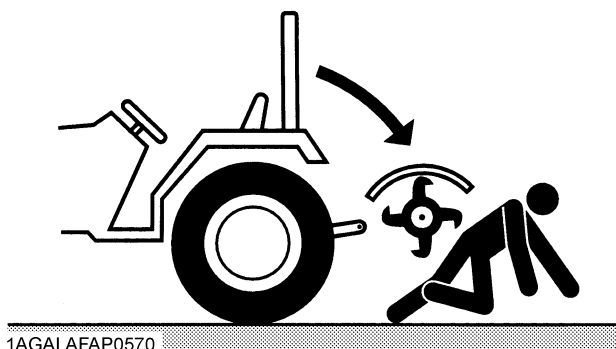
1. 平たんな場所に駐車し，作業機を **［下げ］**，駐車ブレーキを **［掛け］**，シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）と PTO レバーを **［中立］** にし，そしてエンジンを停止してください。
2. エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。

1AGALAFAP0550

3. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
   バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の恐れがあります。
4. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
   （**［運転のしかた］** の章の **［バッテリあがりの処置］** の項を参照）

1AGALAFAP0480

5. バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
   LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
   すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリ）

1ARAEABAP0140

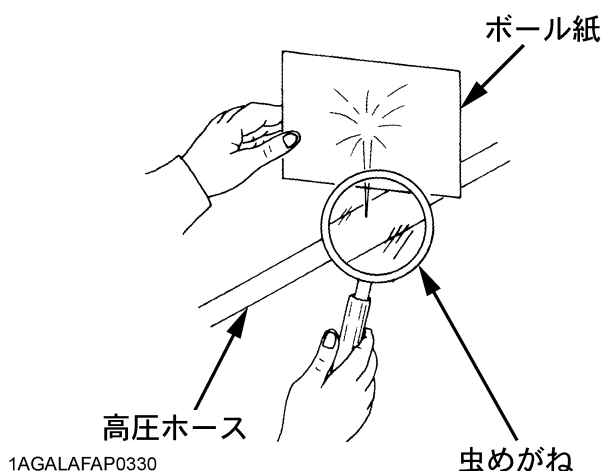
6. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
7. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

8. 作業機を上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず落下速度調整グリップで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。

1AGALAFAP0570

9. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂の恐れがあり死傷事故を引起こす原因になります。
10. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂の恐れがあります。
11. タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

1AGALAFAP0620

12. 油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。圧力がかかり噴出した油は，皮膚を貫通する程の力があり，傷害の原因になります。

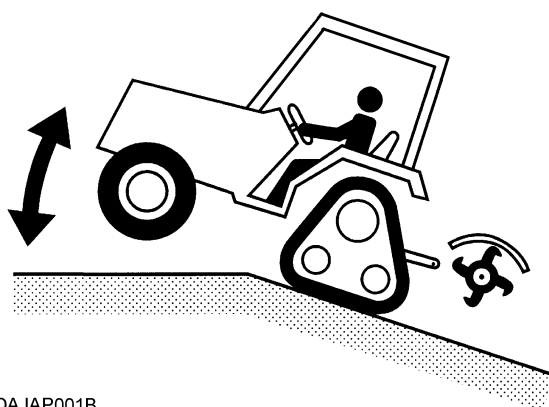
1BAACAAAP0100

13. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚を貫通したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

14. 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

パワクロ仕様の場合

以下の内容は**［パワクロ仕様］**の場合の特別な注意事項を記載しています。前述の注意事項と合わせてよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。

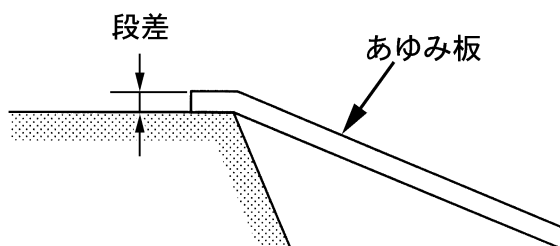
■運転時に

1. 凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなる恐れがあります。
2. クローラ部が凸部を乗越えるときは，急に姿勢が変わりますので十分注意してください。

1AGADAJAP001B

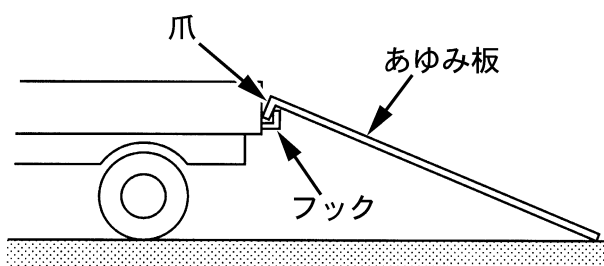
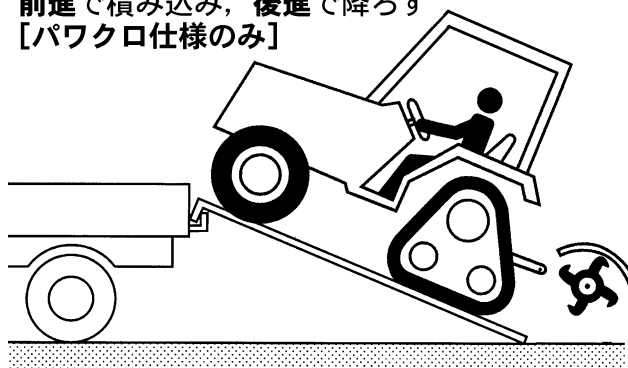
■あゆみ板使用時に

1. あゆみ板は左右の先端をそろえ，前後にずれないように確実に固定してください。
2. あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合，運転には特に注意してください。あゆみ板がはずれる恐れがあります。
3. 途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。
4. あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラックの荷台高さ，あるいはほ場乗入れ部高さの 4 倍以上）のあるすべり止め及び爪付きのものを使用し，パワクロの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

◆ ほ場への出入り

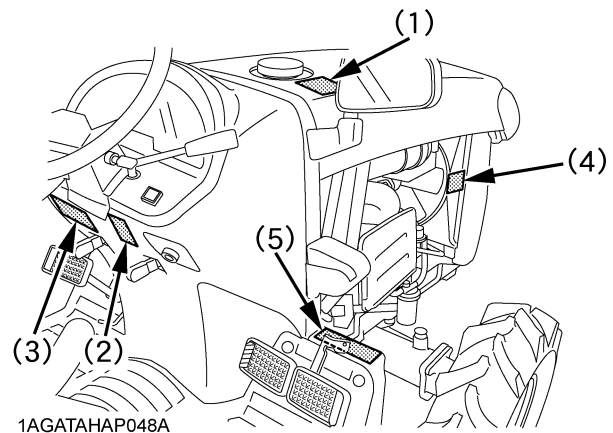
1. クローラの片側だけが段差に引っかかり乗りあがらない状態になった場合，いったん車両を元に戻し，あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。

1AGACBUAP002A

◆ **トラックへの積み・降ろし**

1. トラックは荷台後部にあゆみ板の爪をかけるフックが付いた物を使用してください。
2. トラックへの積み・降ろしは，必ず左右のブレーキペダルを **[連結]** し，**前進で積み込み，後進で降ろして**ください。前進で降りると，クローラがあゆみ板の段差ですべり，前輪が浮いて車体が旋回し，転倒事故につながる恐れがあります。

1AGACBUAP003A

1AGACBUAP004A

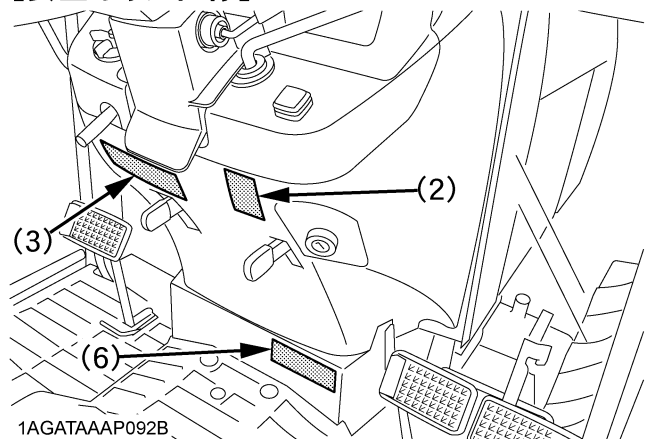
表示ラベルと貼付け位置

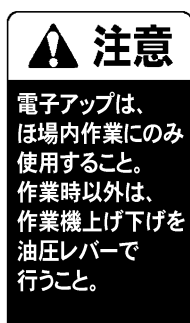
(1) 品番　T1850-4908-2 [MA仕様]

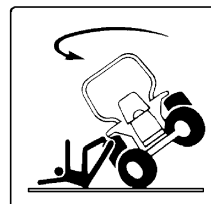
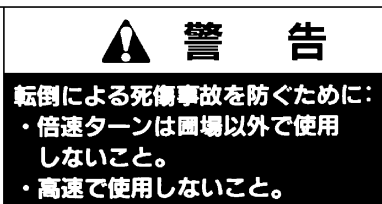
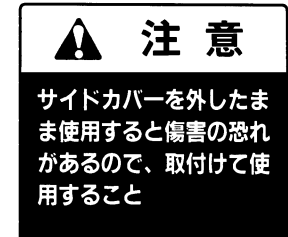
1AGACCBAP123J

1AGATAHAP048A

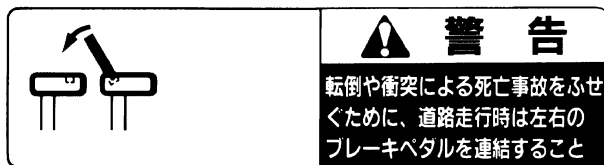
(1) 品番　6A830-4742-0 [MA仕様除く]

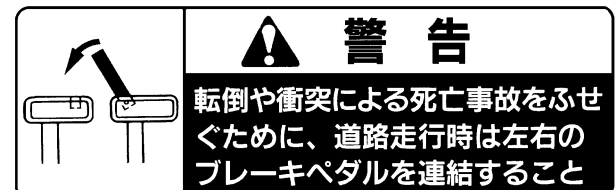
1AGAAAPAP122A

[安全キャブ仕様]

1AGATAAAP092B

(2) 品番　6A100-4757-0

1AGATAAAP003A

(3) 品番　6A100-4763-0

1AGAAAPAP115A

(4) 品番　T0180-4955-0

1AGAAAPAP129A

(5) 品番　6A370-4746-0
標準(安全フレーム)仕様

1AGAAAPAP127A

(6) 品番　6A600-4746-0
安全キャブ(Q)仕様

1AGATAAAP004A

(1) 品番　67980-4907-0

⚠ 注　意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

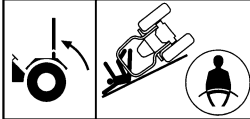
運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴の近く、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

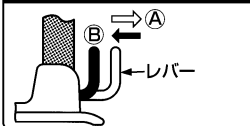
1AGAAAPAP120A

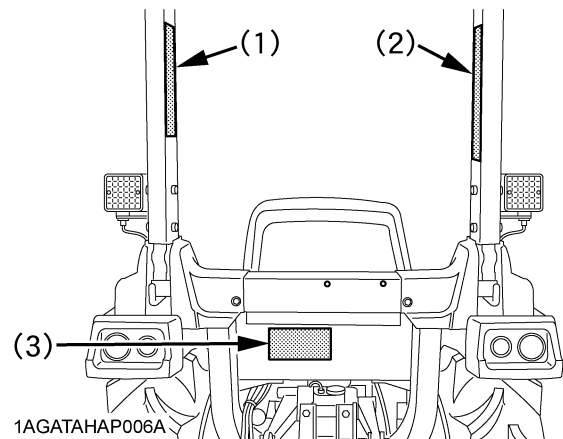
(2) 品番　6A900-4755-0

⚠ 警　告

転倒、転落による死傷事故軽減のために：
- 納屋の出入りなど安全フレームが当たる場合を除き、運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。
- 安全フレームを立てたとき、必ずシートベルトを着用すること。
- 安全フレームを折りたたんだ状態では、シートベルトを着用しないこと。

⚠ 注　意

安全フレームを折りたたんだり、立てたりする時は、下記の手順を守ること。
1. エンジンを止める
2. 作業機をおろす
3. 駐車ブレーキをかける

レバーの操作方法
- 安全フレームを折りたたむ時は、レバーを Ⓐ 方向に引いて止めて下さい。フレームをレバーが Ⓑ 位置に戻るまで後へ倒して下さい。
- 立てる時は、フレームを元の位置に立てて下さい。レバーが Ⓑ 位置に戻っていることを良く確認して御使用下さい。詳しくは取扱説明書をよくお読み下さい

1AGATAHAP0450

[安全フレーム仕様]

1AGATAHAP006A

(3) 品番　6A900-4733-0

⚠ 警　告

転倒による死傷事故をふせぐためにけん引は、けん引ヒッチを使用し、車軸やトップリンクブラケット等で行わないこと

⚠ 警　告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために
- ＰＴＯ軸の回転中は近づかないこと
- 使用しないときは、ＰＴＯ軸キャップを装着すること

純正ロータリ取付位置

PC1, PC2, PC3仕様トラクタのロータリは必ずPC仕様ロータリを装着すること。

1AGATAHAP0440

(1) 品番　T1065-4902-2

注　意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

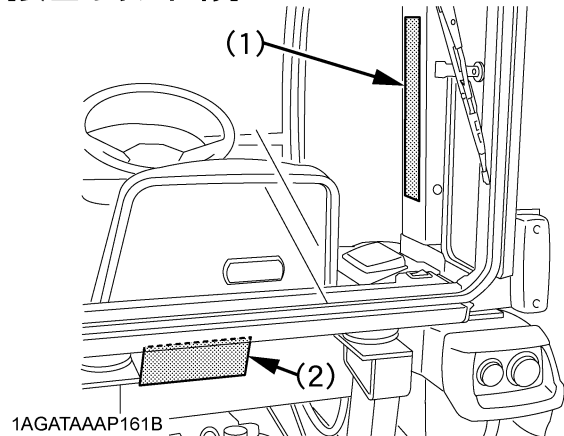
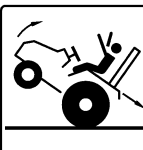
運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること

1AGATAAAP1270

[安全キャブ仕様]

1AGATAAAP161B

(2) 品番　6A900-4733-0

警　告

転倒による死傷事故をふせぐためにけん引は、けん引ヒッチを使用し、車軸やトップリンクブラケット等で行わないこと

警　告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために
・ＰＴＯ軸の回転中は近づかないこと
・使用しないときは、ＰＴＯ軸キャップを装着すること

純正ロータリ取付位置

PC1, PC2, PC3仕様トラクタのロータリは必ずPC仕様ロータリを装着すること。

1AGATAHAP0440

[安全フレーム仕様]

1AGATAAAP012A

[安全キャブ仕様]

1AGATAAAP091A

(1) 品番　T0180-4957-0

1AGAAAPAP128A

(2) 品番　T1060-4954-0

1AGATAAAP007A

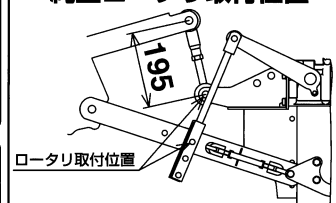
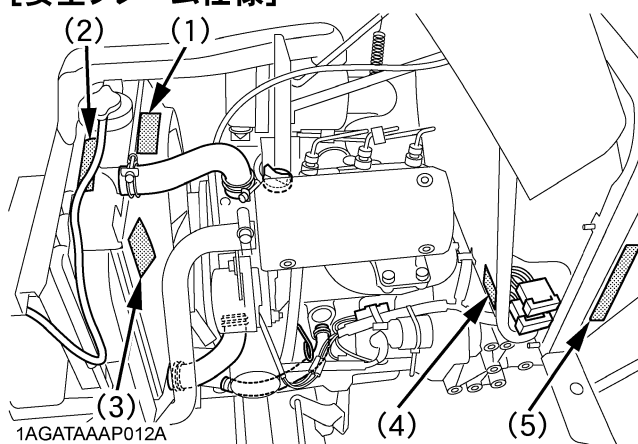
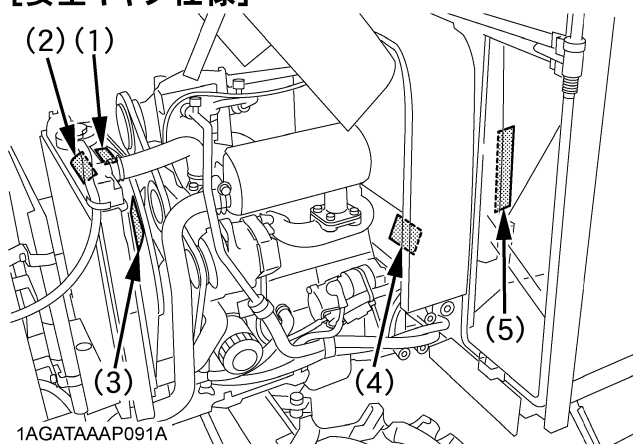
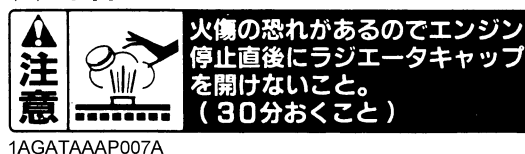
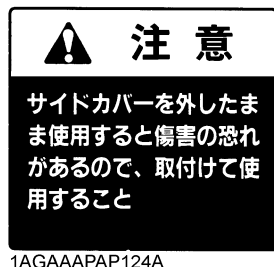
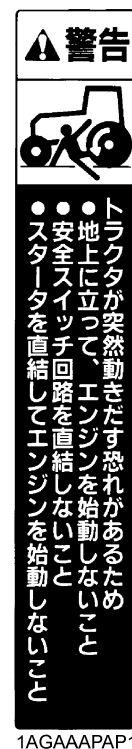
(3) 品番　T0180-4958-0

1AGAAAPAP123A

(4) 品番　T0180-4955-0

1AGAAAPAP124A

(5) 品番　6A700-4743-0

1AGAAAPAP116A

(1) 品番　6A610-4906-0［グライドシフト(F)仕様］

駐車後にトラクタが動く恐れがあるため必ず**駐車ブレーキ**をかけること。
本機は変速ギヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません。

急発進による事故を防ぐために主変速レバーの急激な変速はしないこと。
前後進はN位置で一旦停止して切り替えること。

1AGATAAAP008A

(3) 品番　6A900-5466-2

⚠注意

・給油台の上に乗らないこと
・走行時は折り畳み確実に固定すること

操作方法

1AGATAHAP0430

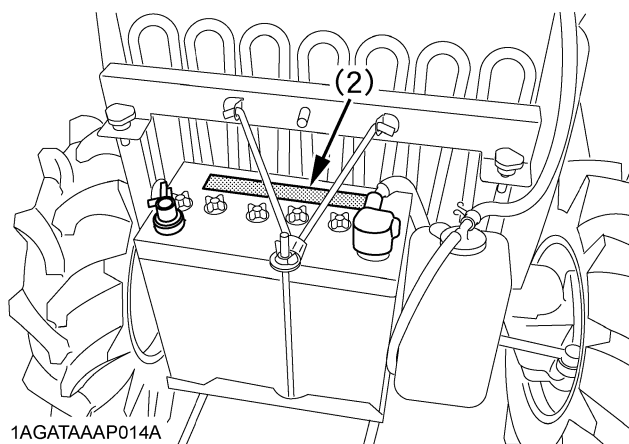
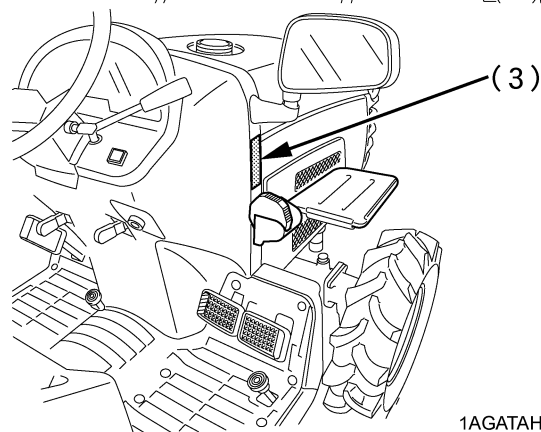
(2) 品番　6A320-5559-0

A548

公称電圧12V

●水素ガス発生，取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
•工具等でショートやスパークをさせない •充電は風通しのよい所で行う
•ブースターケーブルの使用は取扱説明書に従う
●バッテリ液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
液がついたらすぐに多量の水で洗い，目の場合は医師の治療を受ける
●爆発の恐れあり，液面はLOWER以下で使用しない
●液漏れの恐れあり，UPPER以上に補水しない

1AGATAAAP009A

1AGATAAAP013A

1AGATAAAP014A

1AGATAHAP046A

表示ラベルの手入れ

1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ **［ご相談窓口］** を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 農機型式名と車体番号
2. 機関型式とエンジン番号

を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

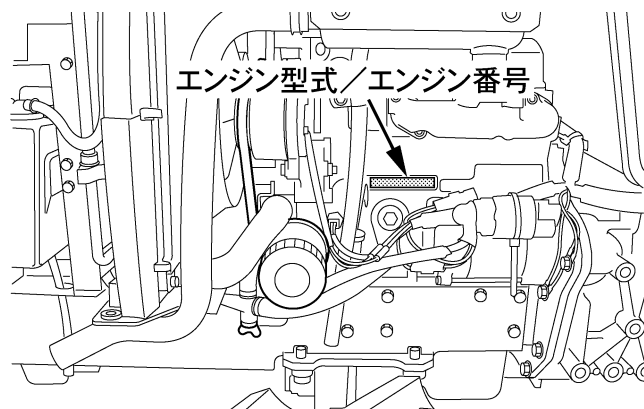
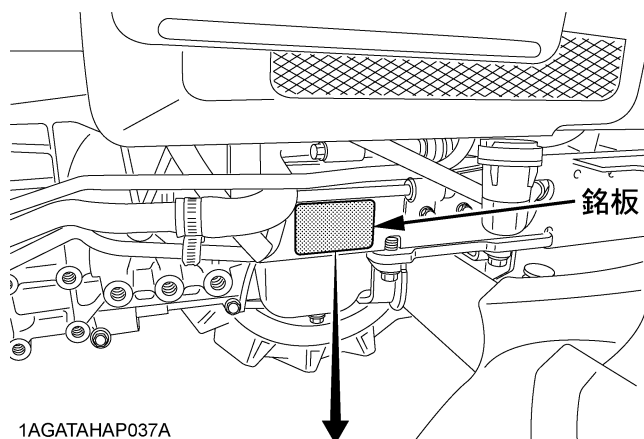
警 告

＊ **機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

農機 型式名	安全 鑑定番号	小型特殊自動車 車両型式名	型式 認定番号
クボタ KB165	申請中	クボタ BF	申請中
クボタ KB165F	申請中		
クボタ KB185	申請中	クボタ BG	申請中
クボタ KB185F	申請中		
クボタ KB205	申請中	クボタ BH	申請中
クボタ KB205F	申請中		
クボタ KB225	申請中	クボタ BJ	申請中
クボタ KB225F	申請中		

農機 型式名	安全フレーム 型式名	型式検査（国検） 合格番号
クボタ KB165	クボタ SF-KB16	204013
クボタ KB165F		
クボタ KB185		
クボタ KB185F		
クボタ KB205		
クボタ KB205F		
クボタ KB225	申請中	申請中
クボタ KB225F		

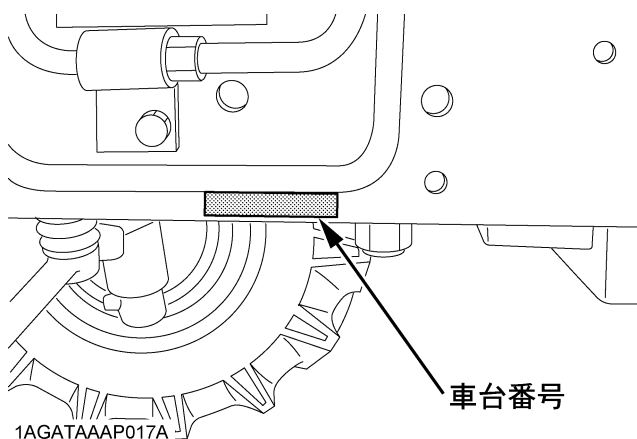
農機 型式名	安全キャブ 型式名	型式検査（国検） 合格番号
クボタ KB205Q	クボタ Q-KB20	204012
クボタ KB205FQ		
クボタ KB225Q		
クボタ KB225FQ		

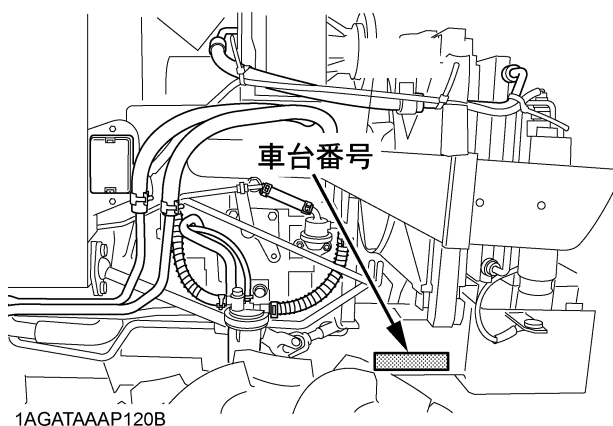
＊検査成績表は巻末をご覧ください。

1AGATAAAP015D

1AGATAHAP037A

農業機械の種類	農用トラクター
農機型式名	クボタ
区分	
車両型式名	クボタ
車台番号	
機関型式	クボタ
連続定格出力	PS/ rpm
無負荷最高回転速度	rpm
製造元	株式会社クボタ

1AGATAAAP016A

[安全フレーム仕様]

1AGATAAAP017A

[安全キャブ仕様]

1AGATAAAP120B

■ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

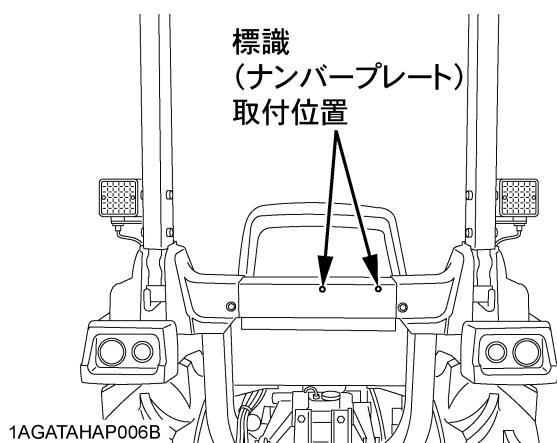
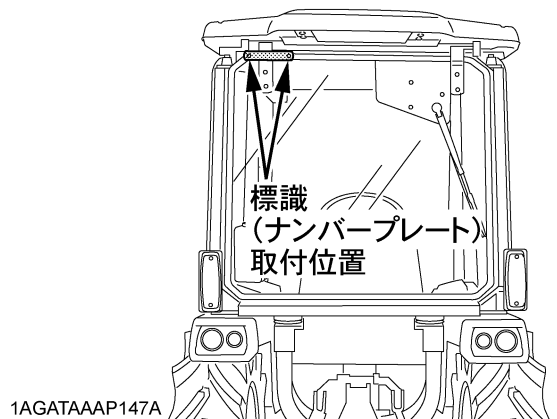
小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は，車体の取付け位置に取付けてください。

◆ **安全フレーム仕様**

◆ **安全キャブ仕様**

■ 運転免許

公道を走行する場合は，小型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず所持してください。

重　要

＊ エンジンで封印されている所はさわらないでください。(封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。)

補　足

＊ インプルメントを装着した状態では **[道路運送車両法の保安基準]** を満足しませんので，道路走行することはできません。
＊ 作業灯は **[道路運送車両の保安基準]** 第 42 条（灯火の色等の制限）において，**[走行中に使用しない灯火]** とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。
＊ 主要諸元表に記載以外の輪距では道路走行しないでください。

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
(**[トラクタの簡単な手入れと処置]** の章を参照。)

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば調整または交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろし駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
2. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

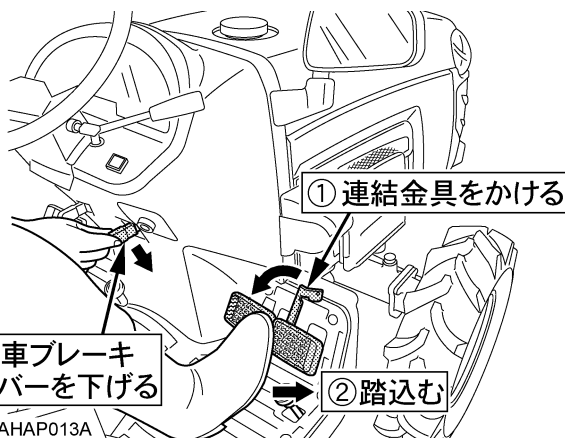
各部への給油と交換
＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定 **[クボタ純オイル]** を使用してください。

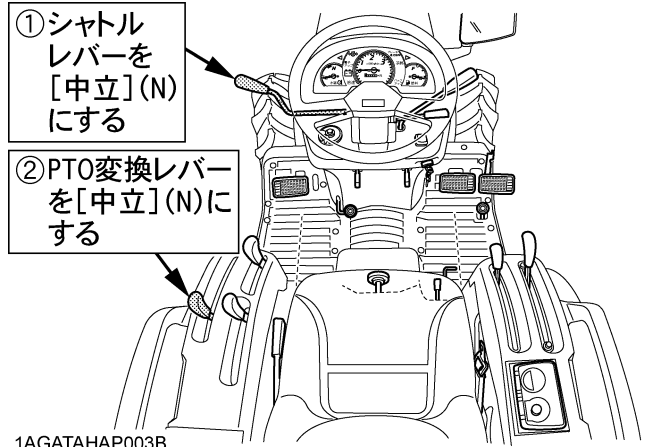
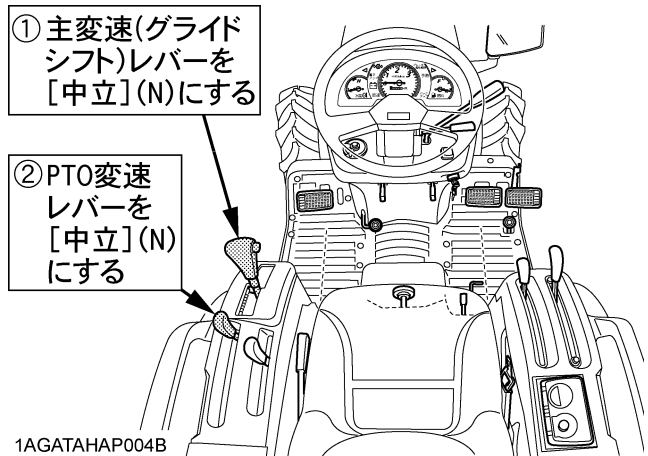
エンジンの始動と停止

警 告

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。
＊ トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）や PTO 変速レバーが［中立］（N）かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊ トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊ 室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

■始動のしかた

1. 駐車ブレーキをかけます。
ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**［下げ］**たまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。

2. 各変速レバーを［中立］（N）にします。

［マニュアルシフト仕様］

［グライドシフト（F）仕様］

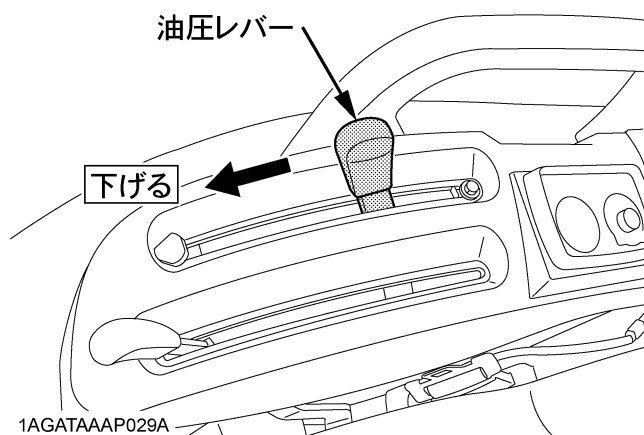
補 足

［マニュアルシフト仕様］
＊ シャトルレバー及び PTO 変速レバーを**［中立］（N）**にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

［グライドシフト（F）仕様］
＊ 主変速（グライドシフト）レバー及び PTO 変速レバーを**［中立］（N）**にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは作動しません。

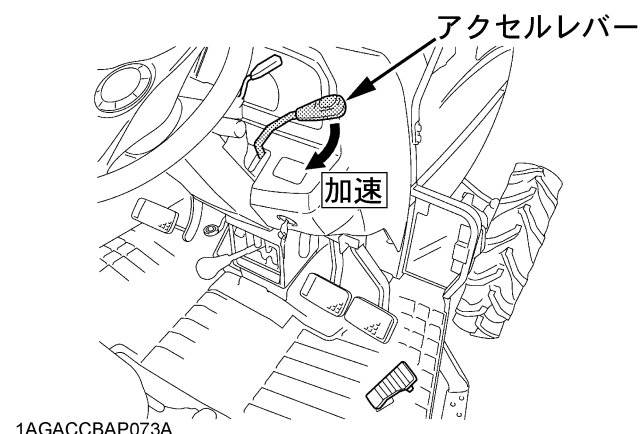
3. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。

4. 油圧レバーを［前方に倒し］作業機を下げます。

1AGATAAAP029A

補　足

＊ 油圧ロックされている場合，作業機は下がりません。
（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）

5. アクセルレバーを［中程］まで引きます。

1AGACCBAP073A

6. クラッチペダルを［踏込み］ます。

7. キーを［予熱］位置に回します。

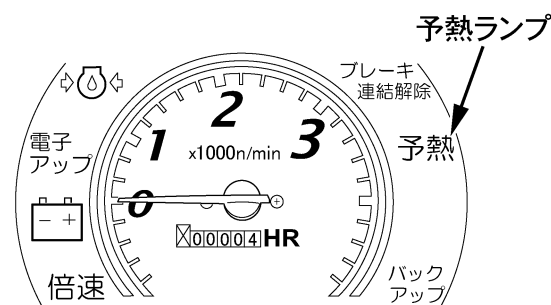
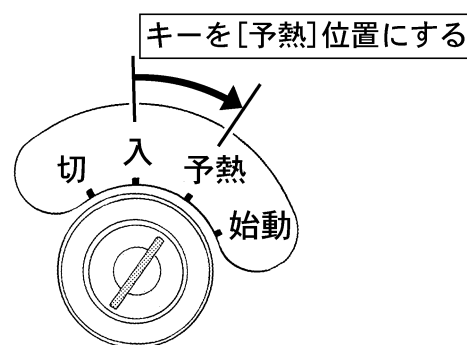
予熱時間は，下表を参考に行なってください。エンジンが暖まっている場合，予熱は不要です。

気　温	予熱時間
0℃以上	2～3秒
0～－5℃	5秒
－5～-15℃	10秒

補　足

＊ 予熱中のみ，予熱ランプが点灯します。

1AGAAAPAP091C

1AGATAHAP007C

8. キーを［始動］位置に回します。

補　足

＊ シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）と PTO 変速レバーを**［中立］(N)**にしないと、安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

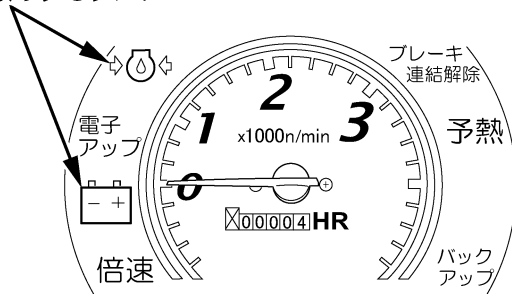
9. エンジンが始動したら，キーから手をはなします。

自動的に［入］にもどります。

重　要

＊ エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。

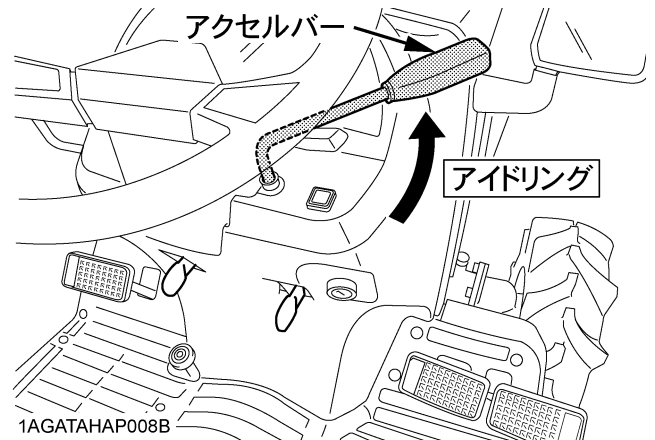
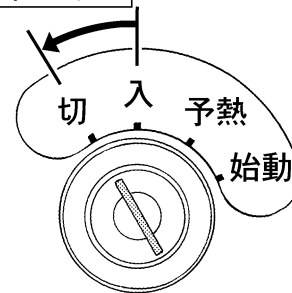
10. イージーチェッカランプが［ 消灯 ］したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

1AGATAHAP007D

11. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま 5 分程度暖機運転しましょう。

■停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱい前へ［ 押し ］てアイドリング状態にします。

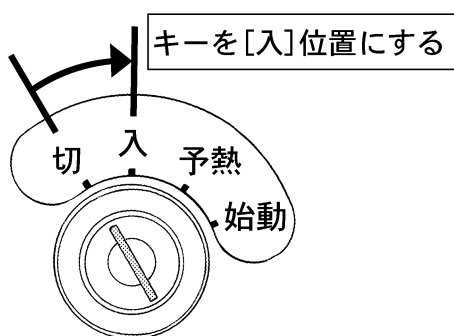
1AGATAHAP008B

1. キースイッチのキーを［切］の位置にすると，エンジンは停止します。

1AGAAAPAP091B

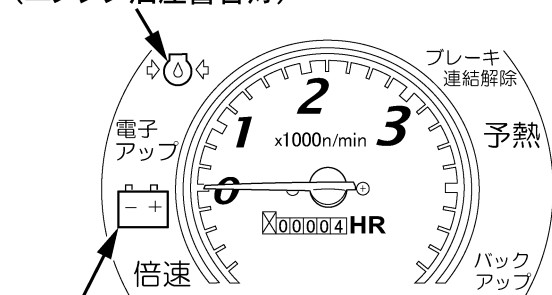
2. キーは必ず［抜き］ましょう。

重　要

＊ キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーを抜いてください。

■キースイッチ

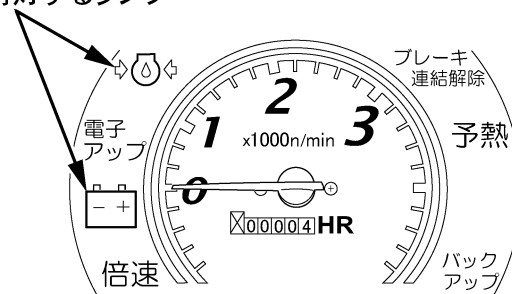
切……… エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。
入……… エンジン回転中の位置。
予熱…… 燃焼室内を予熱する位置。
始動…… エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に**[入]**に戻ります。

1AGAAAPAP091A

◆ **イージーチェッカ**
キースイッチを**[入]**位置にすると，エンジンオイルランプ（エンジン油圧警告灯），バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）が点灯します。

1AGATAHAP007B

補　足
＊ 各レバーやスイッチの位置により，上記以外のランプも点灯又は点滅する場合があります。

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。

バッテリチャージランプ
（バッテリ充電警告灯）
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
キースイッチを**[入]**にすると点灯し，始動すると消灯します。
点灯したままのときは，点検してください。

エンジンオイルランプ
（エンジン油圧警告灯）
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。
キースイッチを**[入]**にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，点検してください。

1AGATAHAP007D

■寒冷時の暖機運転

＊ **換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。**
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ **暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。**

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

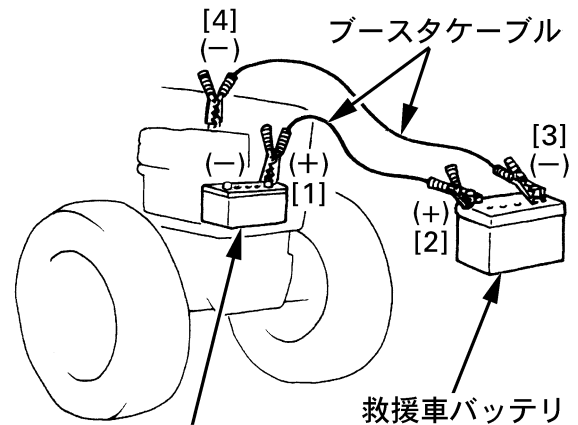
◆ **グライドシフト（F）仕様**

ミッションやステアリングを油圧で作動させており，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な機能が得られないばかりか故障の原因になります。

気温	暖機運転時間
0℃以上	約５分間
0℃以下	10 分間以上

■バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
＊ バッテリの（＋）端子同士を接続します。
＊ マイナスケーブルの他端［４］の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
（マイナスケーブルの他端［４］を直接バッテリの（－）端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。）

2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
（**［運転のしかた］** の章の **［エンジンの始動と停止］** の項を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず 12V バッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。

■ならし運転（最初の約 50 時間）

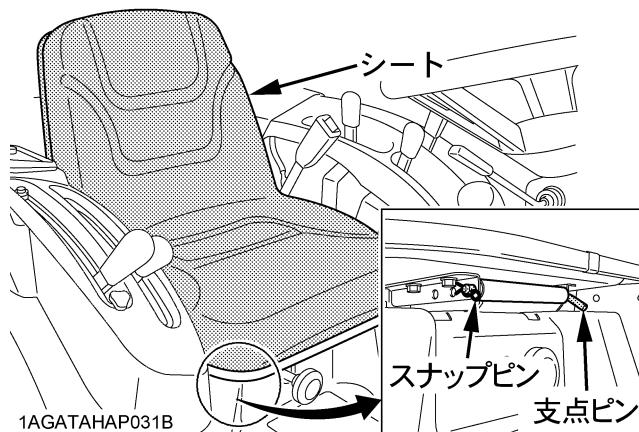
この期間中は，特に次のことを厳守してください。

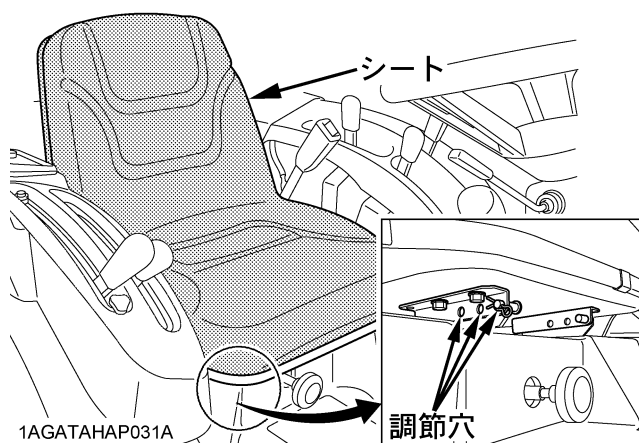
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしてください。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なってください。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行してください。
5. 50 時間使用後，**［定期点検箇所一覧表］**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席周りの調節

■シート

［安全フレーム仕様］

1. シート下のスナップピンと支点ピンを外し，ピン穴を移動すると，前後３段階に調節できます。調整後は確実にスナップピンを差し込んでください。
2. 雨のときは，シートを前に倒しておくと座席がぬれません。

［安全キャブ仕様］

1. シート下のスナップピンを外し，ピン穴を移動すると，前後３段階に調節できます。調整後は確実にスナップピンを差し込んでください。

■安全キャブ・安全フレームとシートベルトについて

⚠ 警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

＊ トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。

＊ 納屋の出入りやハウス作業など，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを取付けて立て，確実に固定し，必ずシートベルトを着用してください。

＊ 安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。

＊ 安全キャブ又は安全フレームの改造を絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

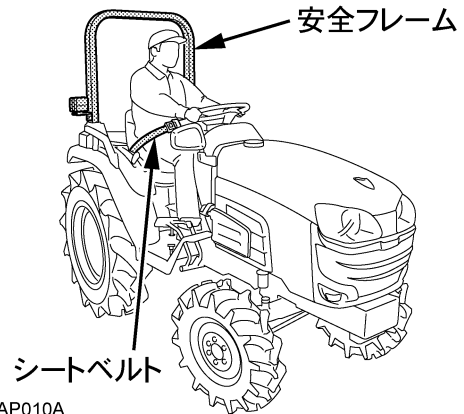
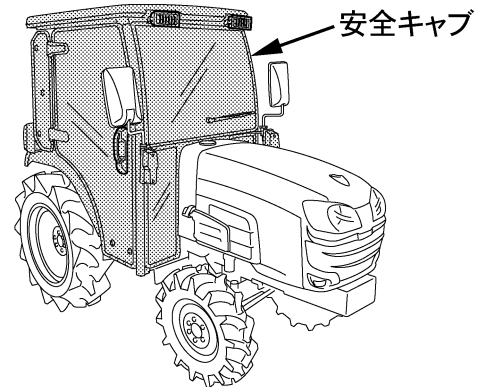
＊ 安全フレームを立てたときは，左右のレバーを押込んで確実に固定してください。また日常点検時，レバーにガタがないか確認してください。

＊ 安全フレームが確実に固定されているか確認してください。

＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

＊ 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。

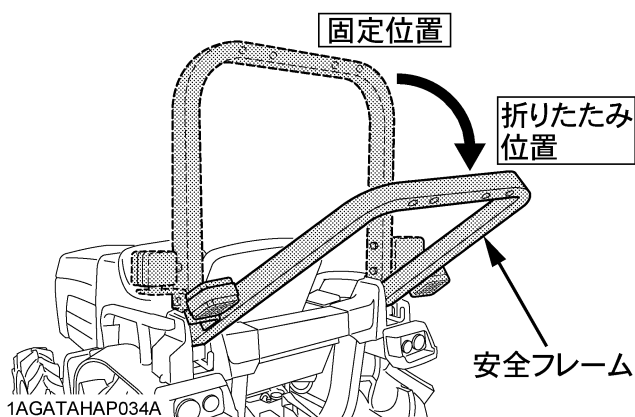
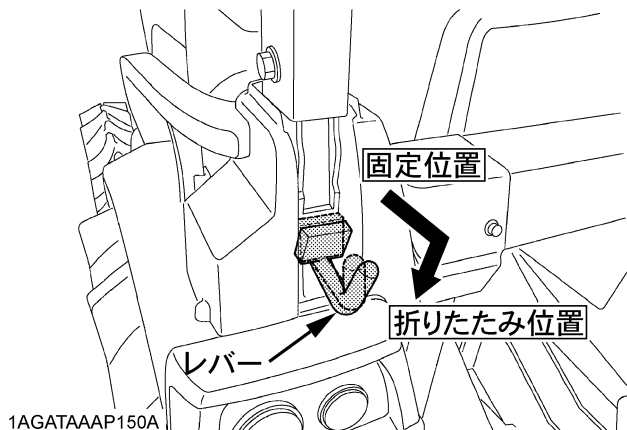
補　足

＊ 安全フレームや安全キャブは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。

1AGATAHAP010A

1AGATAHAP002A

◆ 折りたたみ方法

1. レバーを後方へ引き，そのまま少し下側に下げロックを解除します。（左右共）
2. 次に，安全フレームをゆっくりと後方へ折りたたんでください。

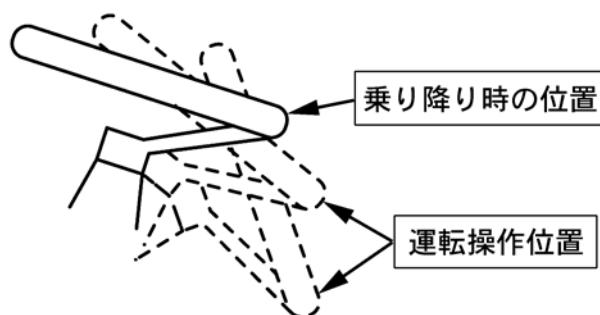
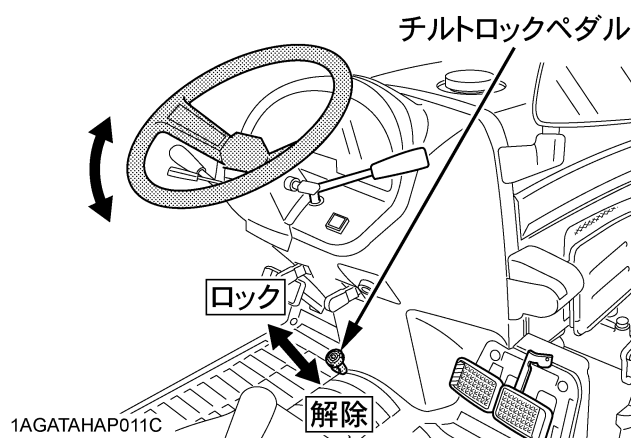
補　足

＊ 安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。

◆ 起こす方法

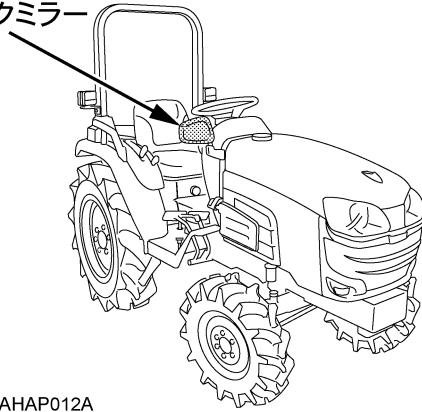
1. 安全フレームを前方へ動かなくなる位置まで完全に起こします。
2. ロックレバーで安全フレームが確実にロックされているか（左右共），また安全フレームにガタがないか確認してください。

■チルトステアリングハンドル

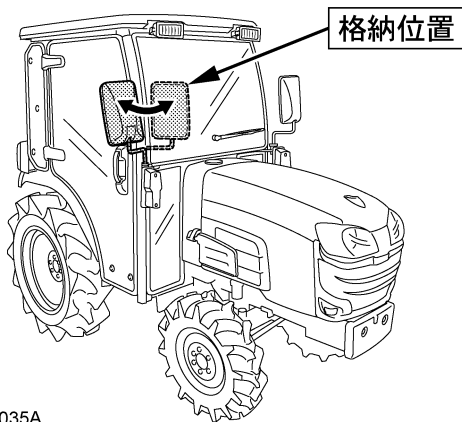
＊ 走行中の調節はしないでください。
＊ 調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

チルトステアリングの操作はチルトペダルを踏み込んで，適当な位置でペダルをはなして位置を決めてください。

■バックミラー

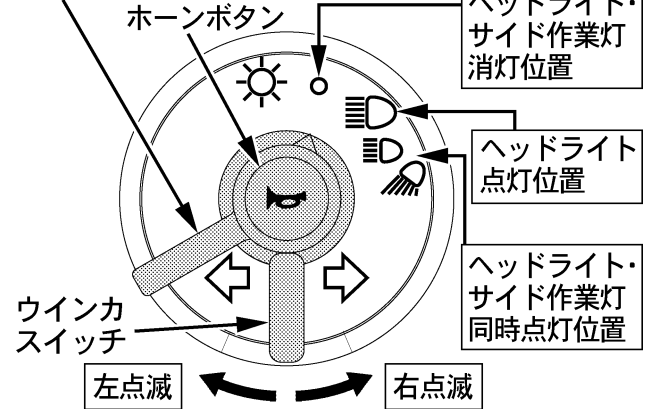
後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。

◆ 安全フレーム仕様

1AGATAHAP012A

◆ 安全キャブ仕様

1. バックミラーは，上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
2. 狭い場所へ格納時折りたたんでください。

1AGATAHAP035A

灯火類の操作

■コンビネーションスイッチ

1AGAUAAAP062A

◆ ヘッドライト・サイド作業灯スイッチ

O ･･･ヘッドライト・サイド作業灯消灯位置

･･･ヘッドライト点灯位置

･･･ヘッドライト･サイド作業灯同時点灯位置

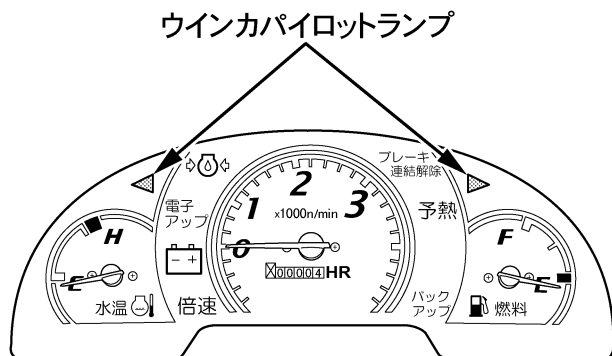
重　要

＊ サイド作業灯を使用する時（ヘッドライトも同時に点灯します。）は，エンジン回転を1800rpm 以上で使用してください。

補　足

＊ 作業灯はサイド作業灯を含め **［道路運送車両の保安基準］**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

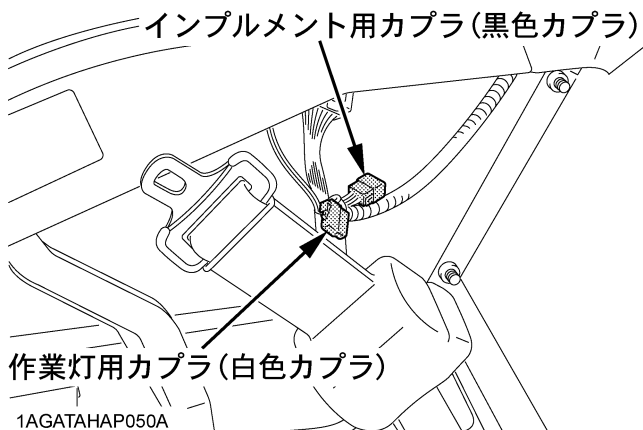
◆ **ウインカスイッチ**

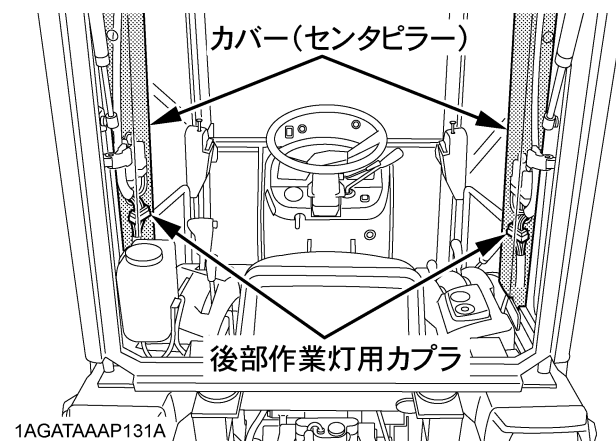
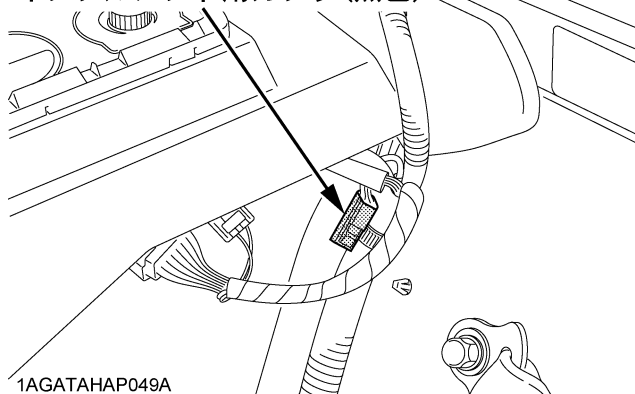
1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

◆ **ホーンボタン**

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

■外部電源取出端子

[安全フレーム仕様]

作業灯，インプルメント用電源を使用するときは，シート後部にカプラがあります。

[安全キャブ仕様]

後部作業灯用のカプラは，左右のカバー（センタピラー）の中にあります。

走行装置の取扱い

■発進・走行

警 告

＊ トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
また，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊ 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊ 坂を下りるとき，クラッチを切ったり変速を［中立］にして惰性で走行しないでください。
＊ 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。
デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
周囲の状況をよくみて，安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況によく注意して運転してください。
＊ 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

［マニュアルシフト仕様］

1. 駐車ブレーキを確認し，エンジンを始動します。
（**［運転のしかた］**の章の**［エンジンの始動と停止］**の項を参照）
2. 油圧レバーを［後方に引き］作業機を上げます。
（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）
3. クラッチペダルを踏込みます。
4. 作業に応じ前輪駆動および倍速ターンを切換えます。
5. エンジンを加速します。
6. 走行速度を選択します。
7. 駐車ブレーキを解除します。
8. クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

［グライドシフト仕様］

1. 駐車ブレーキを確認し，エンジンを始動します。
（**［運転のしかた］**の章の**［エンジンの始動と停止］**の項を参照）
2. 油圧レバーを［後方に引き］作業機を上げます。
（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）
3. クラッチペダルを踏込みます。
4. 作業に応じ前輪駆動および倍速ターンを切換えます。
5. 副変速レバーを**［低］・［中］**又は**［高］**に入れます。
6. エンジンを加速します。
7. 駐車ブレーキを解除します。
8. グライドシフトレバーをゆっくり操作し，発進します。

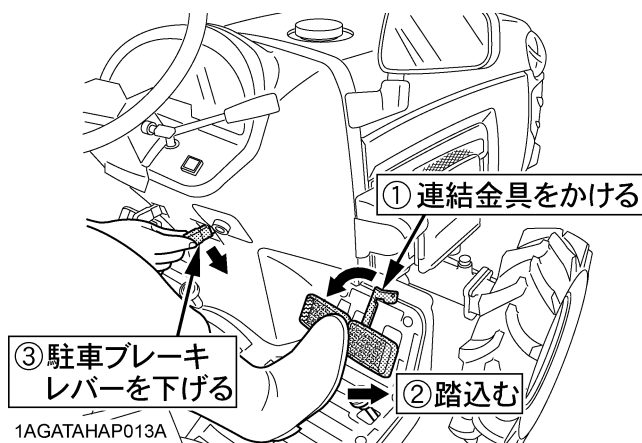
■停車・駐車

警告

＊ グライドシフト(F)仕様は油圧ミッションのため，変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキをかけてください。

注意

＊ 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー(主変速)とPTOレバーを［中立］(N)，作業機を［下げ］，駐車ブレーキを［掛け］，エンジンを［停止］してキーを抜いてください。
＊ やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊ 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
＊ 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。
＊ トラクタから降りるときは，ロータリなどのPTO作業機が完全に止まるまで待ってください。

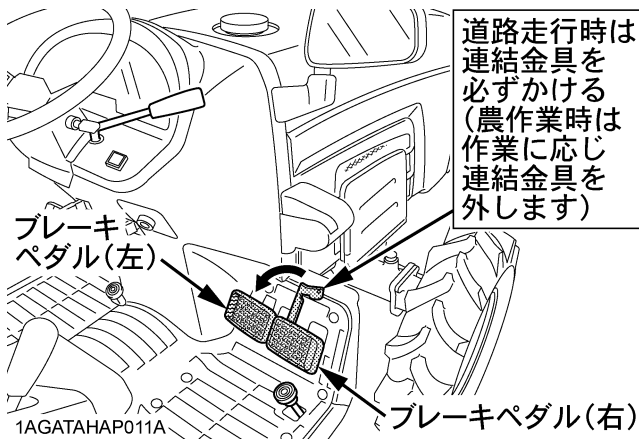
1. アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
2. クラッチ及びブレーキペダルを［踏込み］ます。
3. **［マニュアルシフト仕様］**
   完全に停止してからシャトル及びPTO変速レバーを**［中立］(N)**にします。
   ［グライドシフト（F）仕様］
   完全に停止してから，主変速及びPTO変速レバーを**［中立］(N)**にします。
4. 作業機を取付けている場合は，油圧(ポジションコントロール）レバーをゆっくり**［前方に倒し］**作業機を下げます。
5. 駐車ブレーキを確実に**［掛け］**てください。

6. キースイッチを**［切］**にして，エンジンを停止します。

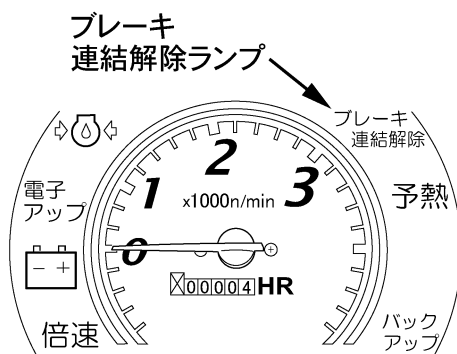
■ブレーキペダル

警 告

＊ 道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。ただしこれは農作業時に作業に応じて安全に十分注意して行なってください。また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。

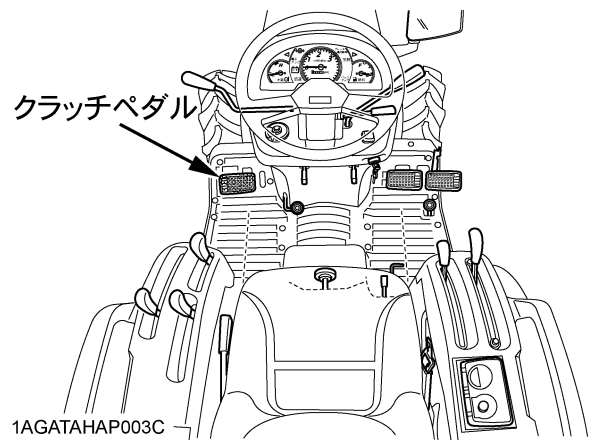
連結金具をかけた状態………道路走行時。

◆ ブレーキ連結解除ランプ

ブレーキペダル連結金具を外すと**ブレーキ連結解除**ランプが点灯します。道路走行時などでは連結金具をかけ，ブレーキ連結解除ランプの消灯を確認してから，走行してください。

■クラッチペダル

注 意

＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。
ゆっくり行なってください。

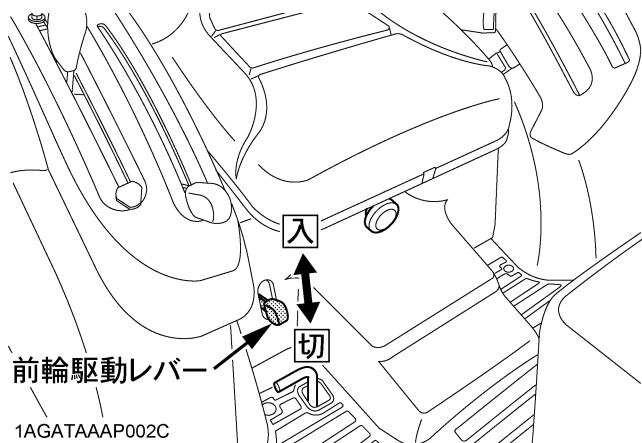
クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。

ペダルを踏込む…………クラッチが切れる。
ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

補 足

＊ 下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。

- 主変速レバー　**［マニュアルシフト仕様］**
- シャトルレバー**［マニュアルシフト仕様］**
- 副変速レバー
- PTO 変速レバー
- 倍速ターンレバー

■前輪駆動レバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み操作します。
前輪駆動［入］………４輪が駆動される。
前輪駆動［切］………前輪駆動が切れる。

重　要

＊ 前輪駆動レバーは，［入］か［切］の位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

◆ ４輪駆動の使い方

４輪駆動は，次のような場合に使用してください。

1. 傾斜地，湿田，トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

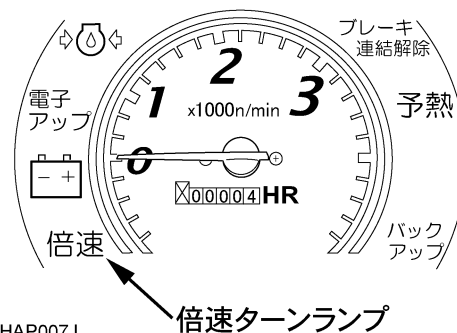
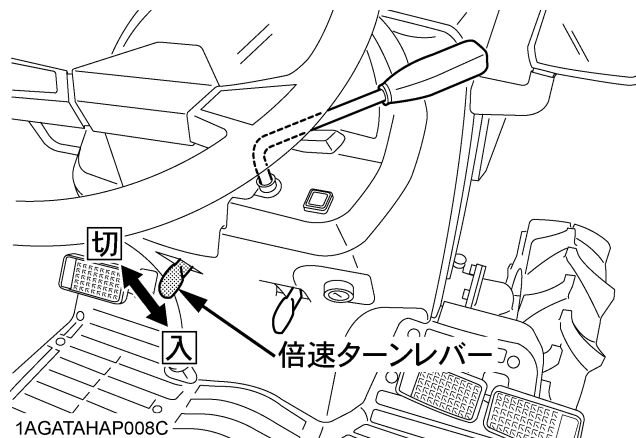
■倍速ターンレバー

警　告

＊ 倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に必ず倍速ターンを［切］にしてください。
＊ 倍速ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

倍速ターンレバーの操作は，トラクタを停止させ，前輪タイヤを直進状態にしてから行なってください。
レバーを［入］にする……倍速ターンが入ります。（キースイッチが ［入］のときは倍速ターンランプが点灯します）
レバーを［切］にする……倍速ターンが切れます。

補　足

＊ 倍速ターン使用時は，前輪駆動レバーも［入］にしてください。

重　要

＊ ローダ，トレーラなど前輪に重荷重がかかる作業や速度の速い作業には，使用しないでください。
＊ 倍速ターンレバー［入］・［切］は，前輪タイヤが直進の状態で行なってください。
＊ 倍速ターンの高速けん制
倍速ターンレバー［入］の状態で副変速レバーを［高］にすると，倍速ターンは自動的に［切］となり（倍速ターンレバーは動きません。また，キースイッチ［入］のときは倍速ターンランプは点灯したままです），副変速レバーを［中］または［低］に戻すと倍速ターンは［入］に復帰します。この使用法はほ場内だけにし，道路走行では倍速ターンレバーを［切］にしてください。
＊ 倍速ターンレバーは［入］か［切］の位置にしてください。
中間の位置で運転すると故障の原因になります。

■各変速レバーの取扱い

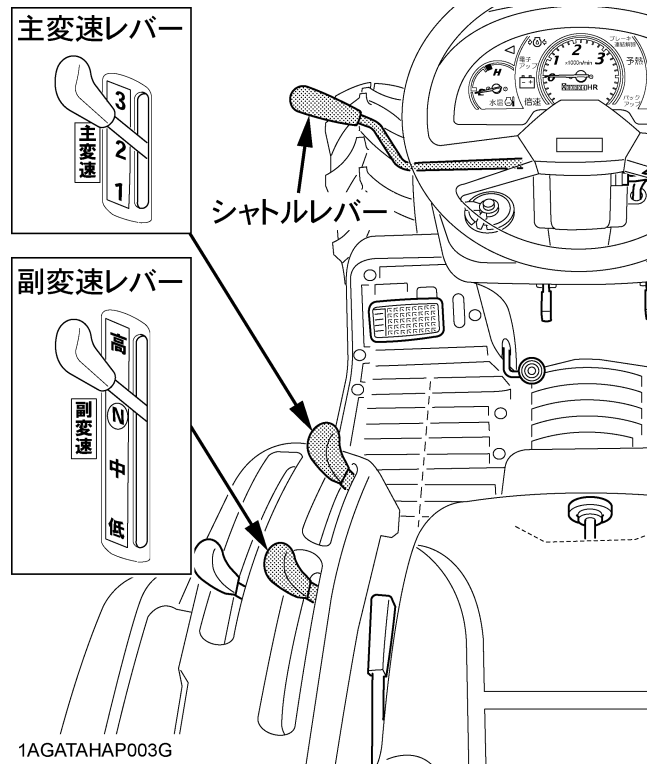
下記レバーを組合わせて各作業に適した速度にします。

- 主変速レバー（グライドシフトレバー）
- 副変速レバー
- シャトルレバー

各作業に適した速度（目安）

作業名	速度　km/h
畦塗り・トレンチャ	～ 0.5
ロータリ	0.5 ～ 2.5
代かき・スキ	2.5 ～ 7.0
走行	7.0 ～

（［付表］の章の［走行速度表］の項を参照）

■マニュアルシフト仕様

３本のレバー操作を組合せることにより，前進９段・後進９段の車速が得られます。

重　要

＊ 操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。
＊ 各変速レバーは各変速位置にしてください。
中間の位置で運転すると故障の原因になります。

◆ **シャトルレバー**

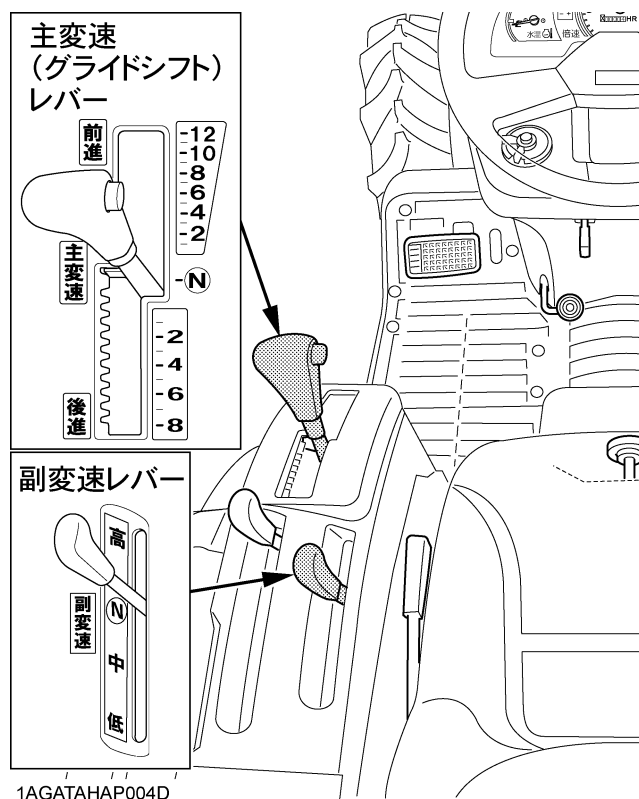
警 告

＊ 急発進を避けるため，エンジン回転を下げてからシャトルレバーを操作してください。
＊ ［前進］←→［後進］のシフト操作は，いったん［中立］位置にして，トラクタの停止を確認してから操作してください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。後進する場合は，周囲の状況が安全であることを確認してからシャトルレバーを［後進］位置に入れて，安全な速度で後進してください。また後進中は，特に周囲の状況をよく注意して運転してください。

レバーを持ち上げ，前に押して **［前進］**，手前（後）に引いて **［後進］** です。

◆ **主変速レバー**
レバー１本で３段の車速が選択できます。

◆ **副変速レバー**
レバー１本で **［低速・中速・高速］** が選択できます。トラクタに貼付けられている作業速度表などを参考に適切な車速を選択してください。

■グライドシフト仕様

重 要
＊ グライドシフトレバーを前進または後進にしたままクラッチを使用して発進させないでください。

◆ **副変速レバー**
レバー１本で **［低速・中速・高速］** が選択できます。トラクタに貼付けられている作業速度表などを参考に適切な車速を選択してください。

重 要
＊ 副変速レバーの切換えは，必ず主変速（グライドシフト）レバーを **［中立］（N）** の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。
＊ 副変速レバーは，走行中に変速することはできません。クラッチペダルを踏込んでトラクタを停止させてから行なってください。
＊ 副変速レバーの操作時，レバーが入りにくくなるときがあります。その時はグライドシフトレバーを少し動かしてから **［中立］（N）** に戻し，再度クラッチペダルを踏込み副変速レバーを操作してください。

目次
困ったときには
安全
サービスと保証
小特の取扱い
運転のしかた
作業のしかた
安全キャブ
装備品の取扱い
トラクタの簡単
な手入れと処置
付表
索引

◆ 主変速（グライドシフト）レバー

注 意

＊ 安全のため，主変速（グライドシフト）レバーの急激な変速は避けてください。また，前後進の切換えはレバーを［中立］(N) の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

レバーを前に押して **[前進]**，手前（後）に引いて **[後進]** です。発進及び走行中にクラッチペダルを踏まずに（ノークラッチ），変速することができます。トラクタを効率よく性能を維持して使っていただくために，作業はできるだけエンジン 1500 回転／分以上で行ないましょう。

補 足

＊ 前後進とも，主変速レバーを右に倒しながら前後に操作することで **[中立] (N)** 位置から無段階に加速・減速ができます。速度の固定は，レバーの爪をガイドの左側の溝に合わせることで前進 12 段，後進８段の選択ができます。
トラクタに貼付けられている作業速度表などを参考に適切な車速を選択してください。

◆ 上限速度設定ボタン

上限速度設定ボタンを使うと，上限速度の設定・解除が前・後進それぞれ独立に行なえます。作業速度を設定したり，後進速度を規制したい場合に便利です。

＜使い方＞

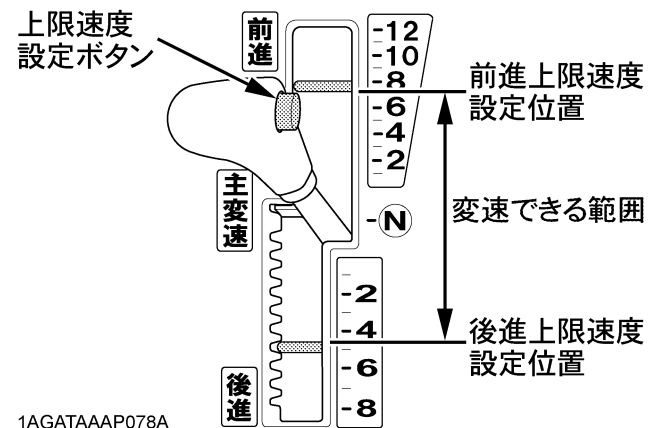
(上限速度の設定)

- 上限速度設定ボタンを押しながら主変速（グライドシフト）レバーを前後に操作します。選択した速度位置で，レバーの爪とガイドの溝を合わせて速度を固定し，次にボタンを離すとその位置に上限速度が設定されます。
- 上限速度設定ボタンを押さずに，主変速（グライドシフト）レバーを操作すれば上限速度以上に車速を上げることはできなくなります。

(上限速度の解除)

- 上限速度設定ボタンを押せば上限速度の設定は解除されます。

(上限速度を設定する必要のない場合)

- 前進側では前進最高速（「12」）位置で，後進側では後進最高速（「８」）位置で上限速度設定を行なっておき，ボタンを押さずに主変速（グライドシフト）レバーを操作すれば前後進それぞれ最高速まで自由に変速できます。

補 足

＊ 前進側は１～３まで，後進側は１～２までの間，上限速度の設定はできません。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆ アクセルレバー

主に農作業時に使用する。

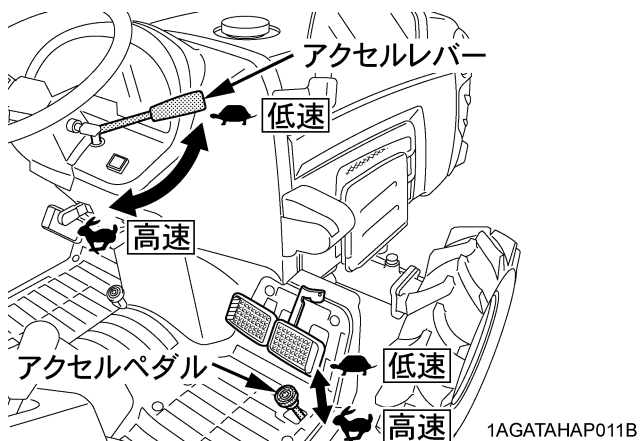
……レバーを手前に引くと, エンジン回転が上がる。

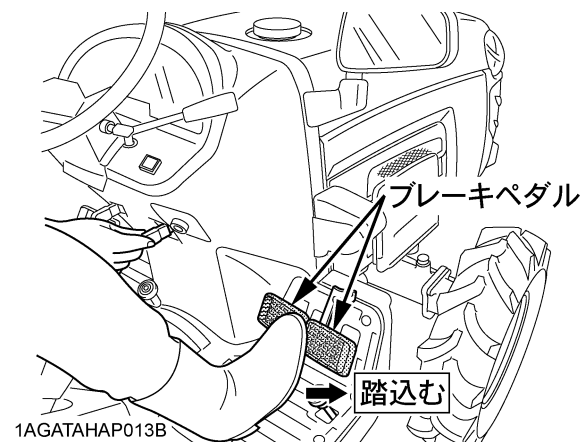
……レバーを前側に押すと, エンジン回転が下がる。

◆ アクセルペダル

主に道路走行時に使用する。

ペダルを踏込む……… エンジン回転が上がる。

ペダルから足を離す… アクセルレバーで設定したエンジン回転まで下がる。

■駐車ブレーキの解除のしかた

ブレーキペダルを【踏込む】と駐車ブレーキレバーが解除されます。

運転中の作動確認

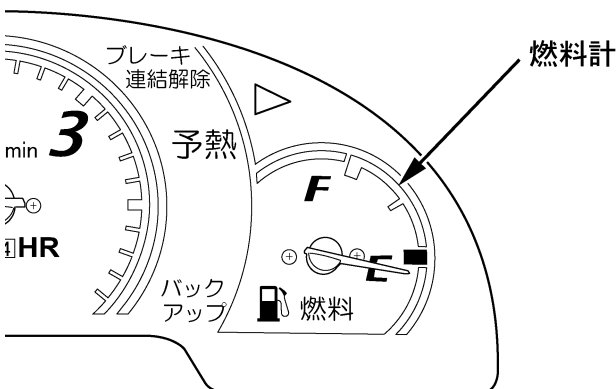
トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

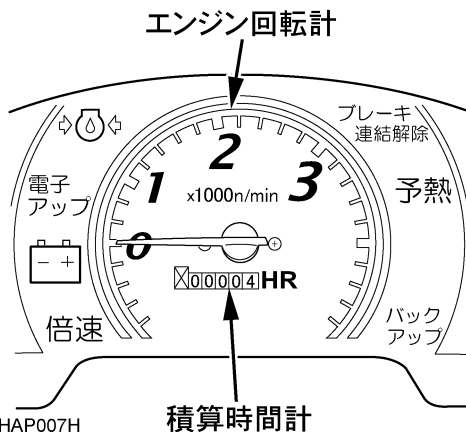
次の場合は，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■燃料計

指針が **［E］** に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
（**［必要に応じた点検・整備］** の **［燃料の空気抜きのしかた］** の項を参照）

1AGATAHAP007F

■トラクタメータ

1AGATAHAP007H

◆ 積算時間計

積算時間計は5桁になっており，初めの4桁は時間，最後の1桁は1 /10 時間（6倍すると **［分］** 単位）を示します。

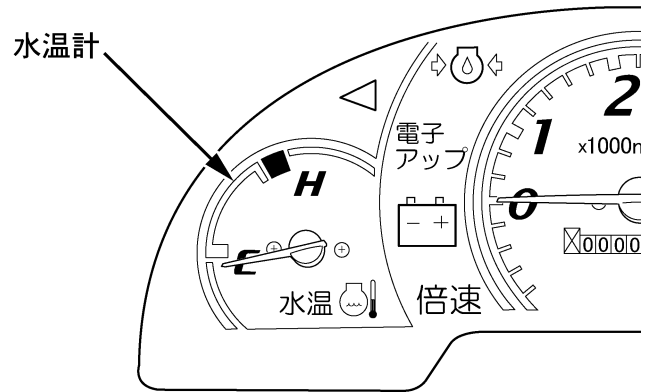
◆ エンジン回転計

1分間のエンジン回転速度を示します。

■水温計

注 意

＊ **ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。**

指針が **［H］**（レッドゾーン）を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。

1AGATAHAP007G

◆ オーバヒートしたときの処置

オーバヒート（水温計の針が **［H］** にあるとき）したときは，

1. 作業を中止し，
2. エンジンを約5分間アイドリング回転してから，
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。
   (1) リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
   (2) 防虫網及びラジエータフィンに，泥やゴミが付着していないか。
   (3) ファンベルトのゆるみがないか。

重 要

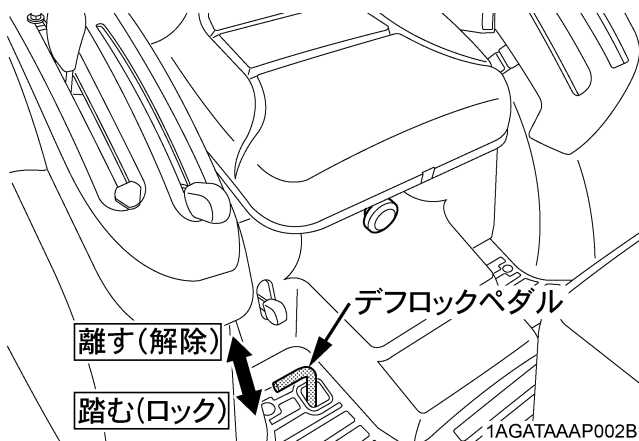
＊ リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，上記 **［オーバヒートしたときの処置］** を行なってください。

状況に応じた操作

■デフロックの使い方

◆ デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む………ロックされる。
ペダルから足を離す…自動的に外れる。

◆デフロックの使い方

＊ デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊ 道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ 抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

■旋回のしかた

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

■坂道での運転

＊ ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
惰性運転をすると，スピードが出すぎて制動不能や，転倒事故を引起こすおそれがあります。
＊ 急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。
＊ グライドシフト（F）仕様は，油圧ミッションのため，標準仕様よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速（グライドシフト）レバーで減速してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

目次
困ったときには
安全
サービスと保証
小特の取扱い
運転のしかた
作業のしかた
安全キャブ
装備品の取扱い
トラクタの簡単
な手入れと処置
付表
索引

■ほ場への出入り時の注意

警告

＊ 左右のブレーキペダルは，必ず［連結］しておいてください。
＊ ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
アユミ板などを利用してください。
＊ ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。
＊ グライドシフト（F）仕様は，油圧ミッションのため，標準仕様よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速（グライドシフト）レバーで減速してください

注意

＊ 倍速ターンレバーは［切］にしてください。

1. 作業機を地面近くまで下げて進むと，前輪が浮き上がりにくくなります。
   常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。

補　足

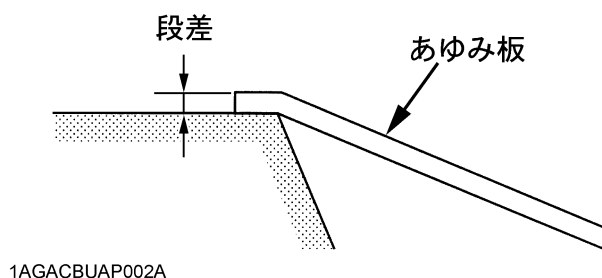
＊ 作業機の種類によっては，地面に接触すると破損する恐れがありますので注意してください。

2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

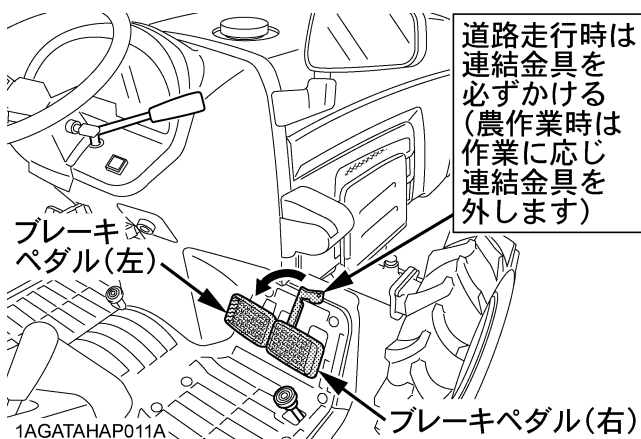
◆ パワクロ仕様の場合

注意

＊ クローラの片側だけが段差に引っかかり乗りあがらない状態になった場合，いったん車両を元に戻し，あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。

1AGACBUAP002A

■道路走行中の注意

警 告

＊ 道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。

注 意

＊ 道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊ 運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊ 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊ トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
[道路運送車両法の保安基準]
＊ 道路走行時には水平制御を必ず［切］にして走行してください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

＊ 作業灯は **[道路運送車両の保安基準]** 第 42 条（灯火の色等の制限）において，**[走行中に使用しない灯火]** とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

■トラックへの積み・降ろし

注 意

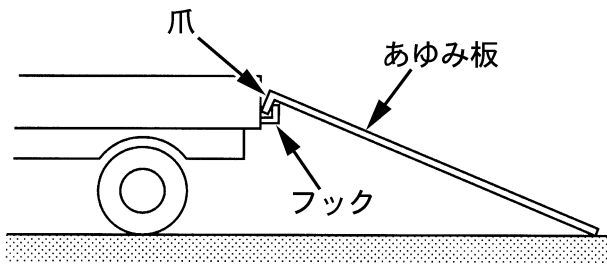
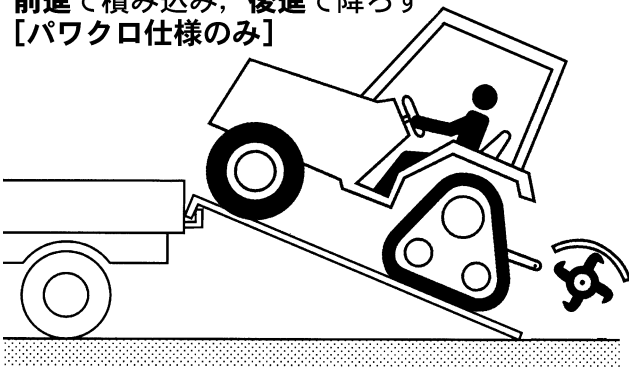
＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラック荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

◆ タイヤ仕様の場合

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを［**連結**］しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

◆ パワクロ仕様の場合

＊ トラックは荷台後部にあゆみ板の爪を掛けるフックが付いたものを使用してください。
＊ トラックへの積み・降ろしは，必ず左右のブレーキペダルを［連結］し，［前進］で積み込み，［後進］で降ろしてください。前進で降りると，クローラがあゆみ板の段差ですべり，前輪が浮いて車体が旋回し，転倒事故につながるおそれがあります。

万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

1AGACBUAP003A

1AGACBUAP004A

■パワーステアリングの取扱い

＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作が大変軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

重　要

＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

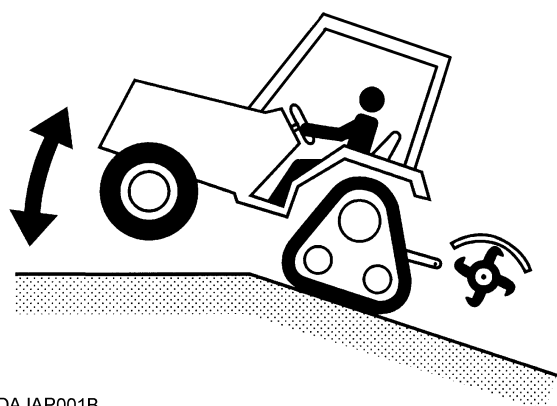
■パワクロ仕様の運転のしかた

パワクロ仕様の場合の特別な運転のしかたを記載しています。これ以外の取扱い操作はタイヤ仕様のトラクタと同じです。

◆ 運転操作

＊ 凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

注　意

＊ クローラ部が凸部を乗越えるときは，急に姿勢が変わりますので十分注意してください。

1AGADAJAP001B

1. 走行速度は，タイヤ仕様とは異なります。**［付表］**の**［走行速度表］**を確認してください。
2. ほ場での旋回は速度を下げ，ハンドルとブレーキ（片ブレーキ）を併用してください。
   片側クローラをロックしての急旋回は，ほ場を荒らしますので，切返しでの旋回をお奨めします。

補　足

＊ パワクロは直進性に優れる分，旋回半径は大きくなります。ほ場での作業中は，必要に応じ旋回する側のブレーキを操作すれば，小さい旋回半径で旋回できます。

重　要

＊ プラウ作業など片側のクローラを溝に落として行なう作業の場合は，クローラの張りを確認してください。また段差から無理に出ようとしないでください。

＊ 溝引きプラウ作業ではクローラが完全に溝から上がった状態で旋回してください。
片側のクローラが溝に落ちた状態で旋回すると、ゴムクローラが外れる可能性があります。

＊ あぜごえはあぜに対して垂直方向に走行し，途中で旋回しないでください。ゴムクローラが外れるおそれがあります。

＊ 道路走行でカーブを曲がったり，右左折する場合は速度を落してください。
クローラは直進性が優れるために，曲がりきれなくなる場合があります。

補　足

＊ 長距離の移動の際には，前輪タイヤ及びゴムクローラの早期摩擦防止のためにトラックやトレーラに積んで輸送することをお奨めします。

＊ クローラ部分に土がたまらないよう，定期的に清掃してください。
固まった土が遊輪，転輪のシールをいためる可能性があります。

◆ あゆみ板の使用

注　意

＊ あゆみ板は左右の先端をそろえ，前後にずれないように確実に固定してください。

＊ あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合，運転には特に注意してください。

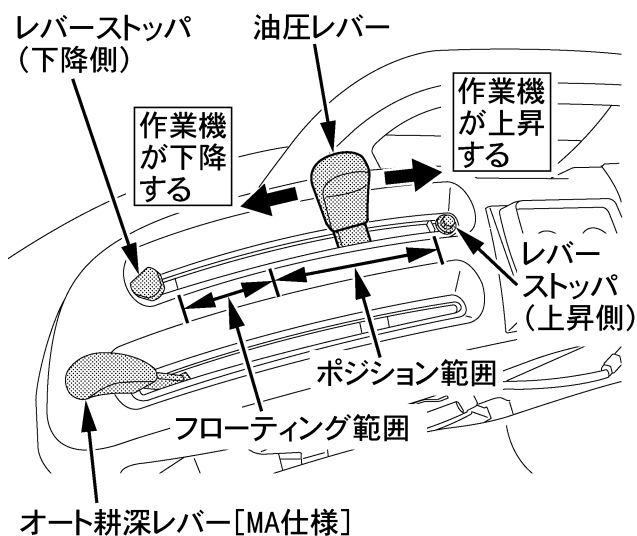
＊ 途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。

＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が15度以下になる長さ：トラックの荷台高さ，あるいはほ場乗入れ部高さの4倍以上）のあるすべり止め及び爪付きのものを使用し，パワクロの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

作業機昇降装置

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧（ポジションコントロール）レバー

油圧レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置です。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。

補　足

＊ オート耕深レバーの取扱いは，［ **メカオートの取扱い** ］の章を参照。

◆ レバーストッパ（下降側）の使い方

1. 油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
2. その位置にレバーストッパを固定します。
3. その後は，油圧レバーをレバーストッパに当たるまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

重　要

＊ レバーガイド上昇側の端部にあるレバーストッパは動かさないでください。動かすと油圧レバーによる正常な昇降ができなくなります。

■電子アップレバー（ポンパ）

［MA 仕様］

＊ ほ場内作業以外では，電子アップを使用しないでください。
＊ 電子アップ状態で道路走行しないでください。ほ場外（移動など）では油圧レバーを使用してください。

レバーのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。

レバー上げる（**電子アップ**ランプ点灯）	……	作業機上昇
レバー下げる（**電子アップ**ランプ消灯）	……	作業機下降

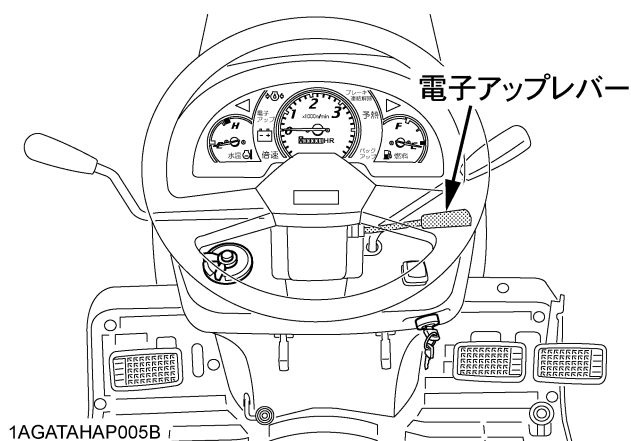
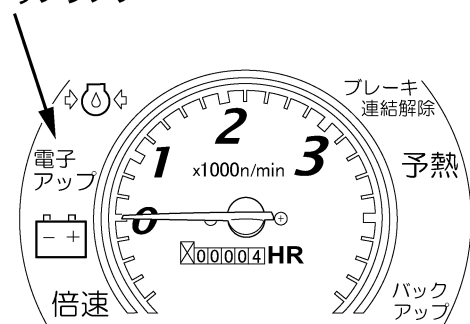
重　要

＊ 新しい作業機を装着したときは，電子アップレバーではなく油圧レバーを使って作業機を上げて，作業機がトラクタに当たらないことを確認してください。
＊ 電子アップによる上昇操作では，上昇高さ規制ができません。作業機を上昇させたときに，トラクタと十分な隙間が確保できない作業機を使用する場合には，電子アップを使用しないでください。

補　足

＊ 電子アップレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

◆ 電子アップの上手な使い方

電子アップレバーを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。
例えば代かきハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，油圧レバー位置をセットしたまま，電子アップレバーにより昇降させることができます。

1AGATAHAP005B

1AGATAHAP007M

補　足

＊ 電子アップランプが点滅している場合，油圧レバーを最上昇位置にするか，電子アップレバーを上げ側に操作し電子アップランプの **［点滅を解除］** してから使用してください。

■バックアップスイッチ

［MA 仕様］

バックアップを **［入］** にしておくと，後進時作業機が自動的に上昇し，**［うっかりバック］** からの作業機の損傷を防ぎます。

注　意

＊ スイッチの操作はエンジンを始動した後に行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチの操作が無効になる場合があります。

重　要

＊ バックアップによる上昇操作では，上昇高さ規制ができません。作業機を上昇させたときに，トラクタと十分な隙間が確保できない作業機を使用する場合には，バックアップを使用しないでください。

◆ バックアップの使い方

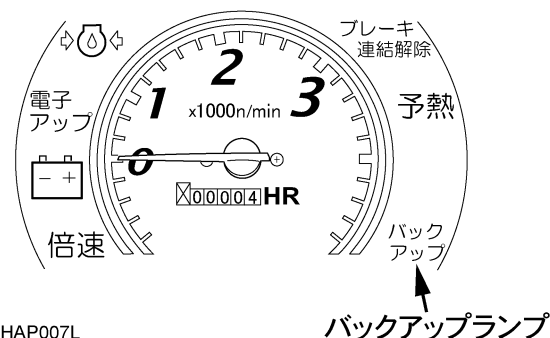
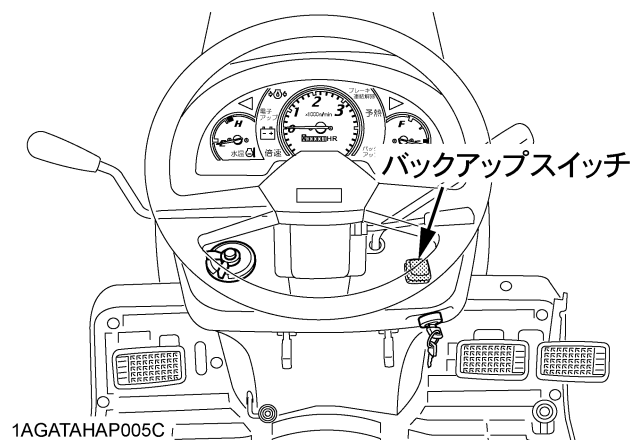
1. バックアップスイッチを押し，**［入］**にします。バックアップ **［入］** のとき，メータパネルの**バックアップ**ランプが点灯します。

補　足

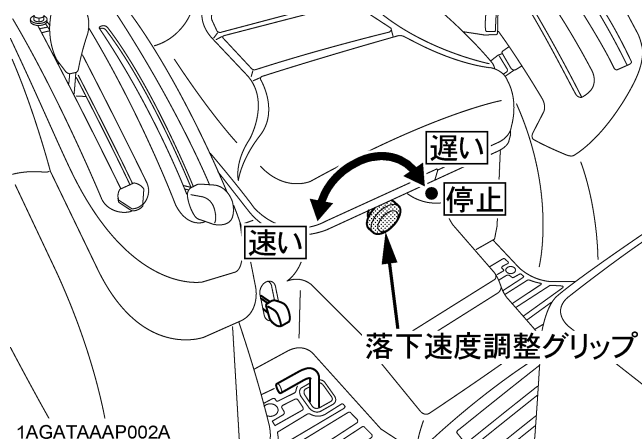
＊ スイッチ本体は点灯しません。

2. シャトルレバー（F 仕様は主変速（グライドシフト）レバー）を後進に入れると，作業機が自動で上昇します。
3. 作業機を下げるときは，電子アップレバー又は油圧レバーで行なってください。
4. バックアップスイッチを再度押すと，バックアップが **［切］** となります。
（**バックアップ**ランプ消灯）

1AGATAHAP005C

1AGATAHAP007L

■作業機落下速度の調整

＊ ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。
＊ 落下速度調整グリップでロックした後，油圧レバーを［前方に倒して］，作業機が落下しないことを必ず確認してください。
＊ 確認後，再度油圧レバーを上げておいてください。
＊ ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。

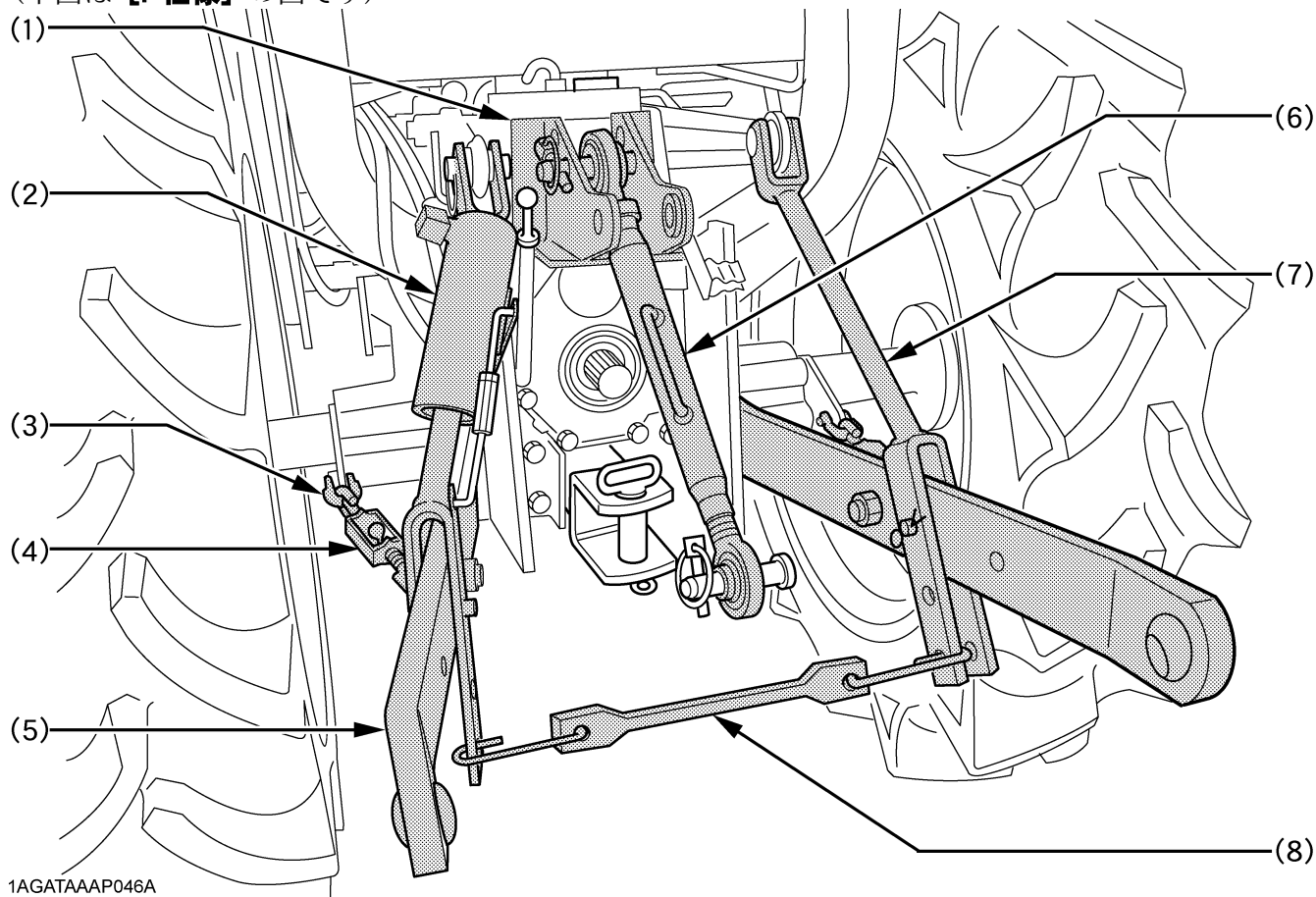
落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。

［速い］方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が速くなります。
［遅い］方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。
（**［停止］**方向に一杯まで回すと，油圧がロック（停止）します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。

重 要

＊ グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますので無理に回さないでください。

三点リンク

（下図は【P 仕様】の図です）

(1) トップリングブラケット
(2) リフトシリンダ（リフトロッド左）
(3) チェックチェーン
(4) ターンバックル
(5) ロアーリンク
(6) トップリンク（P 仕様：標準三点リンク仕様）
(7) リフトロッド（右）
(8) 振止めゴム

1. 三点リンクは，JIS O 形です。
2. ロータリ用特殊三点リンク仕様から，標準三点リンク仕様に変更される場合は，トップリンクアッシ（品番 67950-7171-0）が必要です。

1. インプルメント取付け前の準備

■ロアーリンク取付け穴の選択

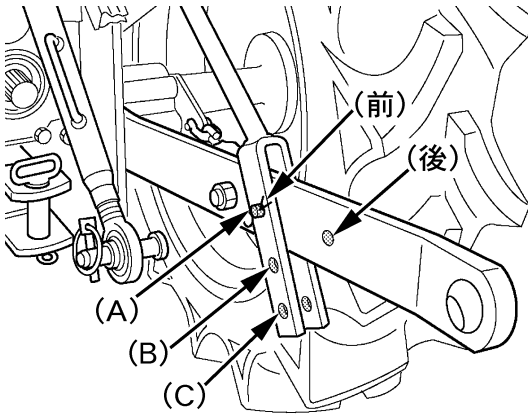
1. 特殊三点リンクロータリを使うときは，**[A]** と **[前]** の取付け穴を使ってください。
2. 一般作業機を使うときは，作業機の説明書に従ってください。

1AGATAAAP047C

2. 作業機の着脱

＊ 作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。
＊ 駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
＊ 作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。
＊ 作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■トップリンク

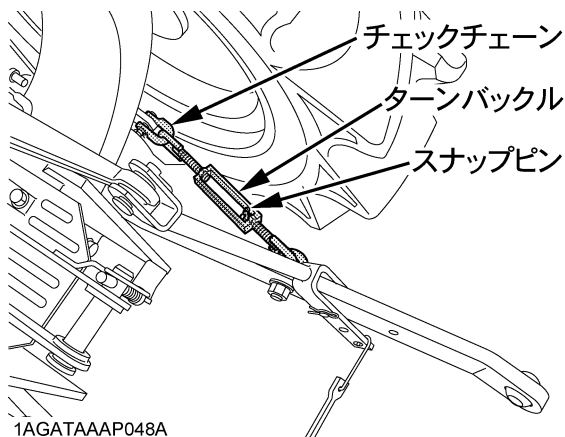
1. 伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
2. トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。

■リフトロッドの調整

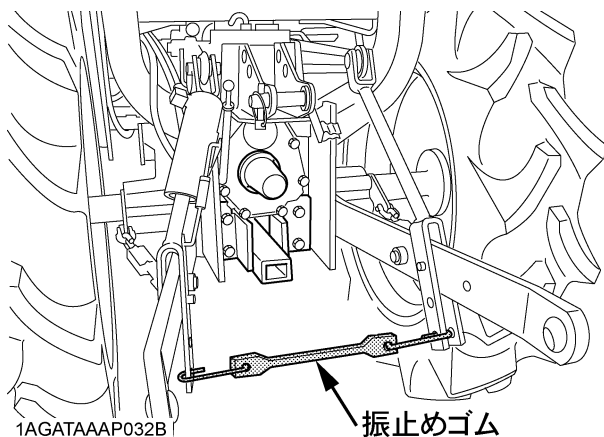
リフトロッド左を操作して，作業機の傾きを調整してください。
（**[MA 仕様]** の調整方法は **[モンローマチックオート]** の項を参照）

1AGATAAAP047A

■チェックチェーン

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はスナップピンでターンバックルを固定してください。

作業機	チェーンの張り具合
ロータリ	ロータリが横方向に１～２cm動く程度
プラウ， ハロー， サブソイラ， ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に５～６cm動く程度(ロアーリンク，リフトロッドなどがタイヤと接触しないことを確認してください。)
モアー， ヘイレーキ， テッダ， リッジャ， カルチベータ	軽く締める

■作業機を取付けないときの注意

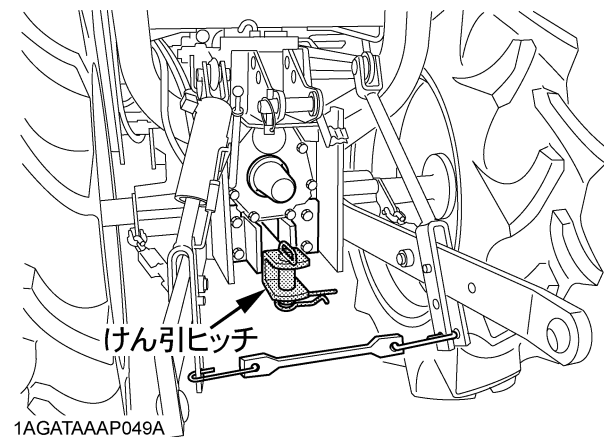
作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪にあたらないように，左右振れ止めをしてください。

けん引ヒッチ（別売）

（標準三点リンク［P 仕様］以外は別売）

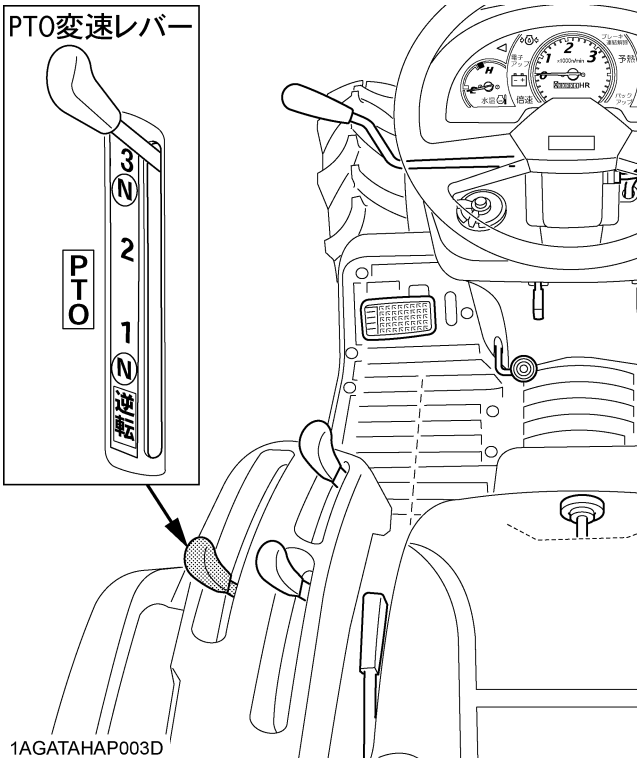
＊ けん引作業をするときは，必ずけん引ヒッチ（別売）を使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引起こすおそれがあります。

＊ 三点リンクに取付け，PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチにあたって破損し，事故を起こすおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。

PTO

■ PTO 変速レバー

＊ **作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。**

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度を，正転３段階，逆転１段階に変速できます。
変速操作時は，必ず主クラッチを切ってから行なってください。

1AGATAHAP003D

◆ **PTO［逆転］使用時の注意点**

1. 使用できる作業機
＊ メーカ指定のロータリに限ります。

重　要

＊ メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

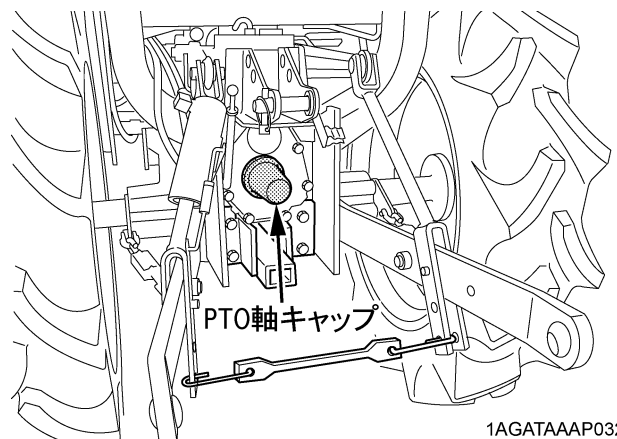
2. 使用できる作業
＊ 軟弱地での土寄せ作業
＊ 草やワラなどの巻きつきをほぐすとき

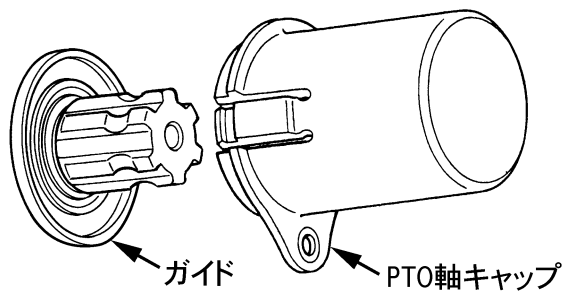
補　足

＊ 土寄せ作業は，エンジン回転数 1500rpm 位で作業すると，泥飛びも少なく効果があります。

3. 使用できない作業
＊ 逆転耕うん作業
＊ 未耕地や石の多いほ場での土寄せ作業
＊ ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

■ PTO 軸キャップ

＊ **PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。**
そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起すおそれがあります。
＊ **PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。**

1AGATAAAP032A

◆ PTO キャップの取付け方

1AGATAAAP050A

1. PTO 軸キャップをガイドにはめ込みます。

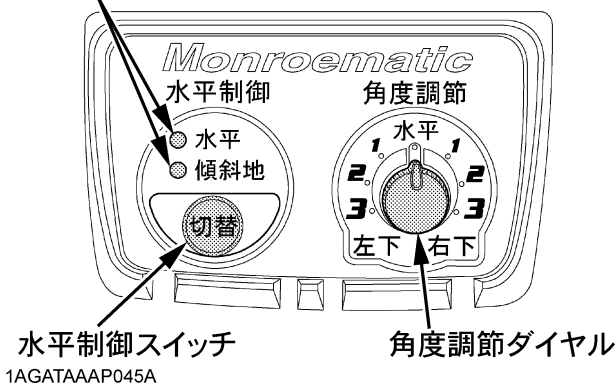
モンローマチックの取扱い［MA仕様］

モンローマチックは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

■各部の名称

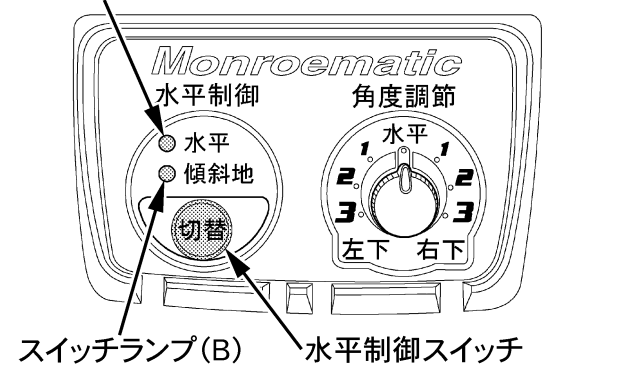
重　要

＊ スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

1AGATAAAP045A

■水平制御スイッチ

＊ 走行時は必ず［切］にして走行してください。
また，落下速度調整グリップを回して油圧をロックし作業機の落下を防止してください。

スイッチを押す毎に**［水平➡傾斜地➡切（手動）］**の順に切り換わります。
下記作業に応じ，いずれかを選択してください。
　水平選択時………スイッチランプ（A）点灯
　傾斜地選択時……スイッチランプ（B）点灯
　切（手動）選択時…スイッチランプ（A・B）消灯

1AGATAAAP045B

◆ 水平

トラクタ本体の傾きにかかわらず作業機を常に水平または水平面に対し一定の角度に保ちたいとき使用します。

1. 角度調節ダイヤルが**［水平］**位置の場合
（作業機は常に水平に保たれます。）
    * ＊ 水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
    * ＊ 整地板・代かきロータリなどによる均平作業
    * ＊ 畑での畝立て，畝崩し作業その他
2. 角度調節ダイヤルが**［水平］**位置以外の場合
（作業機は水平面に対して常に一定の角度に保たれます。）

補　足

＊ 水平制御スイッチが**［水平］**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

◆ 傾斜地

傾斜のあるほ場で，作業機を常にほ場面と平行に保ちたいとき使用します。

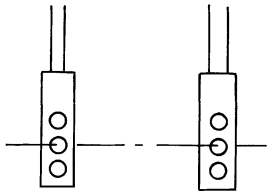
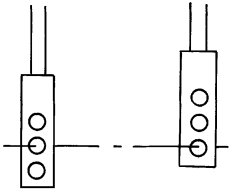
＊ 適応作業：傾斜のある畑の耕うん・仕上げ作業（マルチ・リッジャ等）

補　足

＊ 水平制御スイッチが**［傾斜地］**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。
＊ **［傾斜地］**選択時，凹凸の激しいほ場で十分な精度が得られない場合は，**［切］**（手動）で使用してください。

◆ 切（手動）

モンローマチックの自動制御が解除され，**位置制御**になります。

＊ 適応作業：メロンなどの高畝作り・作業機の脱着

補　足

＊ 水平制御スイッチが［**切**］（手動）では，作業機を上端付近まで上げても，作業機の姿勢は本機と平行にはなりません。
従って，取付けている作業機を上げるときは注意してください。

＊ **位置制御**とは：
このモードは，プラウ作業などで，常にリフトシリンダの位置を一定に保ちたい場合に使用します。
水平制御スイッチを［**切**］（手動）にすると，リフトシリンダの長さを角度調節ダイヤルで設定した長さに制御します。したがって，車体が傾いても長さは，変化しません。

重　要

＊ モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業などの場合）には，［**切**］で作業してください。

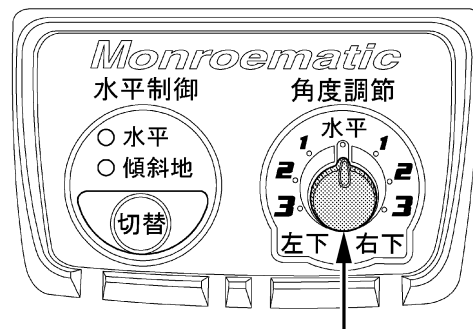
＊ ［**手動**］で作業機を傾斜させているとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。

＊ チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。

1AGATAAAP052A

■角度調節ダイヤル

水平制御スイッチが［**水平**］及び［**切**］の場合，作業機の姿勢を調節するときに角度調節ダイヤルを使用します。

1AGATAAAP045C

［水平選択時］

1. ダイヤルを［**水平**］位置にすると，作業機は水平に保持されます。
2. ダイヤルを［**左下**］方向に回すと，作業機は水平に対し左下りに保持されます。
3. ダイヤルを［**右下**］方向に回すと，作業機は水平に対し右下りに保持されます。

［手動選択時］

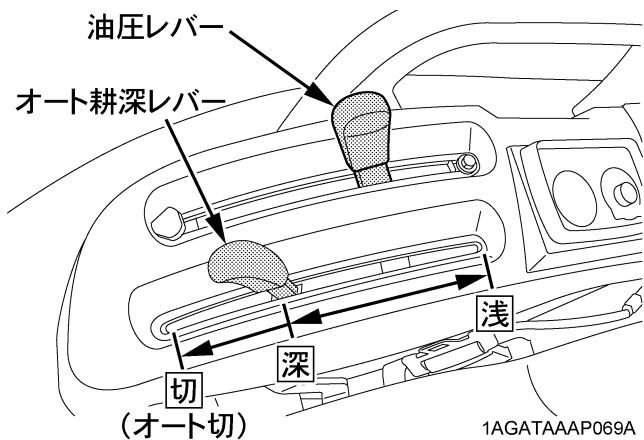
1. ダイヤルを［**水平**］位置にすると，作業機は本機と平行に保持されます。
2. ダイヤルを［**左下**］方向に回すと，作業機は本機に対し左下りに保持されます。
3. ダイヤルを［**右下**］方向に回すと，作業機は本機に対し右下りに保持されます。

メカオートの取扱い

後２輪を外したオート耕うん作業で，より一層の小まわり作業ができ，後２輪跡のないきれいな仕上りが得られます。
なお，オート耕うんの仕上りは装着している作業機の調整によっても大きく変わります。トラクタと作業機の正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

■オート耕深レバー

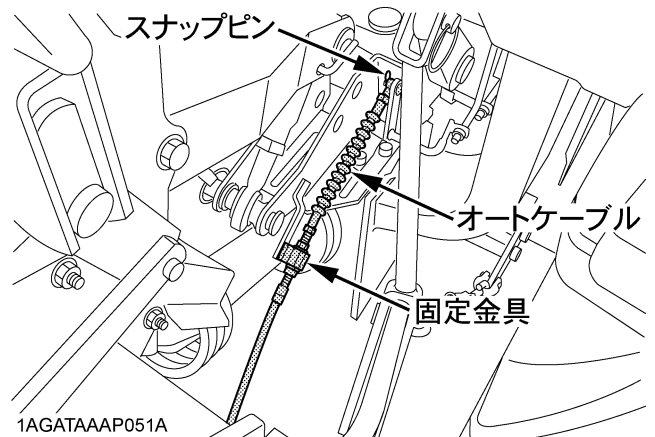
このレバーでオート耕うんの **[切]** 及び **[入]**（耕うん深さの自動設定）が行なえます。

1. オート耕深レバーを **[浅]** 方向にすると，ロータリの耕深が浅く保持されます。
2. オート耕深レバーを **[深]** 方向にすると，ロータリの耕深が深く保持されます。
3. オート耕深レバーを **[切]** 位置にすると，オートが切となります。
4. 作業中，油圧レバーは一番下にしておいてください。
5. ロータリの上げ下げは，外側の油圧レバー，もしくは電子アップレバー（ほ場内作業時のみ）で行なってください

補　足

＊ 目盛りは深さの目安として表示しています。同じ目盛り位置でも，ほ場条件が変わると深さの設定が変わります。
＊ 畝立て作業や片培土作業などロータリカバーを持上げて作業を行なうとき，あるいは後２輪を取付けてロータリ作業を行なうときはオート耕うんが作動しない状態（オート耕深レバーを **[切]** 位置）にしてください。

■ロータリ着脱時の注意 ［ スーパージョイント (S) 仕様以外 ］

ロータリの着脱時には，（３点リンク，ジョイントと共に）オートケーブルの着脱が必要です。

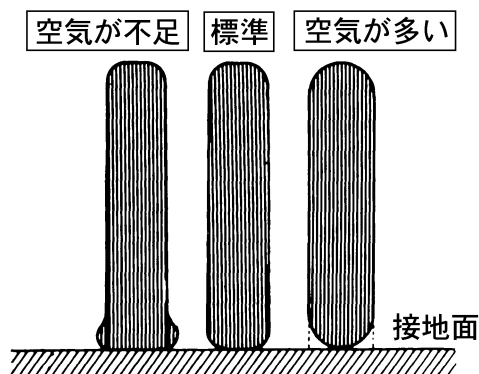
1. オート耕深レバーを下げ **[切]** 位置にします。
2. スナップピンを外し，オートケーブルの先端をピンから外します。
3. オートケーブルを，固定金具から外します。

補　足

＊ 外したスナップピン・ケーブルは，紛失したり傷めたりしないよう大切に保管してください。

タイヤ・ウエイト

■タイヤの空気圧

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。

1AGAAAPAP007A

◆ **標準空気圧**

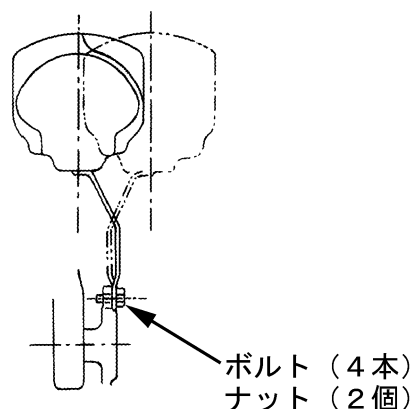
	タイヤ	空気圧 kPa（kgf/cm²）
前輪	6-12，6-14	200（2.0）
	6.00-12	180（1.8）
	5.00-12	120（1.2）
後輪	8.3-20，8.3-22 8-18	160（1.6）
	9.5-20，9.5-22	140（1.4）

■輪距の調整

＊ けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

◆ **前輪**
前輪の輪距は変更できません。

◆ **後輪**
リムとディスクの取付け位置変更により，輪距の調整が行なえます。（タイヤの仕様により異なります。）

◆ 後輪
- 後輪輪距は２段階に調節できます。
- 9.5-20及び9.5-22タイヤは輪距の変更はできません。

1AGATAAAP053A

重　要
＊ 決められた輪距以外では使用しないでください。
＊ 道路走行時は，出荷状態に戻してください。

補　足
＊ タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。

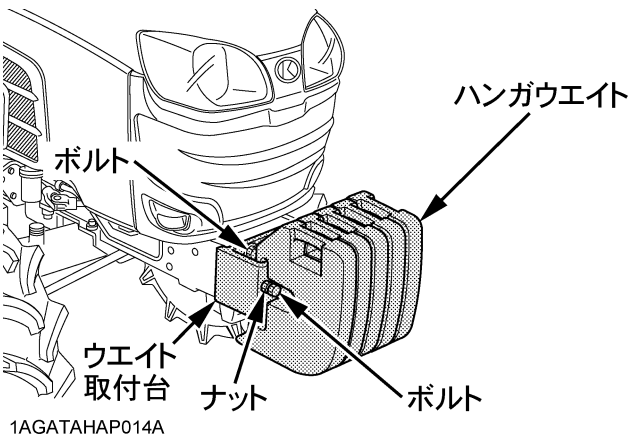
■ウエイト（オプション）

＊ トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。
（詳細は購入先にご相談ください。）

ウエイトの必要枚数は使用する**インプルメント**の**［取扱説明書］**や購入先にご相談ください。

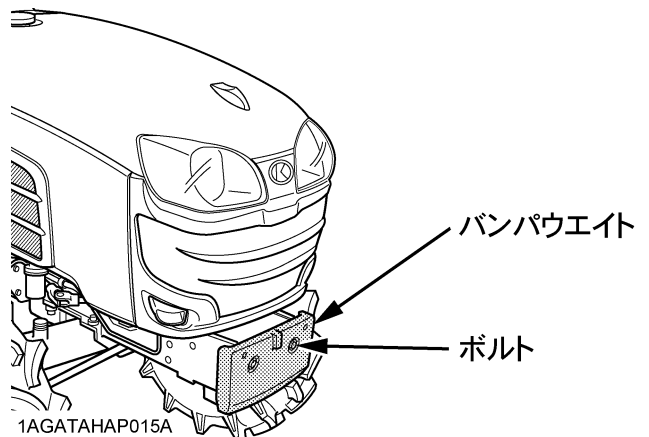
◆ ハンガウエイト（25kg）の取付け方法

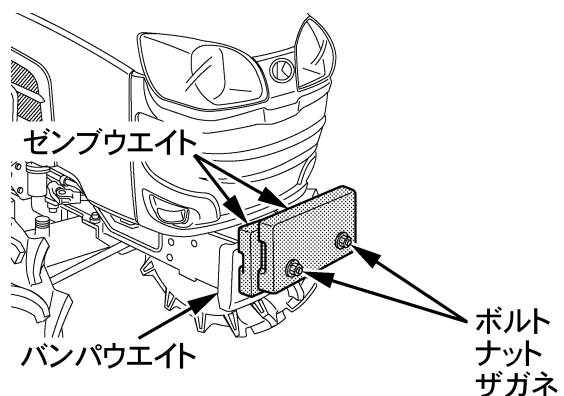
1. ウエイト取付け台（オプション）をボルトで取付けてください。
2. ハンガウエイトをウエイト取付け台にひっかけ，ボルト，ナットで固定してください。ウエイト１枚の重量は25kgで１～５枚取付けできます。
3. バンパウエイトと同時装着はできません。

1AGATAHAP014A

◆ バンパウエイトの取付け方法

1. バンパウエイトをボルトで取付けてください。
2. 次のいずれか１個を装着できます。
   既に装着してある場合は付け替えになります。追加はできません。

バンパ（ウエイト５）……	5 kg
バンパ（ウエイト 20）……	20kg
バンパー（30）…………	30kg
バンパー（45）…………	45kg

1AGATAHAP015A

◆ ゼンブウエイト（28kg）の取付け方法

1. ゼンブウエイトをボルト，ナット，ザガネで取付けてください。
2. いずれかのバンパウエイトが装着してある場合のみ取付けることができます。
3. ウエイト１個の重量は28kgで２個まで取付けできます。

1AGATAHAP016A

一般的な耕うん要領

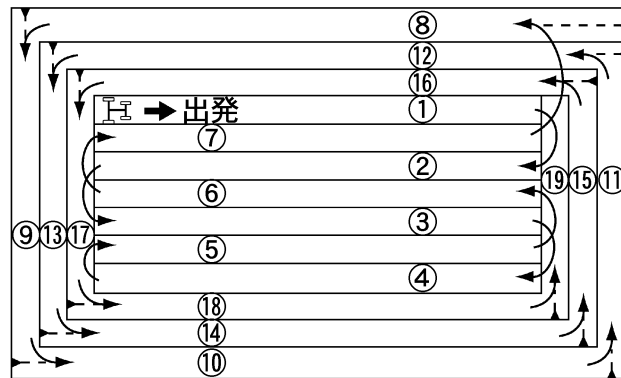
■隣接耕うんのしかた

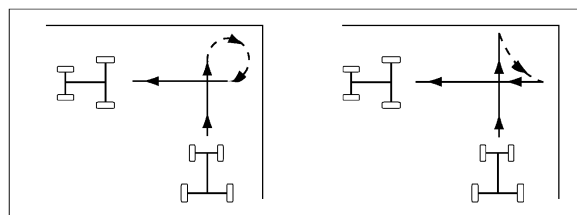
作業条件により，車速及びPTO回転速度を決めて耕うんを始めます。

1. 図の長方形部分1枚が，直進1回で耕うんされる耕作地を示しています。
2. 図のような順序をとるのは，1度耕うんしたところを後輪タイヤで押えないための最善の方法です。
3. 従って出発点は，トラクタが最後に外に出る場合によって決まります。
4. 直進が終って，次の直進に移るまでは，ロータリを上げて旋回します。
5. サイドドライブロータリは，サイドフレーム側があぜぎわになるようにして，あぜぎわ耕うんを行ないます。

1AGACCBAP037A

■一うねおき耕うんのしかた

一うねおき耕うんは，小回りの難しい場所に用いる方法で，その他は隣接耕うんと同じです。

1AGACCBAP038A

■トラクタの方向転換のしかた

1AGACCBAP036A

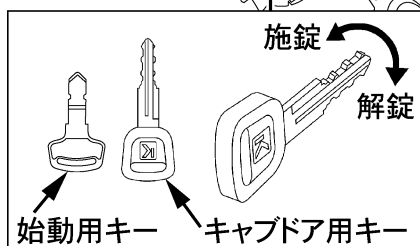
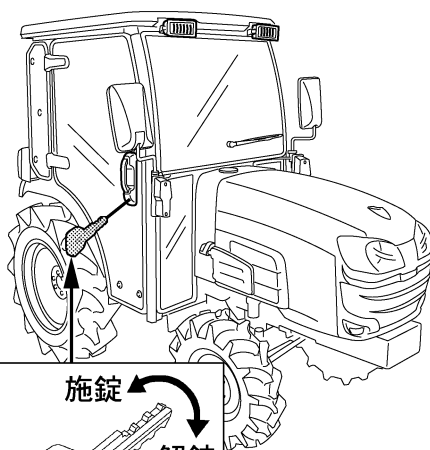
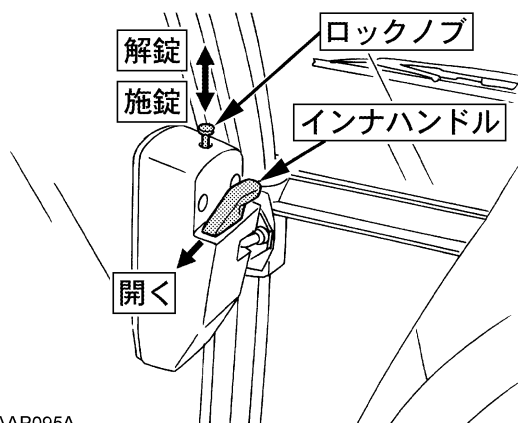
安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック

注　意

- **＊ リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）**
- **＊ ガラスを破損させるおそれがありますので安全キャブ内には物を載せないでください。**
- **＊ ガラスの取扱いはていねいに行なってください。**

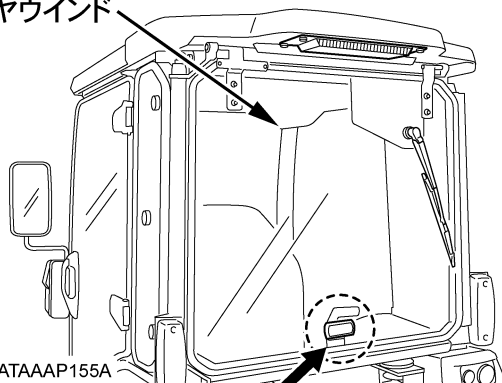
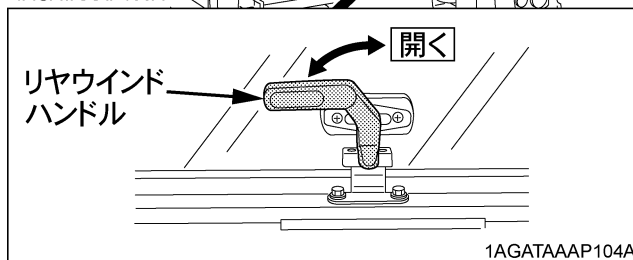
■ドア

◆ ドアの開閉とロック

1AGATAHAP002B

1AGATAAAP095A

補　足

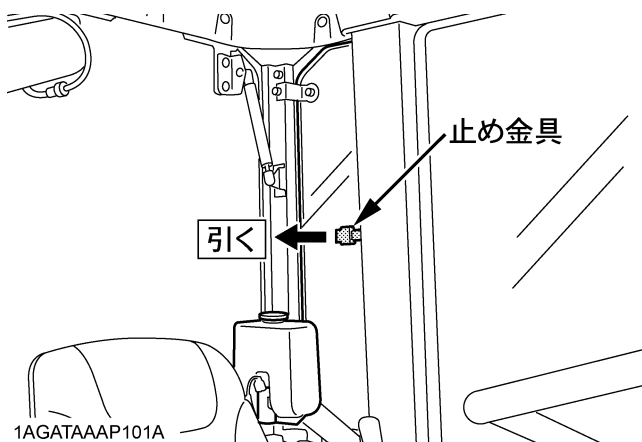
＊ ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

■リヤウインド

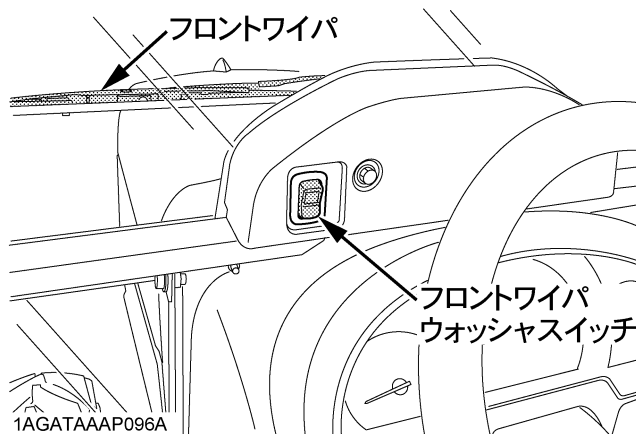
リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で容易に開くことができます。

1AGATAAAP155A
1AGATAAAP104A

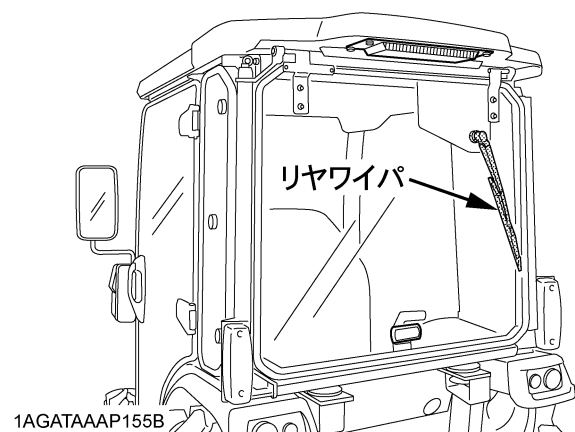
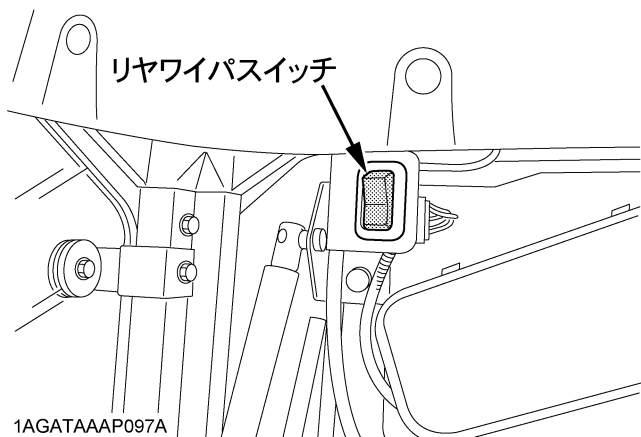
重　要

＊ 作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときには十分確認して行なってください。
＊ リヤウインドを開放したままで，作業機を上げるとリヤウインドを破損するおそれがありますので，作業機を上げるときには安全を十分認識してください。
＊ リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■サイドウインド
止め金具を手前に引き，ガラスと共に外側へ押すと開きます。

重　要
＊ サイドウインドを開放したままで，悪路走行をしないでください。

ワイパ

■フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
1. スイッチの上側を１段押すとワイパが作動します。
   さらに２段目を押すと，押している間のみワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します（リヤウインドにもウォッシャ液が噴射されます。）
2. スイッチの下側を押すと元の位置で停止します。
   さらに２段目を押している間のみワイパは停止したままウォッシャ液が噴射します。
   （リヤウインドにもウォッシャ液が噴射されます。）

■リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

1. スイッチの上側を押すとワイパが作動します。下側を押すと元の位置で停止します。
2. ウォッシャ液はフロントワイパ・ウォッシャスイッチを操作して噴射させてください。（フロントウインドにもウォッシャ液が噴射されます。）

補　足

＊ からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。

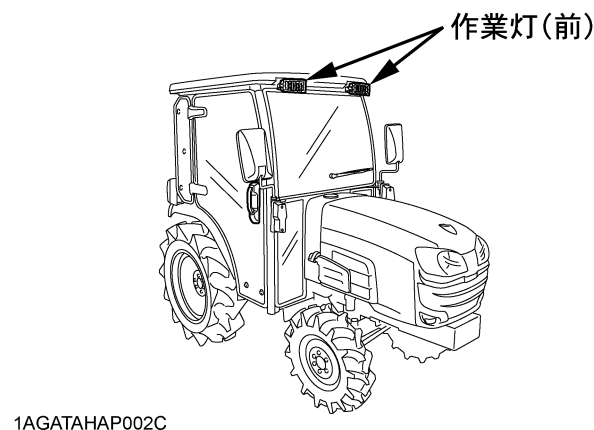
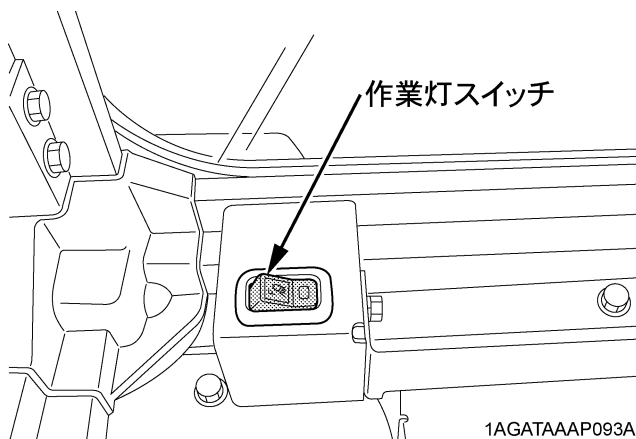
■寒冷時のワイパの使用

寒冷時には，ワイパブレードがガラスと氷着していることがあります。そのままワイパを作動させるとワイパブレード及びワイパモータの故障につながるおそれがありますので，必ずキースイッチを **［切］** にして氷を除去いてから再度起動させてください。

作業灯

■作業灯スイッチ

◆ 作業灯（前）スイッチ

作業灯スイッチのライトマーク側を押すと作業灯が点灯し，スイッチのインジケータランプ側を押すと消灯します。

補　足

＊ 作業灯（後）はオプションです。

重　要

＊ バッテリがあがりますので，ヒータ・作業灯・ヘッドライトなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を1600回転/分以上にしてください。

補　足

＊ 作業灯は **［道路運送車両の保安基準］** 第42条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］** とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

エアコン

重 要

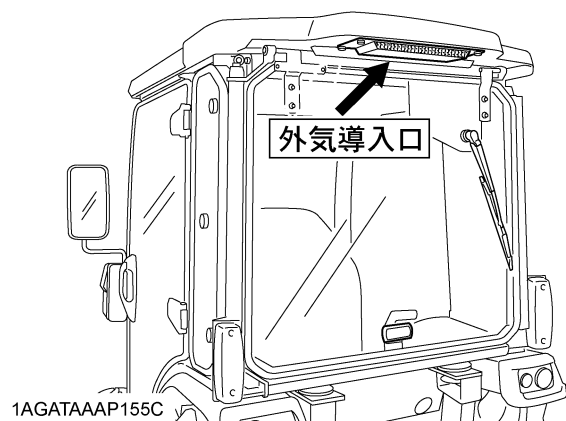
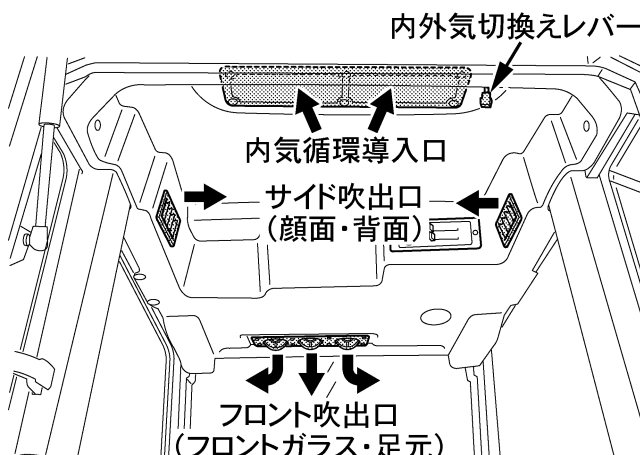
＊ コンプレッサの寿命低下を防ぐため下記の項目をまもってください。

＊ エアコンならし運転
エアコンを作動させるときは次のならし運転を 10 分以上実施してください。

	夏期	冬期
エンジン回転	アイドリング	アイドリング
温調	最強冷	最強暖
ブロア	Hi	Hi

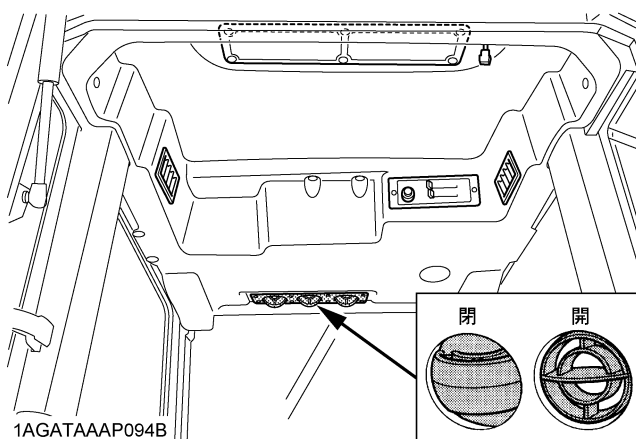
＊ エアコンを 1 週間以上使用しなかったときは，必ずアイドリングにてエアコンスイッチをいれてください。

■空気の流れ

キャブ内の空気の流れは下図の通りです。5 カ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。

1AGATAAAP155C

■風向調整

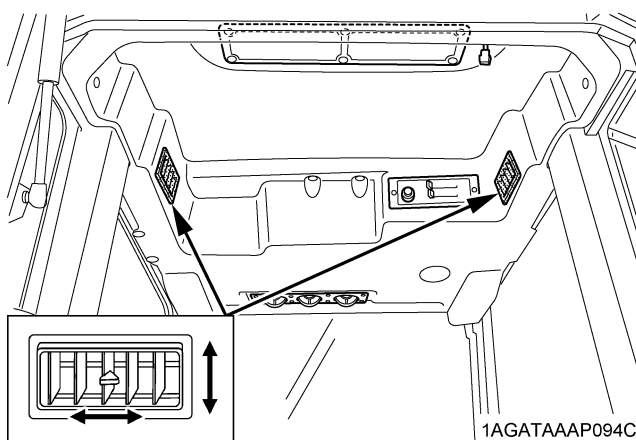
◆ フロント吹出口

1. 風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。
デミスト（フロントガラスのくもり除去）やデフロスト（フロントガラスの凍結除去）として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。
2. サイド吹出口からの風量を増したいときは，**［閉］**にしてください。

1AGATAAAP094B

補 足

＊ フロント吹出口からの冷風がメータパネルに当たると，メータパネルが曇ることがあります。そのときは，フロント吹出口の向きを変えて，メータパネルに冷風が当たらない様にしてください。

◆ サイド吹出口

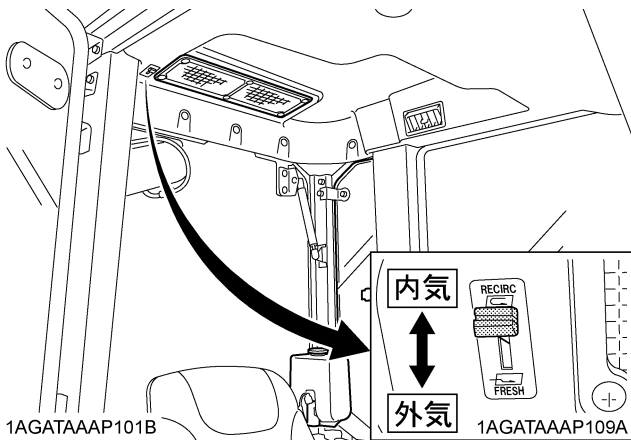
冷風の方向は，ルーバーの向きにより自由に調整できます。

1AGATAAAP094C

◆ **内外気切換えレバー**

外気導入…

レバーを［外気］位置にすると，安全キャブ室内に外気が入ってきます。
ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。

内気循環…

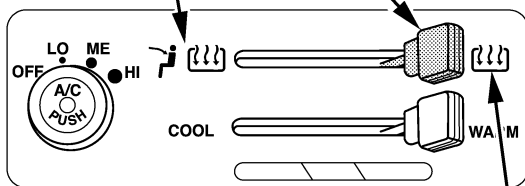
レバーを［内気］位置にすると，外気は入りません。
早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

1AGATAAAP101B　1AGATAAAP109A

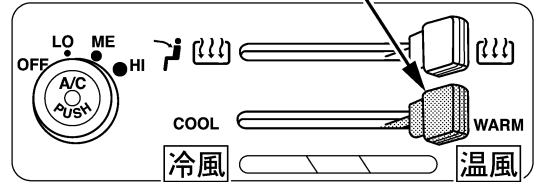
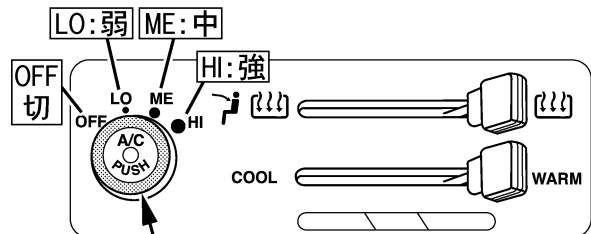
補　足

＊ 内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。

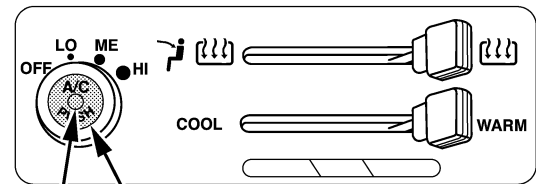
＊ ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

■コントロールパネル

◆ **モードレバー**

1AGATAAAP085A

◆ **温度コントロールレバー**

1AGATAAAP086A

◆ **LO・ME・HI ファンスイッチ**

1AGATAAAP087A

◆ **エアコンスイッチ**

1AGATAAAP088A

■取扱い操作方法

◆ 暖房

1. 内外気切換えレバーを外気導入［FRESH］にします。早く室温を上げたいときは内気循環［RECIRC］にします。
2. ファンスイッチ(LO・ME・HI)と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

補　足

＊ 夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，温度コントロールレバーをCOOL（左端）に寄せてください。

◆ 冷房・除湿暖房

1. 内外気切換えレバーを外気導入［FRESH］にします。
2. エアコンスイッチを押し［入］にします。
3. ファンスイッチ(LO・ME・HI)を作動させます。
4. 温度コンロトールレバーをCOOL又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

◆ デフロスタ

フロントガラスの曇り及び凍結除去するときは，

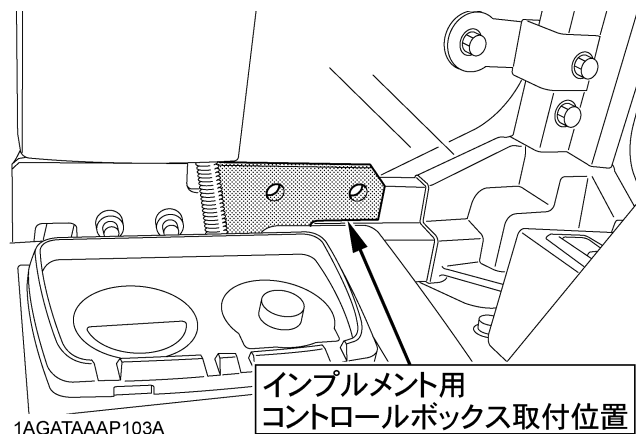
1. 吹出口（上）を開き，フロントガラスの方向に向けます。
2. 内外気切換えレバーを外気導入［FRESH］にします。
3. ファンスイッチを　HI，温度コントロールレバーをWARM（右端）にします。

■ヒータ使用上の注意

＊ ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
＊ 異常を認めたとき、修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

1. 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
2. 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
(**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［2年ごとの点検・整備］**の**［冷却水の交換］**の項を参照)
3. ウォータホースは2シーズンごとに交換を受けてください。
4. 日常点検
次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
(ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)
＊ ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ
＊ ウォータホースジョイント部の水漏れ
＊ ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
＊ 本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損
5. ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

インプルメントの装着

■インプルメント用操作ボックスの取付

トラクタの簡単な手入れと処置

注 意

給油及び点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について

警 告

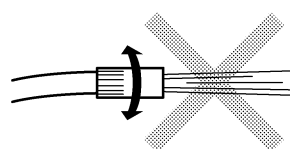
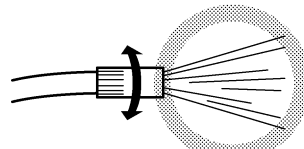
廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

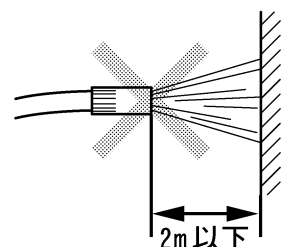
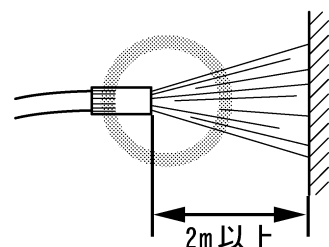
洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注 意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁

1AGACBRAP068A

定期点検箇所一覧表

重　要

＊　◎はならし運転の 50 時間後に必ず行なってください。
＊　バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。
〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕

No.	項目		時期	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	それ以後	参照ページ
				アワーメータ表示時間															
1	エンジンオイル	年間使用時間が 100 時間以上の場合	交換	◎	○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	68
1	エンジンオイル	年間使用時間が 100 時間以内の場合	交換	◎														１年ごと	68
2	エンジンオイルフィルタ		交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	74
3	ミッションオイル		交換	◎					○						○			300 時間ごと	78
4	油圧オイルフィルタ		交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	75
5	油圧ミッションオイルフィルタ **［Ｆ 仕様］**		交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	75
6	前車輪ケースオイル		交換						○						○			300 時間ごと	79
7	グリースの注入		−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	64
8	エンジン始動システム		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	65
9	倍速ターン高速けん制装置の点検		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	66
10	タイヤ取付けボルト		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	67
11	ワイヤハーネス，バッテリコード		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	67
12	クラッチハウジング		水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	67
13	燃料ホース		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	68
13	燃料ホース		交換															２年ごと	81
14	バッテリ電解液		点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	69
15	エアクリーナエレメントシングルエレメント		清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	71
15	エアクリーナエレメントシングルエレメント		交換															１年又は６回清掃ごと	80
16	エアクリーナエレメントダブルエレメント **［オプション］**	アウター	清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	71
16	エアクリーナエレメントダブルエレメント **［オプション］**	アウター	交換															１年又は６回清掃ごと	80
16	エアクリーナエレメントダブルエレメント **［オプション］**	インナー	交換															アウター交換時	80
17	ファンベルト		調節		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	72

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以後	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
18	クラッチペダル	調節	◎	○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	72
19	ブレーキペダル	調節		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	73
20	トーイン・タイロッド	点検				○				○				○			200時間ごと	76
21	ラジエータホース	点検				○				○				○			200時間ごと	74
		交換															２年ごと	81
22	燃料フィルタ	交換								○							400時間ごと	79
23	吸気ホース	点検				○				○				○			200時間ごと	76
		交換															2年ごと	81
24	エンジンバルブクリアランス	調節															800時間ごと	80
25	ラジエータ	洗浄															２年ごと	81
26	冷却水	交換															２年ごと	80
27	モンローシリンダホース **［MA仕様］**	交換															２年ごと	81
28	燃料系統の空気抜き	―															必要に応じて	82
29	ヒューズ類	交換															必要に応じて	82
30	ランプ類	交換															必要に応じて	82

[安全キャブ仕様]

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以後	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	室内エアフィルタの詰まり	清掃				○				○				○			200 時間ごと	77
2	外気フィルタの詰まり	清掃				○				○				○			200 時間ごと	77
3	コンデンサの詰まり	清掃				○				○				○			200 時間ごと	77
4	エアコンベルトの張り	調整				○				○				○			200 時間ごと	78
5	ヒータ配管，ホース	点検															1年ごと	80
6	エアコン配管，ホース	点検															1年ごと	80
7	各部への注油	－															必要に応じて	82
8	ウォッシャ液	補充															必要に応じて	83
9	冷媒（ガス）量	点検															必要に応じて	83

[PC 仕様]

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以後	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	グリースの注入	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	
2	点輪・遊輪のオイルシール	点検				○				○				○			400 時間ごと	

＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

給油（水）項目		容　量（L）	備　考
燃料		27（安全キャブ仕様：21）	ディーゼル軽油
冷却水（ラジエータ）		3.1	清水（不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。）
冷却水（リザーブタンク）		0.6	
エンジンオイル		3.1 （オイルゲージ上限全量，フィルタ部も含む。）	クボタ純オイル （ディーゼルエンジン用） D30 又は D10W-30, CC 級又は CD 級
ミッションオイル	下記以外	16	クボタ純オイル スーパー UDT　又は バイオスーパー UDT
	［F 仕様］	16.5	
	［K 仕様］	19.4	
	［FK 仕様］	19.9	
前車軸ケース	下記以外	3.9	
	KB225 安全キャブ仕様	4.2	
	PC1・PC2 仕様	4.5	
	［K 仕様］	2.7	
グリースの注入 ・クラッチペダル ・ブレーキペダル ・リフトロッド左 **［MA 仕様以外］** ・トップリンク **［標準 3P 仕様］** ・揺動軸，転輪・遊輪 **［PC 仕様］**		少　量	極圧（万能）グリース
グリースの塗布 ・関節球 ・チェックチェーン		塗　布	
ウォッシャ液 **［安全キャブ仕様］**		1.5	

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下記の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル・前車軸ケースオイル
新日本石油	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30 又は D10W-30	クボタ純オイル スーパー UDT 又はバイオスーパー UDT
コスモ石油		
ジャパンエナジー		
昭和シェル石油		
富士興産		

★バイオスーパー UDT 油は万一事故でオイルが土壌、河川、沼地、海などに流出した場合，微生物などにより成分のほとんどが分解され環境汚染を防ぐことができる潤滑油です。

■グリース

メーカ	商品名	用　途
新日本石油	エピノックグリース AP2	極圧（万能）グリース
コスモ石油	ダイナマックス EP2	
ジャパンエナジー	JOMO リゾニックス EP2	
昭和シェル石油	アルバニヤ EP グリース 2	
富士興産	フッコール EP2	
出光興産	ダフニーエポネックス SR2	
モービル	モービラックス EP2	
エッソ／ゼネラル	ビーコン EP2	
協同油脂	マルテンプ PS2	ホーン接点用グリース

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

注　意

- ＊ **エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。**
- ＊ **マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。**

■ボンネットの開閉

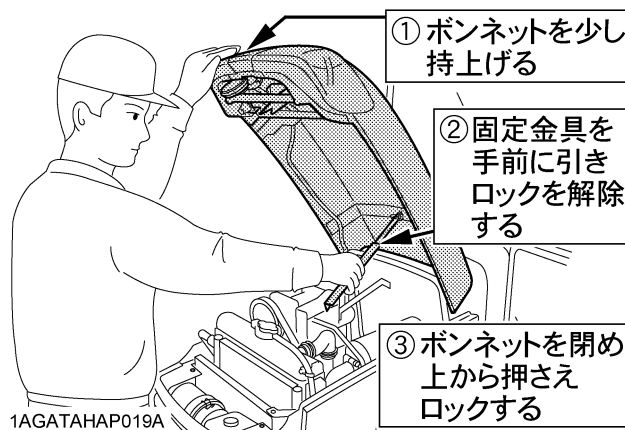
注　意

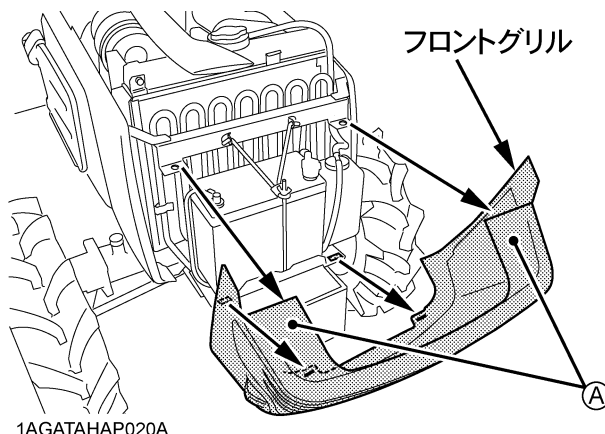
- ＊ **ボンネットを開き点検・調整するときは，必ずボンネット固定金具が［ロック］されたか確認してから作業をしてください。**

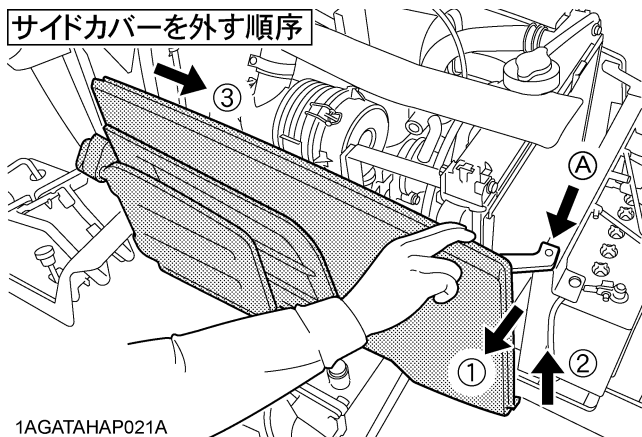
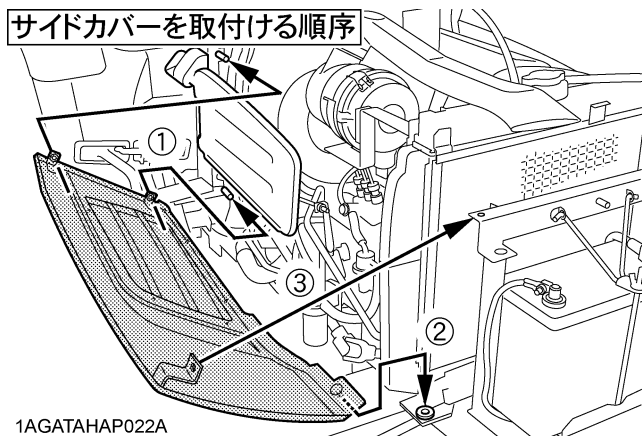
◆ ボンネットの開け方

◆ ボンネットの閉め方

［安全フレーム仕様］

［安全キャブ仕様］

■フロントグリルの取り外し

1. Ａを上に引き上げながらフロントグリルを前方向に倒します。
2. コネクタを外してからフロントグリルを取外します。
3. フロントグリルを取付けるときは，ノッチを合わせて取外しと逆の手順で取付けます。

■サイドカバーの取り外し

1. カバーの［A］矢印部を少し持ち上げ外側に引いてください。
2. 前端を少し持上げてピン部を穴から抜いてください。
3. 前方に引いてカバーを外してください。
4. 組付け時，外した順と逆に最後にノッチ部を合わせ，矢印部を内側に押込んでください。

日常点検

＊ 火気厳禁
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

■前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

■トラクタの周りを歩いて

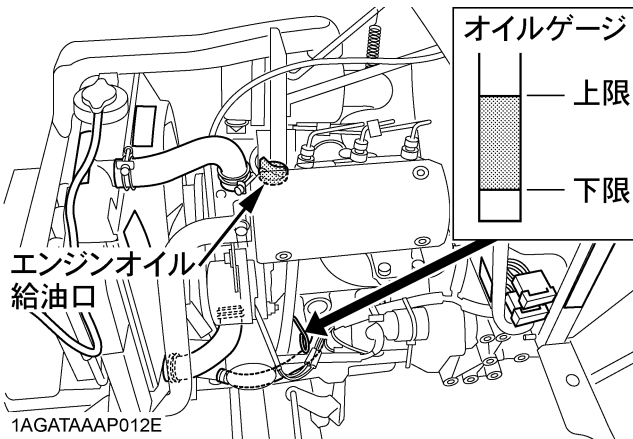
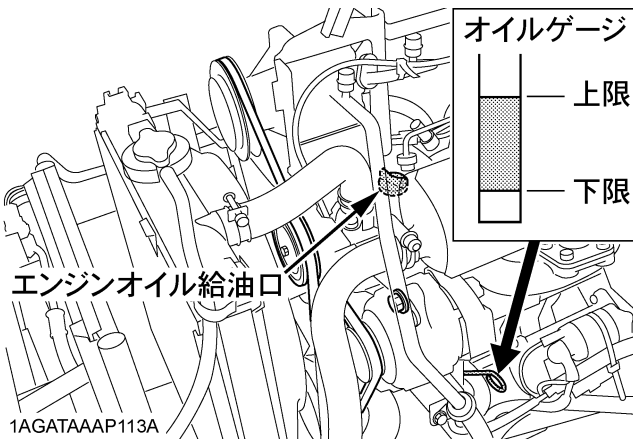
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き **［下限と上限の間］** にオイルがあるかを調べます。
2. **［下限］** 以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］** 以上には入れないでください。

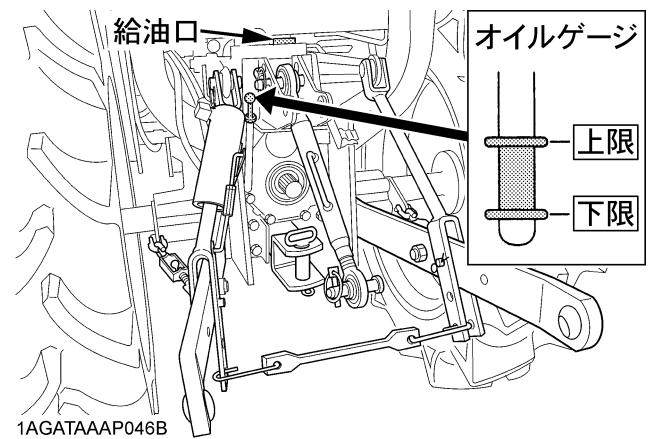
［安全フレーム仕様］

［安全キャブ仕様］

重　要

＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

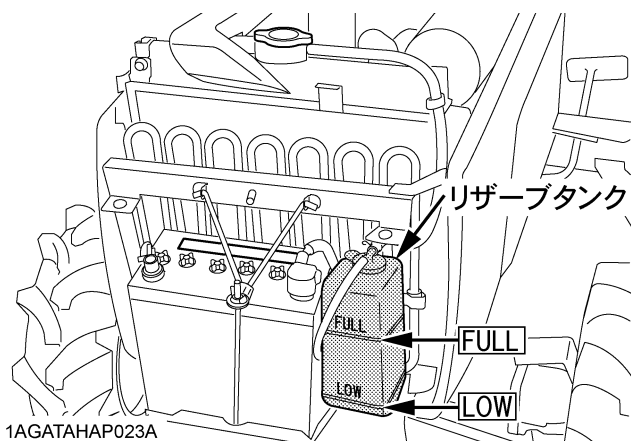
注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き **［下限と上限の間］** にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **［下限］** 以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］** 以上には入れないでください。

■冷却水の量

注 意

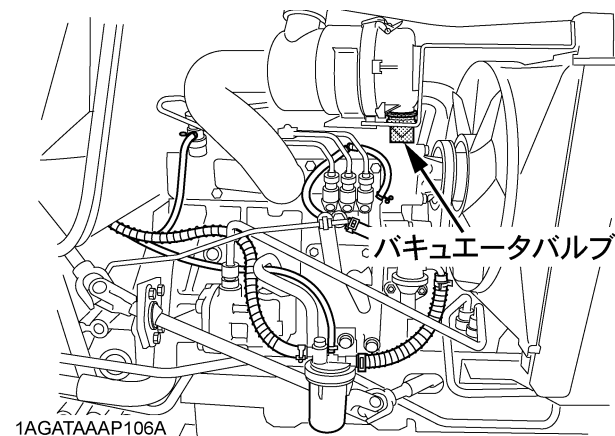
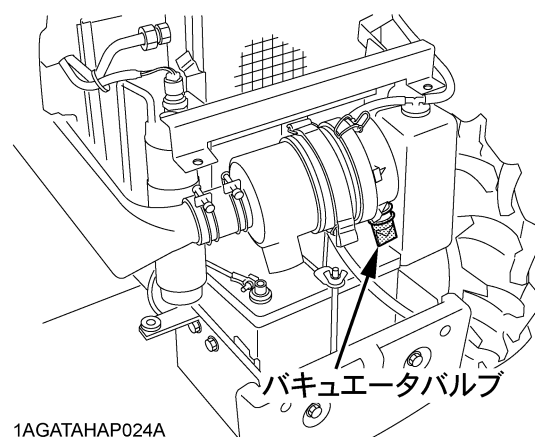
＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**［FULL から LOW の範囲］**であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。

補 足

＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。

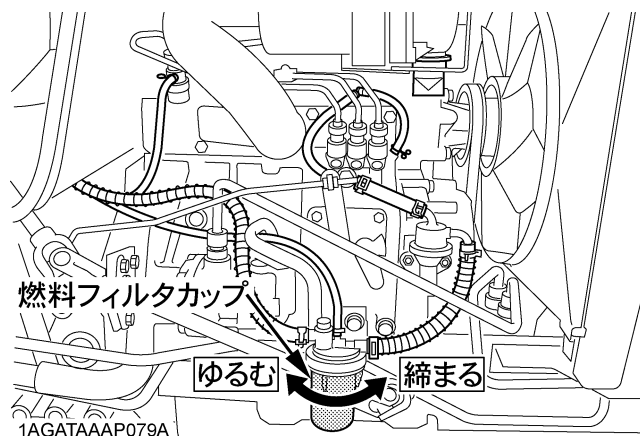
［安全フレーム仕様］

［安全キャブ仕様］

■燃料フィルタの水，沈殿物の点検

燃料中に含まれる水･ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったら，カップを **［ゆるむ］** 方向へ回してカップを外し，内部を軽油で洗浄してください。

重 要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ フィルタを外したときは，必ず空気抜きを行なってください。
（**［必要に応じた点検・整備］** の **［燃料の空気抜きのしかた］** の項を参照）

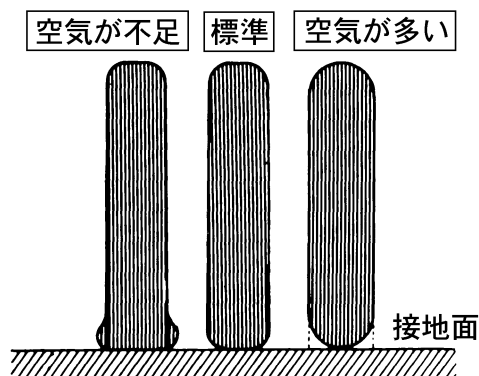
補 足

＊ フィルタカップを外すと，燃料タンクからの流出燃料は自動的に止まります。
しかし，燃料が満タンに近い場合は，燃料戻りパイプからフィルタに燃料が逆流しますので，燃料が半分以下のときに実施してください。

1AGATAAAP079A

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警 告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。

1AGAAAPAP007A

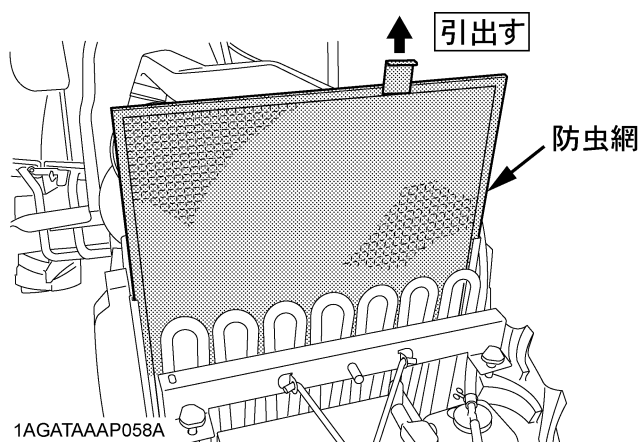
◆ 標準空気圧

	タイヤ	空気圧 kPa（kgf/cm²）
前輪	6-12，6-14	200（2.0）
	6.00-12	180（1.8）
	5.00-12	120（1.2）
後輪	8.3-20，8.3-22 8-18	160（1.6）
	9.5-20，9.5-22	140（1.4）

■防虫網の清掃

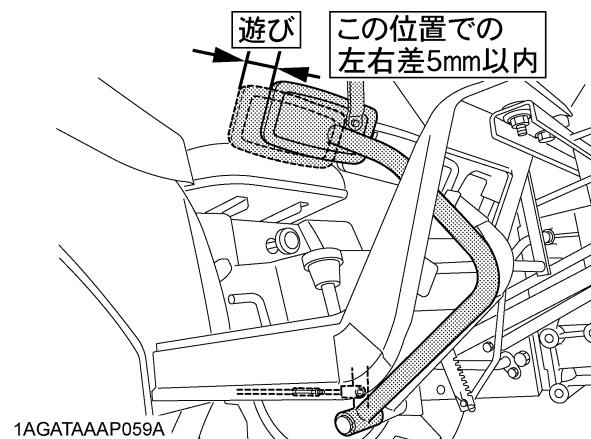
＊ **エンジンを必ず停止して清掃してください。**

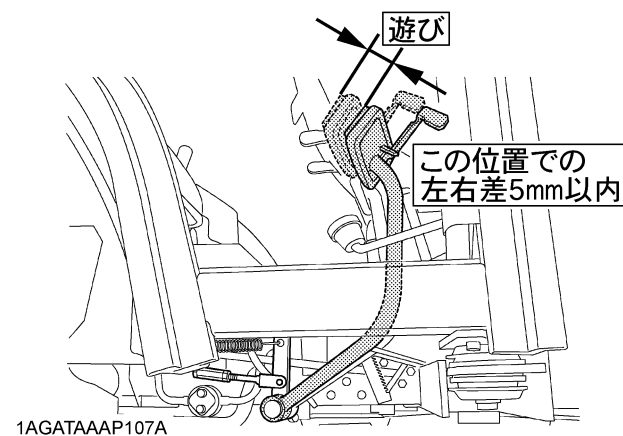
水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがあります。防虫網を引出し清掃してください。

［安全フレーム仕様］

［安全キャブ仕様］

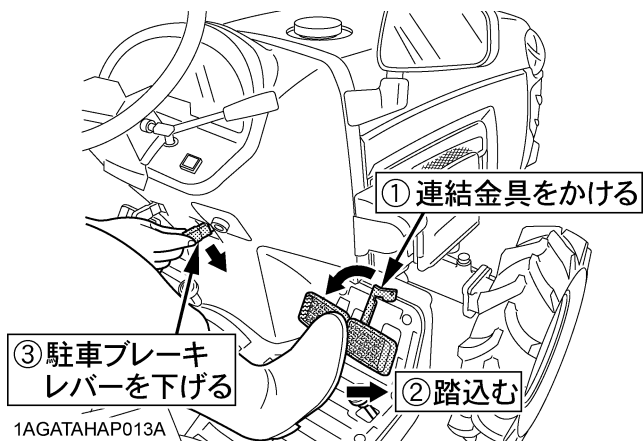
■ブレーキペダルの遊び・点検

＊ **ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。**

ペダルを踏んで遊び量が **［20 ～ 30㎜］** かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が **［5 ㎜以内］** かどうかを調べます。
（調整のしかたは **［100 時間ごとの点検・整備］** の **［ブレーキペダルの点検・調整］** の項を参照）

［安全フレーム仕様］

［安全キャブ仕様］

■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**［下げ］**たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

1AGATAHAP013A

■クラッチペダルの遊び・点検

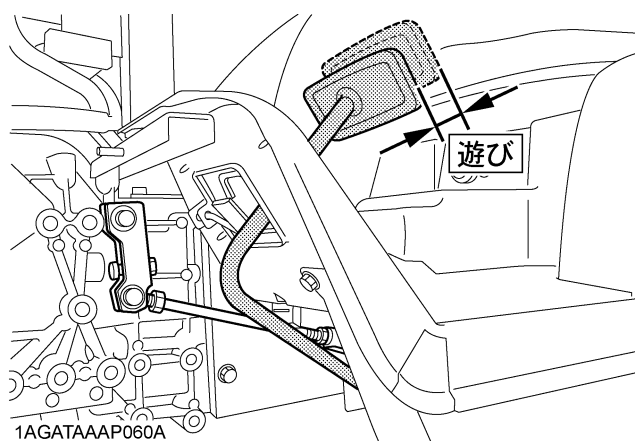
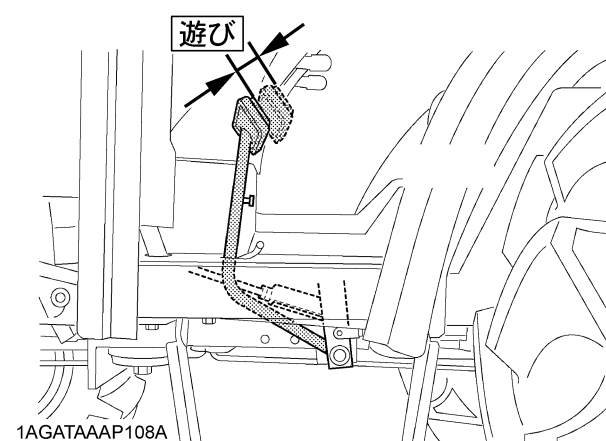
ペダルを踏んで遊び量が**［20 ～ 30㎜］**かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が**［5 ㎜以内］**かどうかを調べます。
（調整のしかたは**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［ブレーキペダルの点検・調整］**の項を参照）

［安全フレーム仕様］

1AGATAAAP060A

［安全キャブ仕様］

1AGATAAAP108A

重　要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

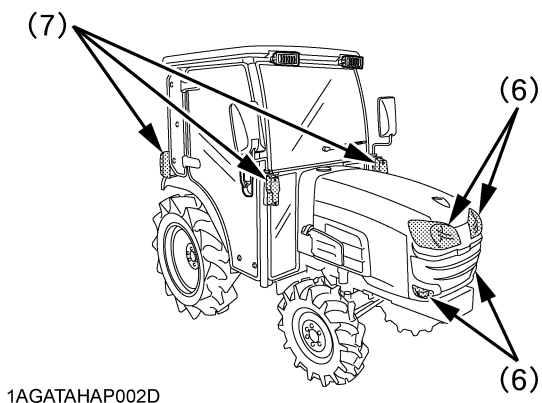
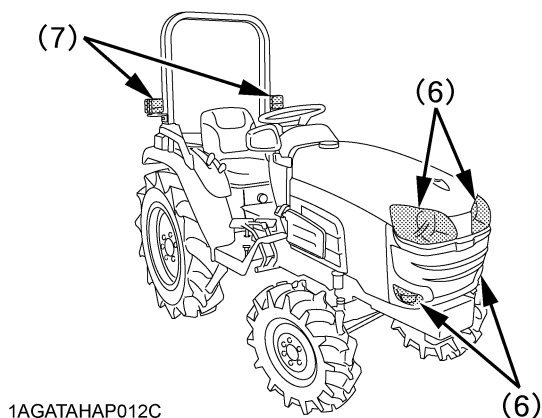
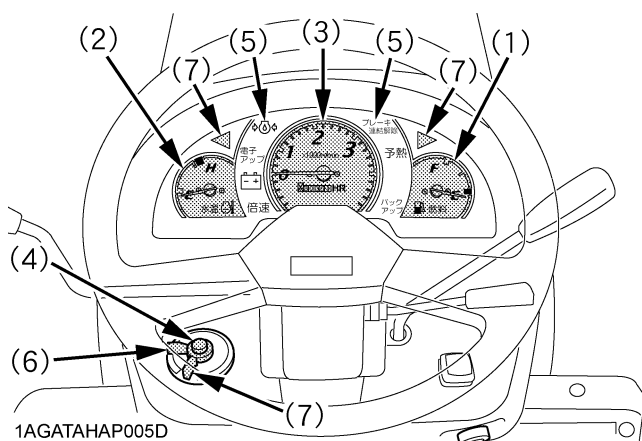
■メータ・ランプ類の作動

下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

1. 燃料計
2. 水温計
3. エンジン回転計
4. ホーン
5. イージーチェッカ
6. ヘッドライト，サイド作業灯
7. ウインカ

1AGATAHAP005D

1AGATAHAP012C

1AGATAHAP002D

■燃料の補給

注　意

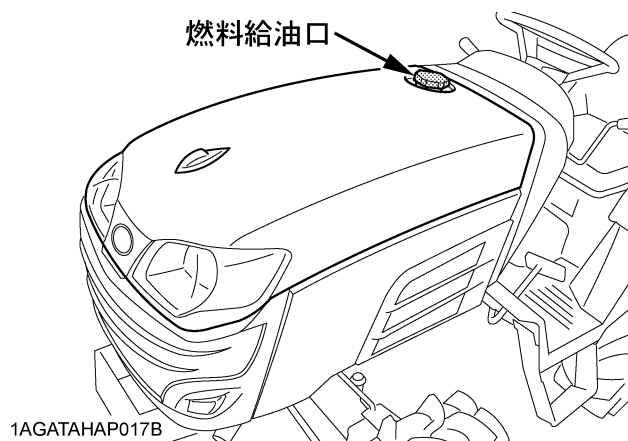
- ＊ **燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。**
- ＊ **火気厳禁。**

燃料には，**［ディーゼル軽油］**を使用してください。

ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以上
１　号	０及び－５
２　号	-10
３　号	-15 及び -20
特３号	-25 及び -30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。

1AGATAHAP017B

重　要

- ＊ 燃料中にごみや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，給油時はこし網を外さないでください。
- ＊ 燃料キャップの空気穴が土やごみでふさがれていないか点検してください。
- ＊ 燃料キャップが締まっているか確認してください。

■満タンお知らせブザー［MA 仕様］

燃料給油の際，満量に近づくとブザーが作動し作業者に知らせます。

1. キースイッチを**［入］**にします。
(エンジンは始動しないでください。)
2. 燃料を給油します。
3. 燃料給油を検知して「ピ…ピ…」と電子メータパネルから断続音が作動します。
4. 燃料が満タンに近づくにつれ，断続音の間隔が短くなり，満タンになると「ピー」という連続音に変わるので給油を停止してください。

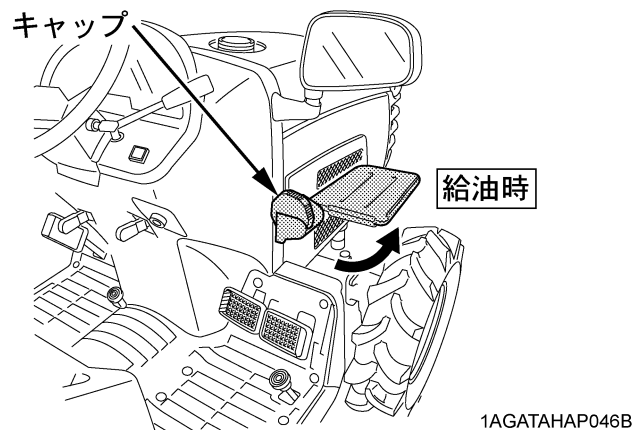
補　足

＊ 満タンでのブザー作動は満量に対し余裕を見ていますので，連続音作動のとき完全な満タンにはなりません。

■燃料供給台

＊ 上に乗らないこと。(積載可能重量 20kg)
＊ 走行する時は折りたたんで確実に固定してください。
＊ 燃料補給時のポリタンクをのせる以外の目的で使用しないでください。

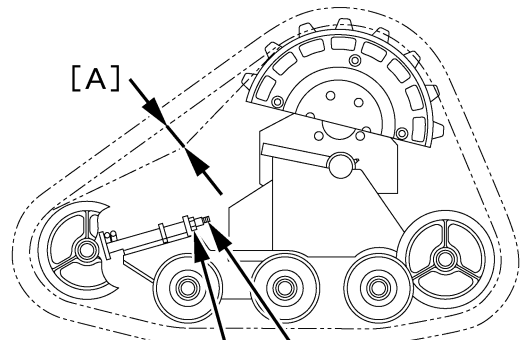
燃料供給台を使用すると，給油が楽に行なえます。

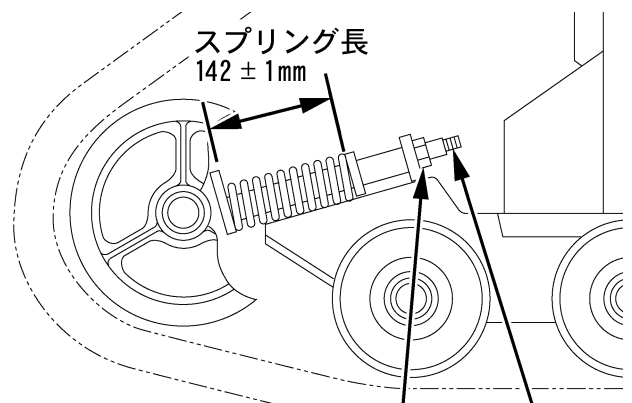
1AGATAHAP046B

1. 給油台を前方に引き，90°回転させて固定します。
2. 燃料キャップは，ステーの部分に置くことができます。
3. 給油後は，確実に折りたたんで固定してください。

日常点検［PC 仕様］

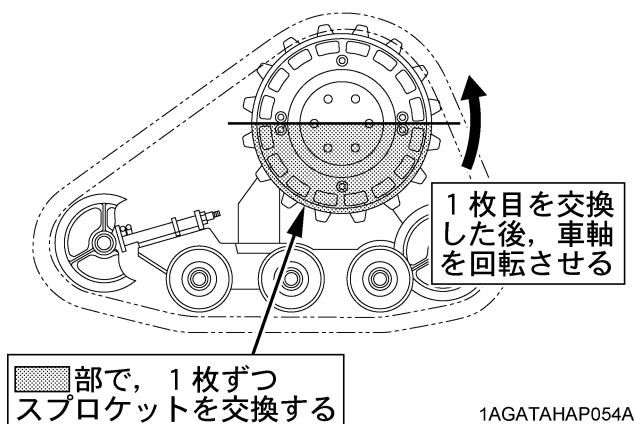
1. ゴムクローラの張りと亀裂，損傷が無いかを点検し，大きな亀裂や損傷がある場合は交換を行なってください。
2. スプロケットの摩耗を点検してください。
3. 可動部分やゴムクローラへの石等のはさみ込みが無いかを確認し，はさまっている場合は取除いてください。
4. 各部のボルト，ナットの緩みが無いか点検してください。

■ゴムクローラの張り調整

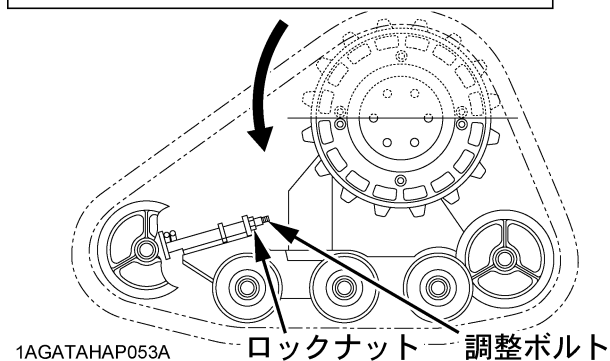
1. ゴムクローラが緩んだままで使用すると，走行中にクローラが外れるおそれがありますので，定期的に点検を行なってください。
2. ゴムクローラの張りの調整は，［A］部のたわみが 196 ～ 245N (20 ～ 25kgf) の荷重で 10 ～ 15mm になるように，調整ボルトにて行なってください。調整後は確実にロックナットで固定してください。

1AGATAHAP055A

上記ゴムクローラの張り調整の目安として，次の図に示す寸法をご参照ください。

1AGATAHAP058A

■スプロケットの交換

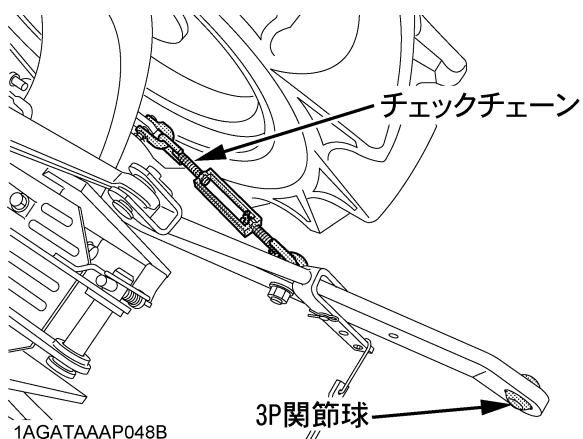
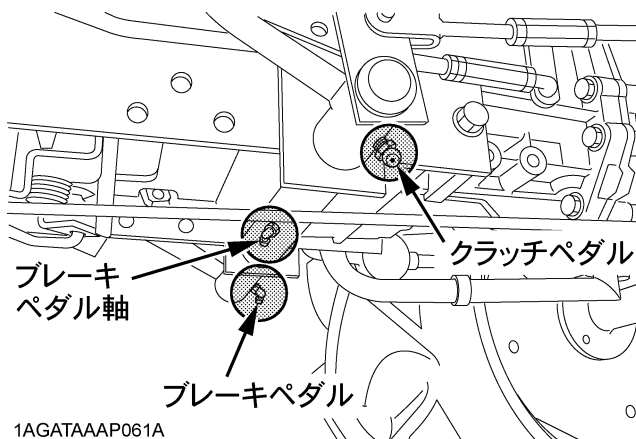
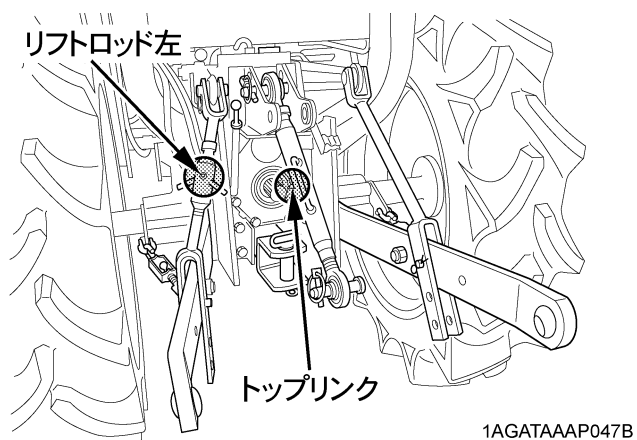
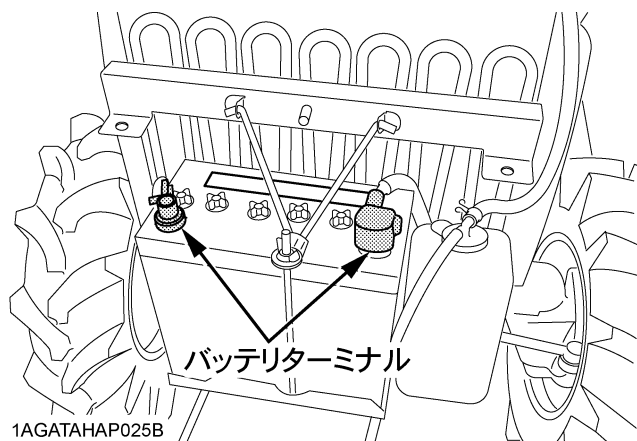
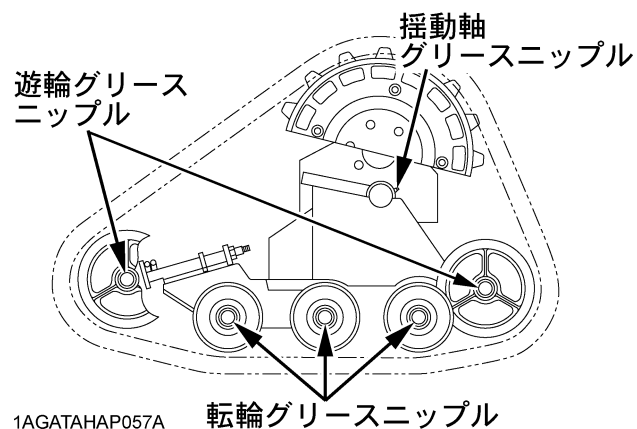
スプロケットは２分割で構成されています。

1. まず部で示した下側のスプロケットを新しいスプロケットに交換します。
2. 次に車軸をゆっくり回転させ，下側に来た２枚目のスプロケットを新しいものに交換します。
3. ２枚のスプロケットを交換した後，ゴムクローラの張り調整を行なってください。

■ゴムクローラの交換

1. ロックナットを緩め，次に調整ボルトを回転させ，クローラの張りを緩めます。
2. **［スプロケットの交換］**の部で示した下側のスプロケットを外します。
3. ２枚目のスプロケットを外さず残したまま下図に示す位置まで車軸をゆっくり回転させ，古いゴムクローラを外します。

4. 新しいゴムクローラにつけ換えた後，車軸を回転させ，スプロケットにゴムクローラを掛けます。
5. 外しておいたスプロケットを取り付けた後，最後にゴムクローラの張り調整を行なってください。

50 時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**［クボタ推奨グリース］**を使用してください。

[PC 仕様]
揺動軸・遊輪・転輪にグリースアップをしてください。

■エンジン始動システムの点検

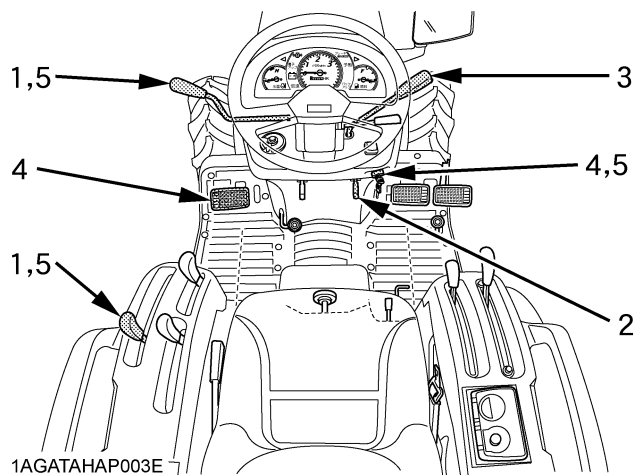
注　意

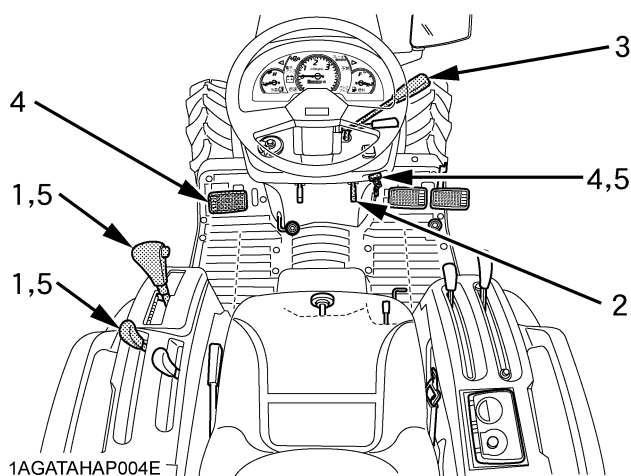
＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

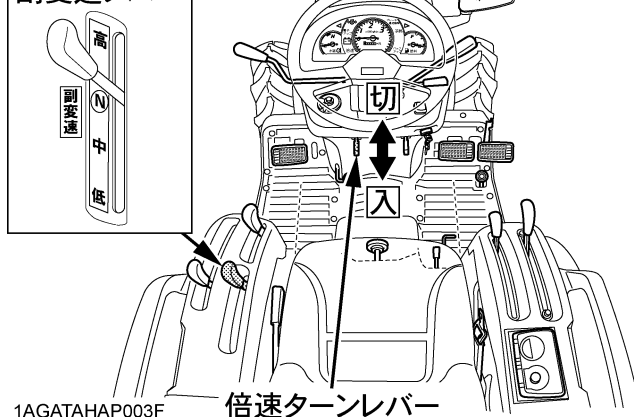
◆ 点検

[マニュアルシフト仕様]

1. 運転席に座り，シャトルレバー，PTO 変速レバーを **[中立] (N)** にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを **[最低速]** 位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時 **[始動]** 位置に回します。
   このとき，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，シャトルレバー又は PTO 変速レバーをいずれかの位置に変速し，キースイッチを瞬時 **[始動]** 位置に回します。
   このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

目次
困ったときには
安全
サービスと保証
小特の取扱い
運転のしかた
作業のしかた
安全キャブ
装備品の取扱い
トラクタの簡単な手入れと処置
付表
索引

［グライドシフト（F）仕様］

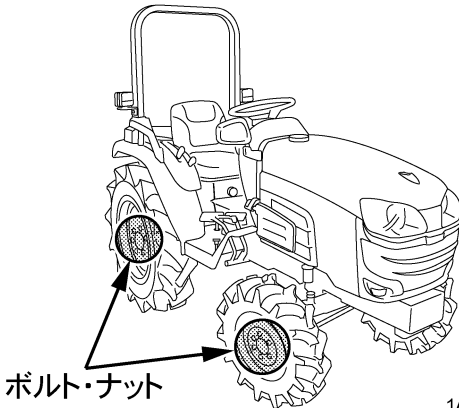
1. 運転席に座り，主変速レバー，PTO 変速レバーを **［中立］（N）** にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを **［最低速］** 位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時 **［始動］** 位置に回します。
   このとき，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，主変速レバー又は PTO 変速レバーをいずれかの位置に変速し，キースイッチを瞬時 **［始動］** 位置に回します。
   このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

■倍速ターン高速けん制装置の点検

＊ 装置に異常があれば必ず購入先に相談し，整備をした後，ご使用ください。

◆ 点検手順

1. 運転席に座り，前輪を直進状態にして副変速レバーを **［低］** 又は **［中］**，倍速ターンレバーを **［入］** にします。
2. 副変速レバーを **［高］** に入れます。
   このとき，けん制装置がはたらき，倍速ターンレバーは **［入］**（キースイッチ **［入］** のときは，倍速ターンランプも点灯）のまま，倍速ターンは作動しません。
3. この状態で実際に旋回し，倍速ターンが作動しなければ正常です。
   旋回は，平坦な広い場所で，エンジン回転を低くし安全確認を行なってから実施してください。
4. 前輪を直進状態にし，副変速レバーを **［低］** 又は **［中］** に入れると，けん制装置が自動復帰します。
   この状態で旋回し，倍速ターンが作動すれば正常です。

■タイヤ取付けボルトの点検

注　意

＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起こすおそれがあります。

■ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの点検・交換

注　意

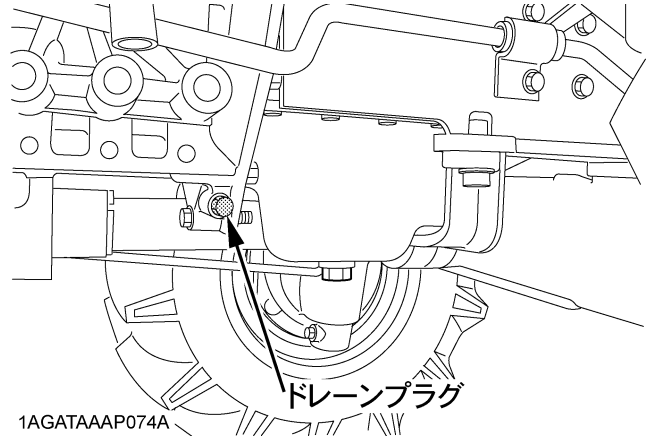
＊ ワイヤハーネス及びバッテリ（+）コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。

＊ バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

1. ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
2. ターミナル，ブロック（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
3. 各スイッチが確実に作動すること。

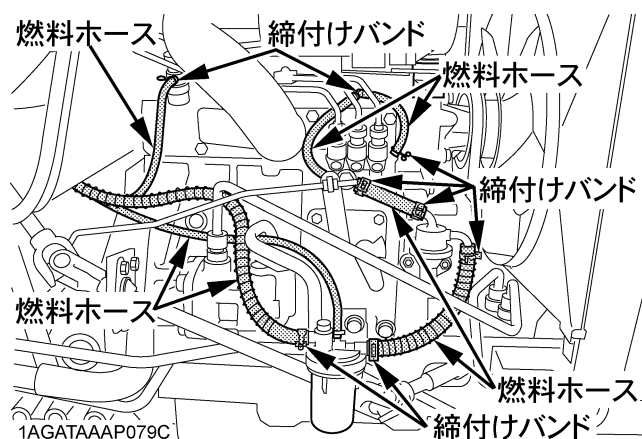
■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。

■燃料ホースの点検

注 意

＊ ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又はいたんだときには新品と交換する必要があります。

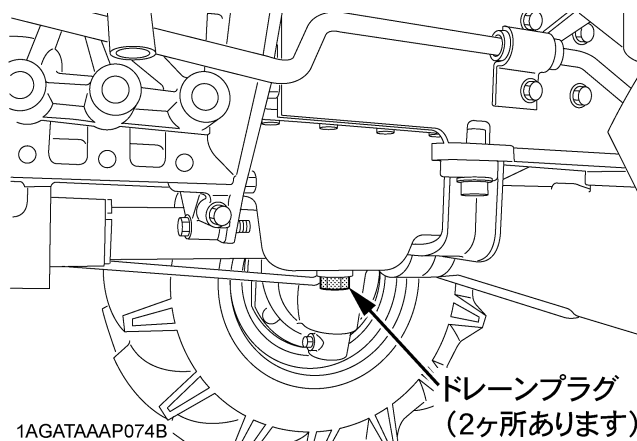
1. ホース類や締付けバンドがゆるんだり，いたんでいないか常に注意してください。
2. 燃料ホースを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
(**[トラクタの簡単な手入れと処置]**の章の**[燃料の空気抜きのしかた]**の項を参照)

重 要

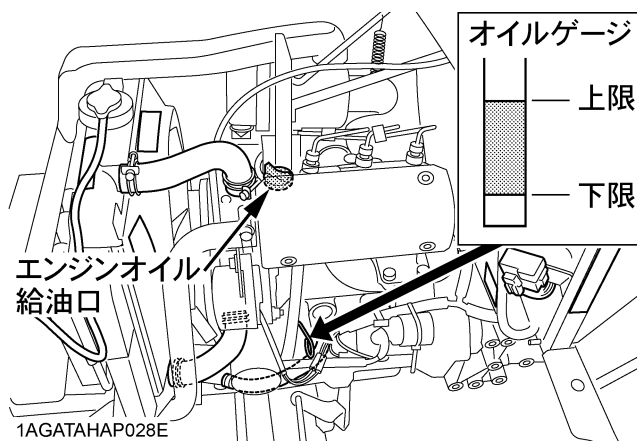
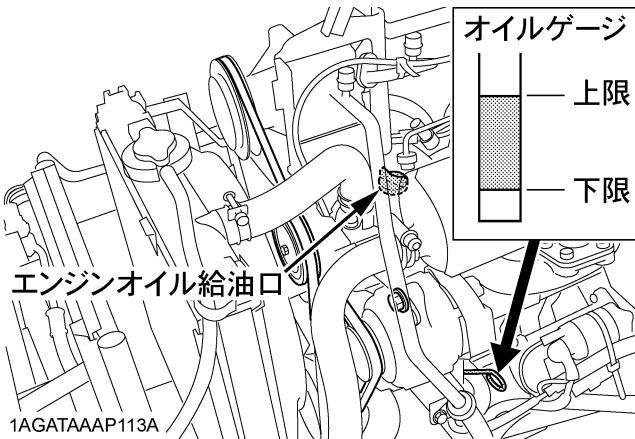
＊ 交換時にホースや噴射ポンプなどにごみが入らないように注意してください。ごみが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

100時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。

2. ドレーンプラグを締めます。
3. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。

[安全フレーム仕様]

[安全キャブ仕様]

重　要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 No. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ 気温により次のように使いわけてください。

15 ℃以下	D10W-30（オールシーズン用）
15 ℃以上	D30，又は D10W-30

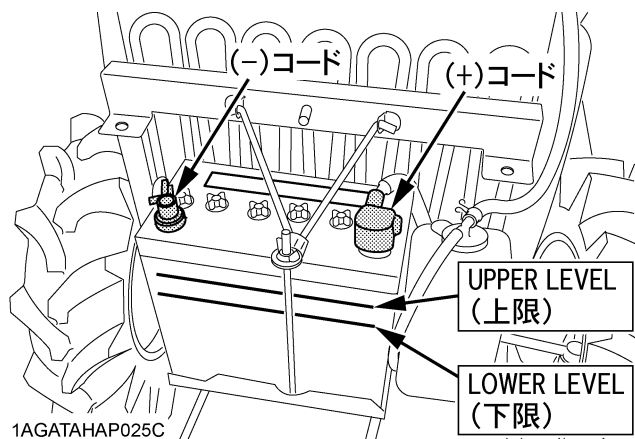
＊ 冬期は必ず D10W-30 を使用してください。
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

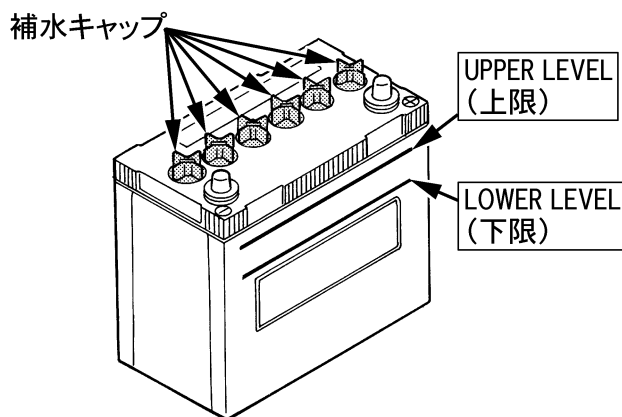
■バッテリ電解液の点検

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因になることがあります。すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

＊ バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。
＊ バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。
＊ バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（－）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（－）コードを接続してください。
＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆ **バッテリ液の点検**

バッテリは MF（メンテナンスフリー）バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが側面に２本の線（レベル）があり，その間に液面があればよく，少ないときは上側の線（レベル）まで蒸留水を補給してください。

◆ **補水のしかた**

1. バッテリ上ふたの補水キャップを外します。
2. ６個の補水穴から蒸留水を均一に上限の線（レベル）まで補水します。
3. キャップを元の穴にねじ込みます。

◆ **バッテリの取付け，取外し**

＊ バッテリを取外すときは，バッテリ（−）コードを最初に外し，次に（＋）コードを外してください。

＊ 取付けるときは，必ず（＋）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊ バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。

＊ 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式（50B24L）のバッテリを使用してください。

＊ バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（＋），（−）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆ **補充電のしかた**

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷のほかに配線などをいためることがあります。なお急速充電は行なわないでください。
2. バッテリコードを接続するときは，（＋）と（−）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）に，バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。

■エアクリーナエレメントの清掃

◆ エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は,エレメントを傷めないように注意しながら,エアーで吹き飛ばしてください。(エアーの圧力は 205 kPa (2.1 kgf/cm², 30 psi) を越えないように注意し, ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)
ダブルエレメントのエアクリーナはアウターエレメントだけを清掃してください。**[オプション]**

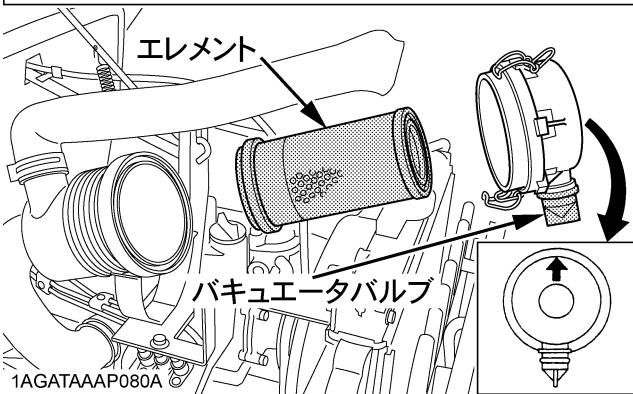
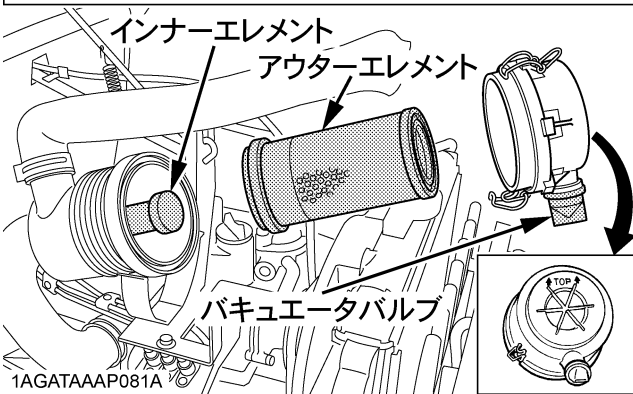
◆ エレメントの交換

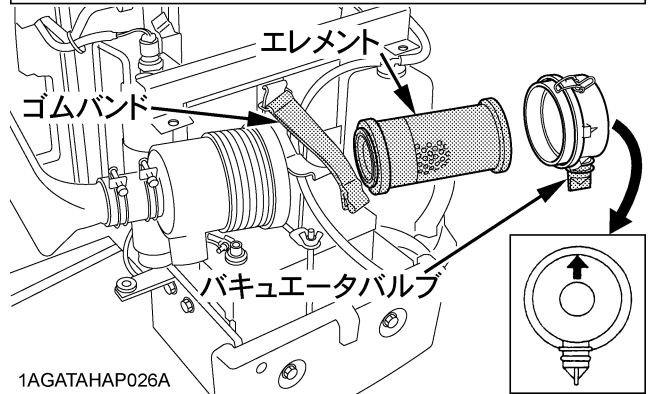
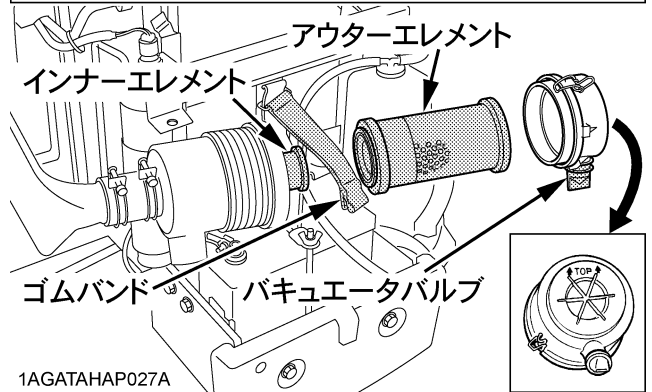
エレメントの交換は1年間使用後,又は6回掃除ごとに交換が必要です。

[安全フレーム仕様]

シングルエレメント[標準仕様]

ダブルエレメント[オプション]

インナーエレメント
アウターエレメント
バキュエータバルブ
1AGATAAAP081A

[安全キャブ仕様]

シングルエレメント[標準仕様]

ダブルエレメント[オプション]

重 要

* ＊ エレメントは,清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
* ＊ 乾式エレメントを使用していますので,オイルを使用しないでください。
* ＊ 清掃時,エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し,エンジンを損傷することがあります。変形したときは,すぐに新しいエレメントと交換してください。
* ＊ ダストカップの(⬆ マーク)を必ず上向きになるように取付けてください。
* ＊ インナーエレメントは交換時以外はさわらないでください。**[オプション]**

◆ バキュエータバルブの清掃

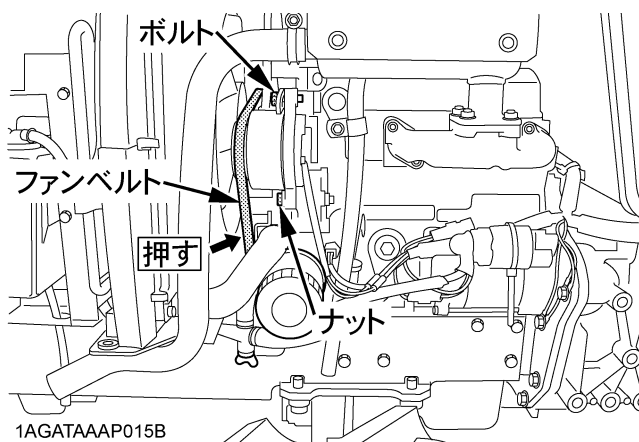
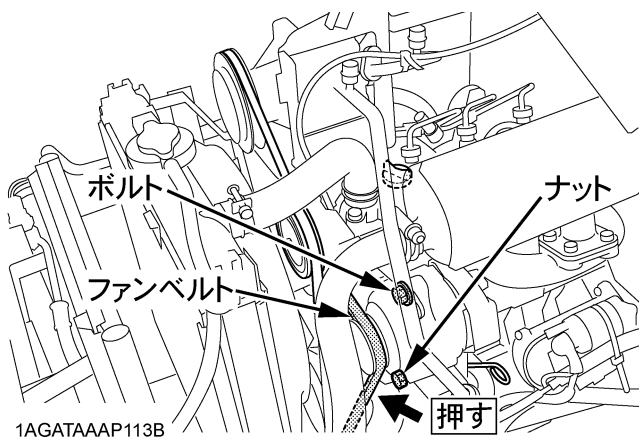
バキュエータバルブを開き,大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 10 kgf の力で抑えて，約 7 mm たわむ程度

◆ 調整方法

1. ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
2. 調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。

[安全フレーム仕様]

[安全キャブ仕様]

重　要

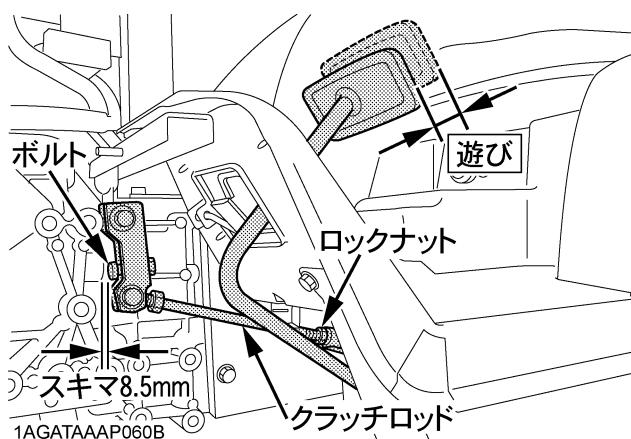
＊ ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊ き裂やはがれがあれば交換してください。

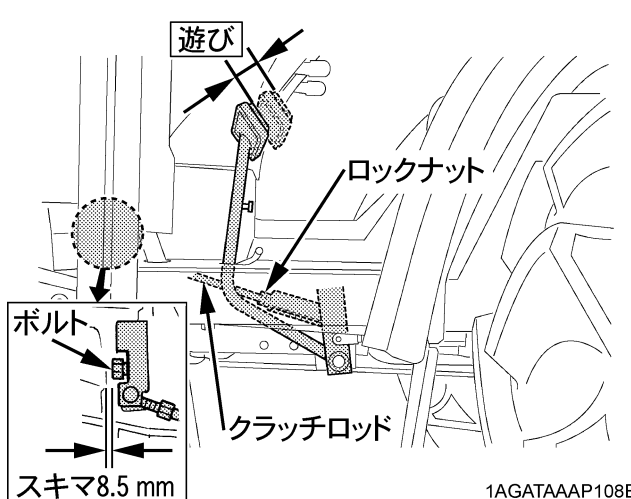
■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで 20 ～ 30mm

◆ 調整方法

1. ロックナットをゆるめクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
3. 調整後クラッチペダルを解放し，スキマを点検します。
   もし調整が必要なときは，ボルトで調整します。

[安全フレーム仕様]

[安全キャブ仕様]

重　要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起こし損傷につながります。

■ブレーキペダルの点検・調整

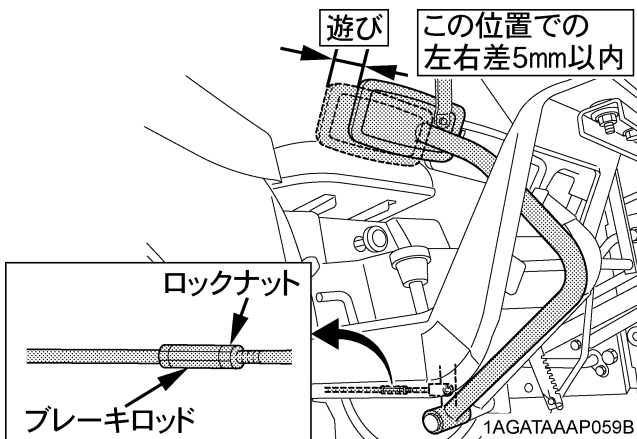
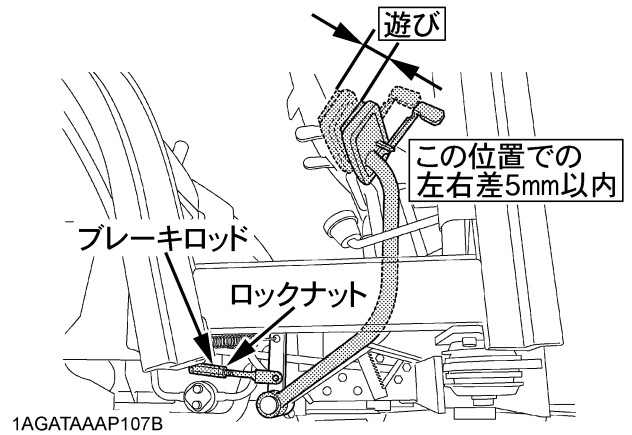
警 告

- ＊ **点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。**
- ＊ **ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。**
- ＊ **調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず［5 mm 以内］にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起こすおそれがあります。**

適正遊び量	ペダルで 15 ～ 20mm

◆ 調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめブレーキロッドで，ペダルの遊びを調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
4. 駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。

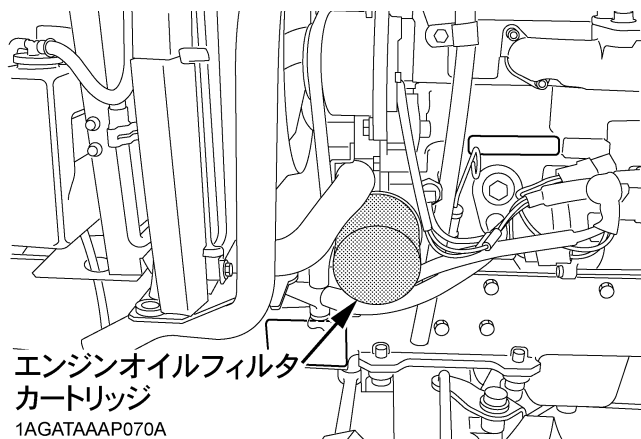
［安全フレーム仕様］

［安全キャブ仕様］

目次
困ったときには
安全
サービスと保証
小特の取扱い
運転のしかた
作業のしかた
安全キャブ
装備品の取扱い
トラクタの簡単な手入れと処置
付表
索引

200 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注　意

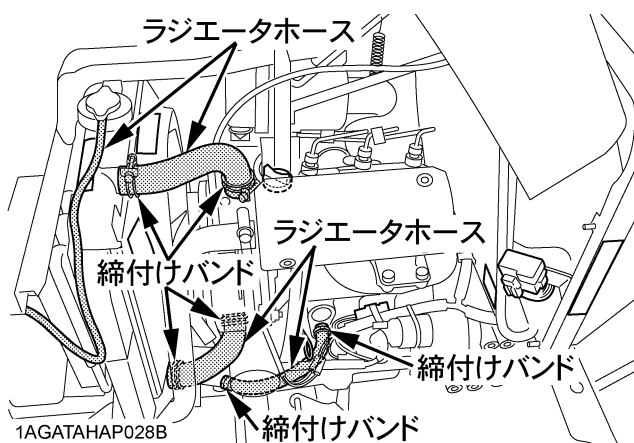
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油もれがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。

補　足

＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

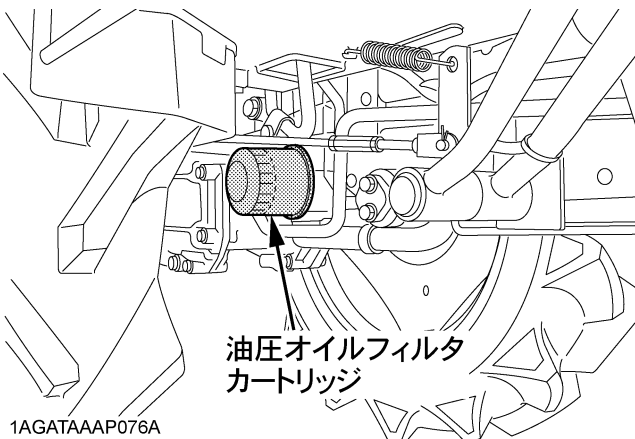
■ラジエータホースの点検

＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又はいたんだときには新品と交換する必要があります。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

注　意

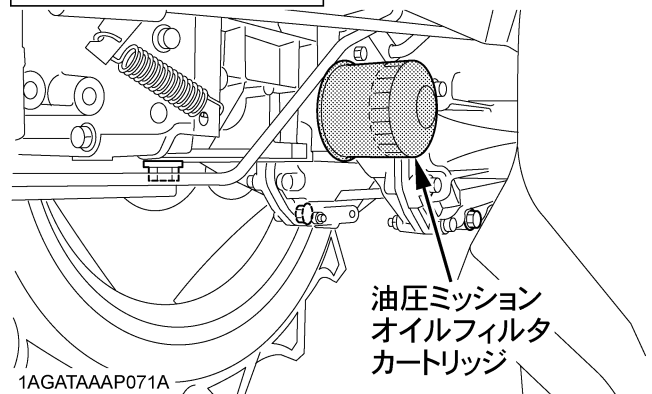
＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。
指定の純正部品を使用しないと，油圧システムに問題を起こすおそれがあります。

1. ミッションオイルを抜きます。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
4. ミッションオイルを規定量まで補給します。
5. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
6. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
   （ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは **［300 時間ごとの点検・整備］** の **［ミッションオイルの交換］** の項を参照）

■油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換

＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

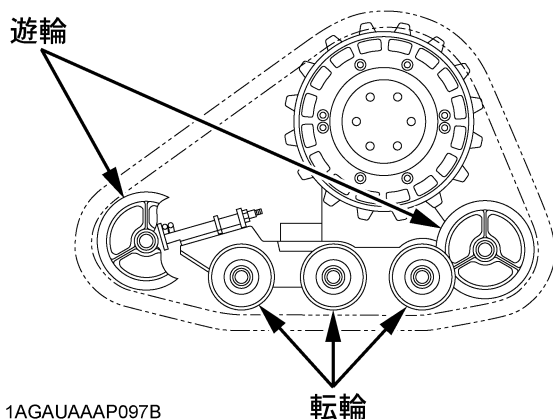
純正部品のカートリッジと交換してください。
指定の純正部品を使用しないと，油圧システムに問題を起こすおそれがあります。

［グライドシフト（F）仕様］

1. ミッションオイルを抜きます。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
4. ミッションオイルを規定量まで補給します。
5. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
6. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
   （ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは **［300 時間ごとの点検・整備］** の **［ミッションオイルの交換］** の項を参照）

■転輪・遊輪のオイルシール点検

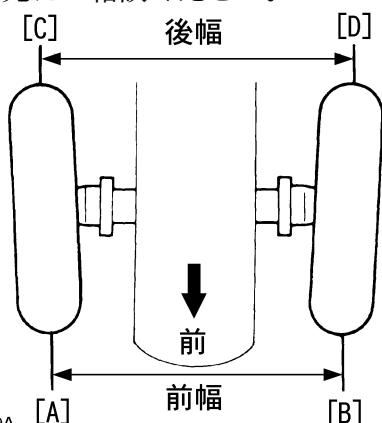
[PC 仕様]

クローラの転輪・遊輪のオイルシールは，200 時間ごとに点検・チェックの上，異常があれば交換してください。

1AGAUAAAP097B

■トーイン調整・タイロッドの点検

＊ **トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。**

◆ 点検

前輪の前幅 (A)(B) と後幅 (C)(D) を測り，(C)(D)−(A)(B)=0 ～ 20 mm になっているかを調べます。この数字から外れている場合は修理を必要としますので購入先にご相談ください。

1AGAAAPAP059A

補　足

＊ トーインの点検時，タイロッドエンド（間接球）やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。

＊ 標準空気圧で，トーインの点検を行なってください。

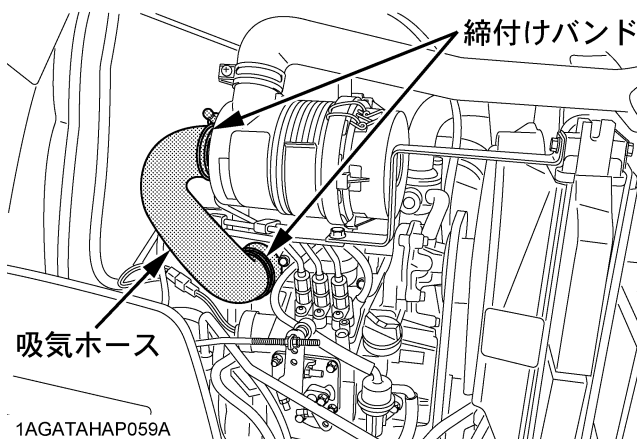
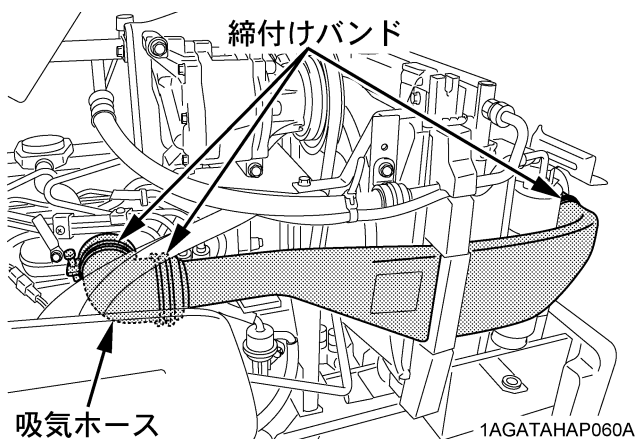
■吸気ホースの点検

吸気ホースに痛みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。

[安全フレーム仕様]

1AGATAHAP059A

[安全キャブ仕様]

1AGATAHAP060A

以下は安全キャブ仕様のみの点検項目です。

■室内エアフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタの網目を損傷させないように清掃をしてください。

1AGATAAAP0101D

■外気フィルタの清掃

ノブボルトを外し，カバーとフィルタをいっしょに外します。

1AGATAAAP159A

補　足

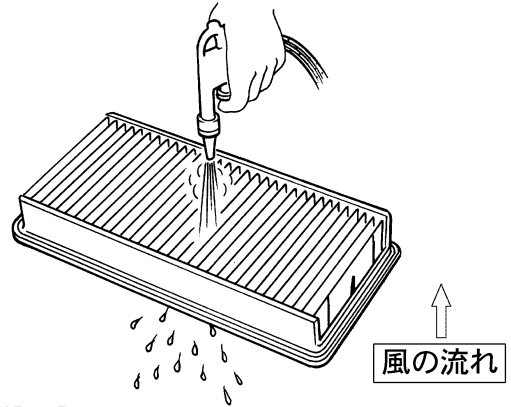
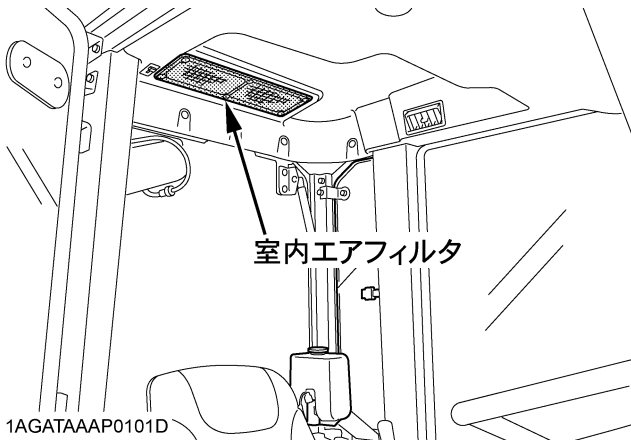
＊ カバーの空気導入口を内側に向けて組付けてください。

◆ 清掃法

●「通常」

風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

重　要

＊ エレメントをたたかないでください。
エレメントが変形すると，エアコンユニットにほこりが浸入し，エアコンを損傷する場合があります。

1AGALAFAP314B

●「汚れが著しいとき」

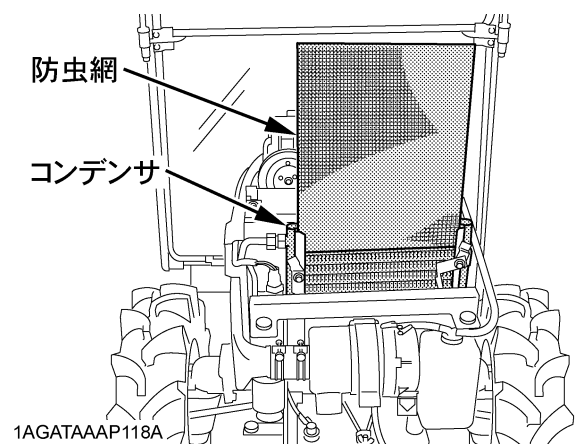
家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

重　要

＊ 洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

■エアコンコンデンサの詰まり

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

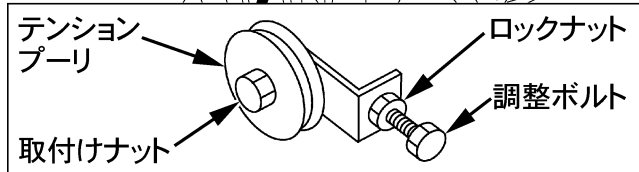
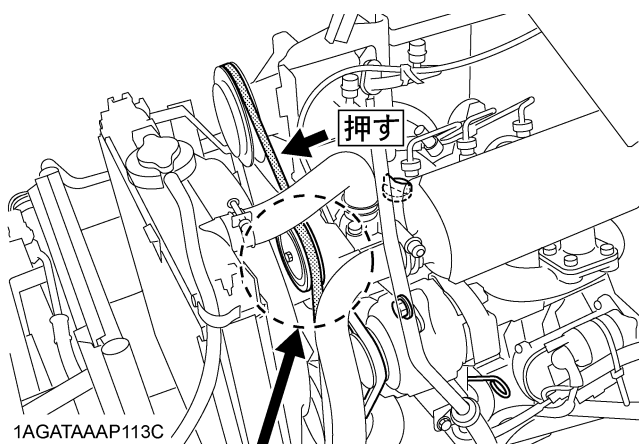
防虫網を引出してコンデンサフィンにごみが詰まっていればエアブロー又は水道水などで取除いてください。

1AGATAAAP118A

目次
困ったときには
安全
サービスと保証
小特の取扱い
運転のしかた
作業のしかた
安全キャブ
装備品の取扱い
トラクタの簡単な手入れと処置
付表
索引

■エアコンベルトの張り

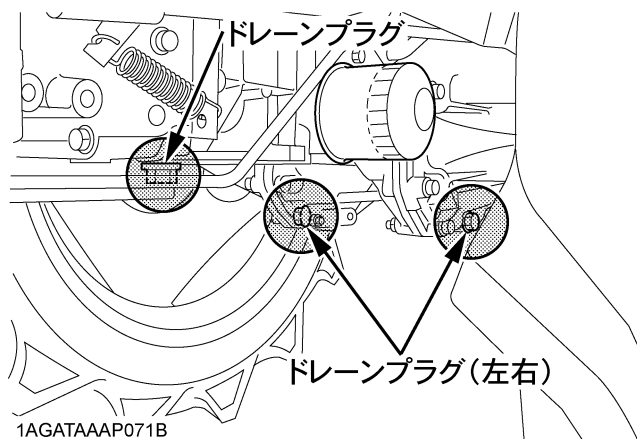
＊ **点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。**

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約98N（10kgf）の力で押さえて，約10～12mmたわむ程度

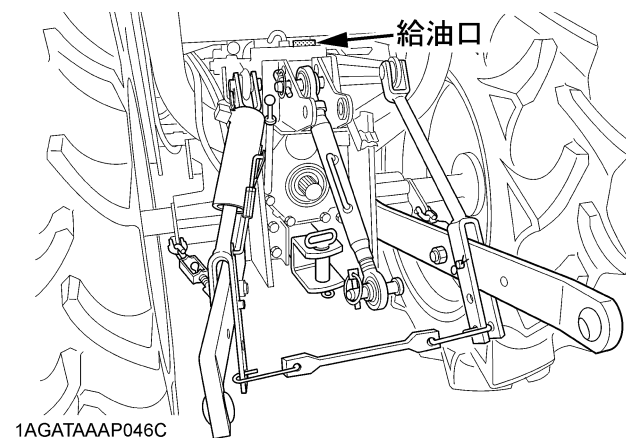
◆ 調整方法
テンションプーリ取付けナットをゆるめ，調整ボルトで張ります。

300時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

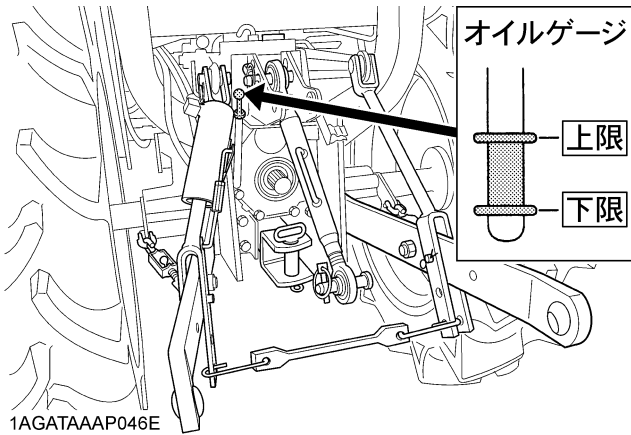
＊ **交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。**

1. ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。

補　足

＊ 給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

2. ドレーンプラグを締めます。
3. 給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

4. 約5分間運転し，ドレーンプラグ締付け部より油漏れがないか確認し，エンジンを停止します。

5. 一度オイルゲージの油を拭き取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給します。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。

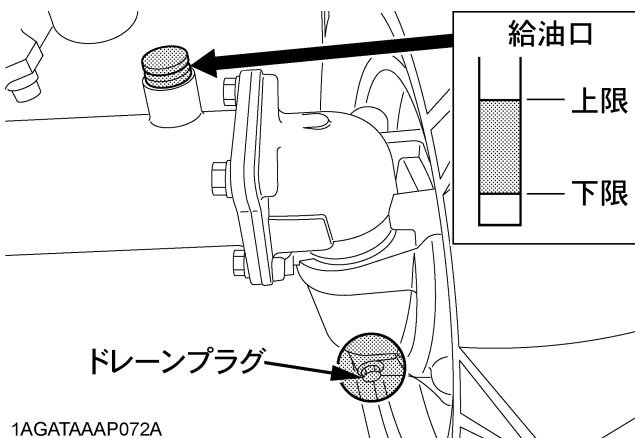
1AGATAAAP046E

■前車軸ケースオイルの交換

1. ドレーンプラグ（左右とも）と給油プラグを外してオイルを抜きます。
2. ドレーンプラグを締めます。（左右とも）
3. 給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

重　要

＊ オイルが左右のケースに充満するまで時間がかかります。
給油の約 10 分後，給油プラグを差込み油面を点検し，不足していれば補給します。

4. 給油プラグを確実に差込んでください。

1AGATAAAP072A

400 時間ごとの点検・整備

■燃料フィルタエレメントの清掃・交換

燃料が満タンに近い場合はカップを外したとき，燃料戻りチューブからフィルタに燃料が逆流します。
フィルタエレメント交換の作業は，燃料タンクの燃料が半分以下のときに実施してください。

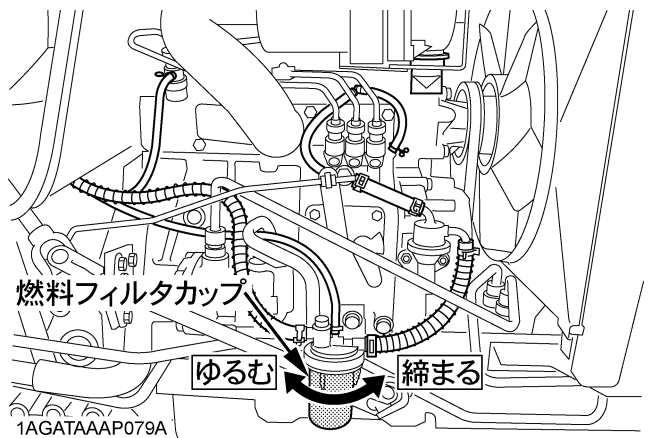
1. カップを［ゆるむ］方向へ回してカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
2. 新しいフィルタエレメントと交換します。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ エレメント交換後は，必ず空気抜きをしてください。（［トラクタの簡単な手入れと処置］の章の［燃料の空気抜きのしかた］の項を参照）

補　足

＊ フィルタカップを外すと，燃料タンクからの流出燃料は自動的に止まります。

1AGATAAAP079A

800 時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

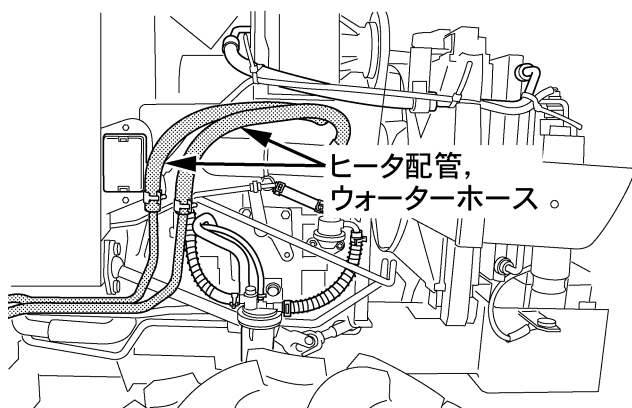
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1 年ごとの点検・整備

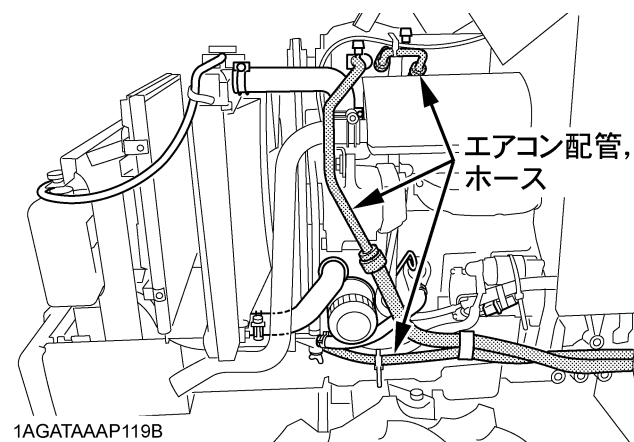
■エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は 1 年間使用後, 又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。ダブルエレメントのエアクリーナ［**オプション**］はインナー・アウターとも交換が必要です。
（**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［エアクリーナエレメントの清掃］**の項を参照。）

以下は安全キャブ仕様のみの点検項目です。

■ヒータ配管，ウォータホースの点検

各配管及びウォータホースの損傷を点検してください。

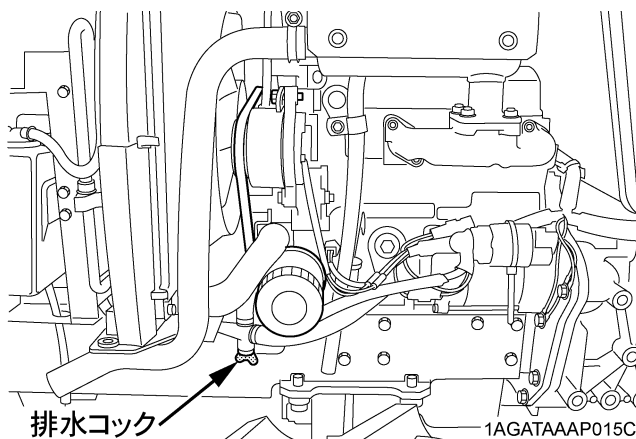
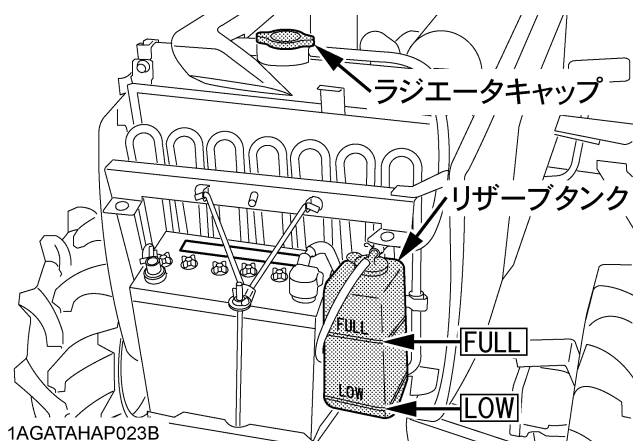
■エアコン配管，ホースの点検

各配管及びホースの損傷を点検してください。

2 年ごとの点検・整備

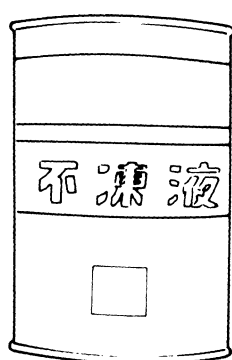
■冷却水の交換

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
2. リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。

1AGATAHAP023B

3. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めオーバフローパイプを取付けます。
4. ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

◆ 不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
（工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。）

1AGAAAPAP097A

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を50％入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊ 不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比％	保証不凍結温度
10	-4
15	-5
20	-8
25	-11.5
30	-15
35	-20
40	-25
45	-30
50	-35
55	-40

■ラジエータの洗浄

洗浄には，ラジエータ洗浄剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
＊ ２年使用ごと
＊ 不凍液を混入するとき
＊ 不凍液混入から水だけに変えるときなどに使用してください。

■ラジエータホースの交換

■燃料ホースの交換

■吸気ホースの交換

■モンローシリンダホースの交換［MA 仕様］

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

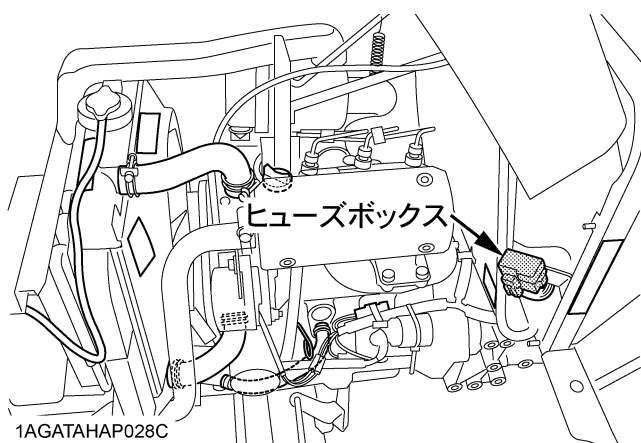
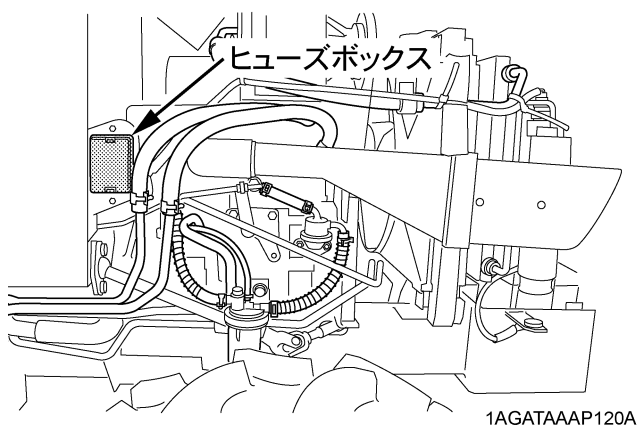
1. タンクに燃料を満たす。
2. エンジンを始動し，約 1 分間運転後停止する。

■ヒューズの交換

［安全フレーム仕様］

1AGATAHAP028C

［安全キャブ仕様］

1AGATAAAP120A

1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

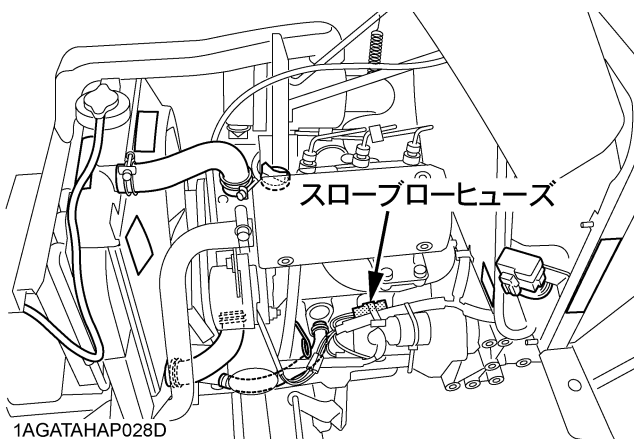
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊ トラクタに作業灯などを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換

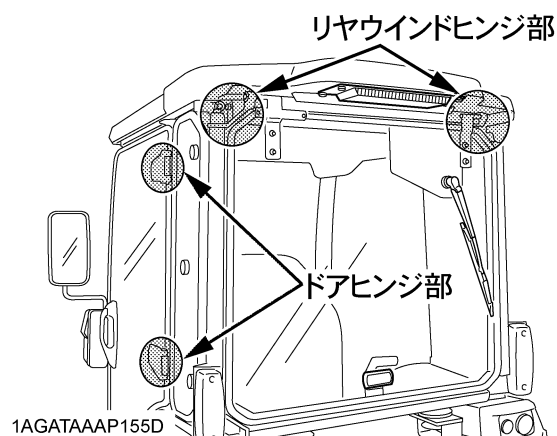
スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

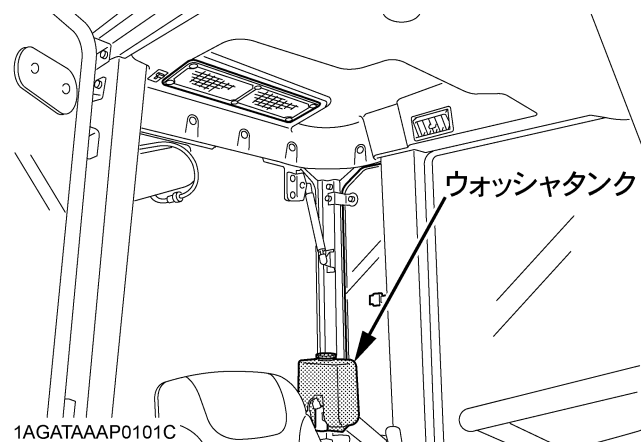
1AGATAHAP028D

■ランプ類の交換

1. ヘッドランプ，サイド作業灯は，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2. その他のランプはレンズを外し，バルブを交換します。

以下は安全キャブ仕様のみの点検項目です。

■注油

1AGATAAAP155D

■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。

重　要

＊ 凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。
＊ 空回しはポンプを損傷させる原因になりますので空運転をしないでください。
＊ ウォッシャノズルの詰まりを防ぐために，ごみが入らないようにしてください。

■冷媒（ガス）量の点検

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

エアコンの冷えが悪くなった場合は購入先で点検及び充てんをしてもらってください。

格納

■長期格納時の手入れ

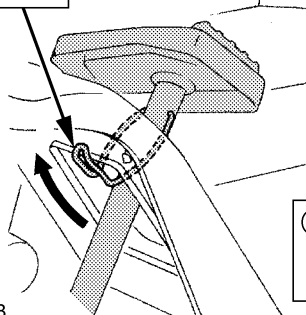
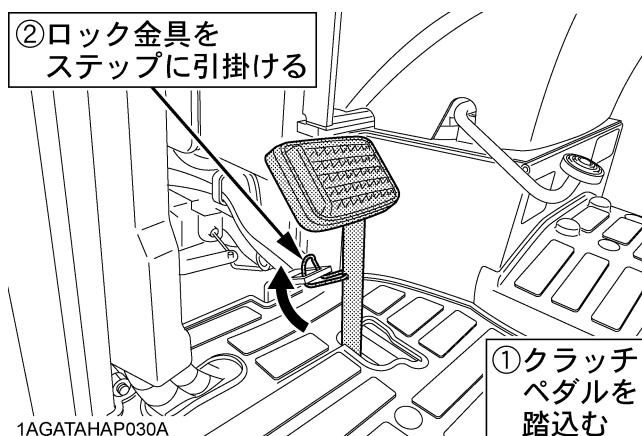
＊ 長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ［切り］に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。
＊ シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。

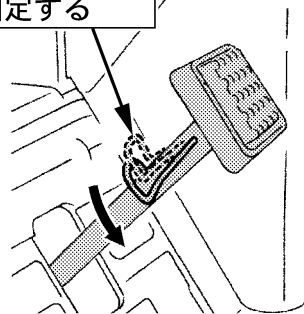
トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000 回転／分以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
6. クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

◆ クラッチ［切］保持（ロック）の方法

(1) ロック金具をペダル軸から引上げます。
(2) クラッチペダルをいっぱい踏込み，ロック金具を引上げ，ステップに引掛けると保持（ロック）できます。

［安全フレーム仕様］

［安全キャブ仕様］

◆ クラッチ［切］解除の方法

(1) クラッチペダルをいっぱい踏込むとロック金具がステップから外れます。
(2) 外れたロック金具は確実にペダル軸に押込みガタつかないように固定してください。

※イラストは安全フレーム仕様

7. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。
8. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
9. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
10. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
11. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
12. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
13. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
14. 格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

重　要

＊ 長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因になります。
＊ 灯火類は消灯した状態で洗車してください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。
＊ 格納時は，必ず **［切］** の位置でキーを抜いておいてください。
＊ バッテリの取付けの際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタの電子機器類が破損する場合があります。

不調と処置

■エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	1. 燃料が流れない。	● 燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	2. 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	● ホース・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ● 空気抜きをする。 （**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）
	3. 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い	● ラジエータに熱湯をそそぐ。 ● 気温によってオイルの使い分けをする。 （冬期は 10W-30 を使用）
	4. バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	● バッテリを充電する。
出力不足の場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料の流れ不足	● 燃料フィルタの清掃をする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
突然停止した場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料が流れない	● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	1. 燃料が悪い。	● 良質の燃料に交換する。
	2. エンジンオイルの入り過ぎ	● 正規のオイル量にする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
水温計がＨ付近を示すとき	1. 冷却水が 125 ℃付近になったため。	● 冷却水の量（不足）及び水もれの点検 ● ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ● フロントグリル，ラジエータの防虫網にごみの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	1. 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	● 負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	2. ノズル不良	● ノズルを点検する。
	3. 燃料不良	● 良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

<table>
<tr><td colspan="3">型　　式　　名</td><td>KB165</td><td>KB165F</td><td>KB185</td><td>KB185F</td></tr>
<tr><td colspan="3">駆　動　方　式</td><td colspan="4">４輪駆動</td></tr>
<tr><td rowspan="7">機体寸法</td><td colspan="2">全　長（mm）（注）</td><td colspan="2">2320</td><td colspan="2">2345</td></tr>
<tr><td colspan="2">全　幅（mm）</td><td colspan="2">1075</td><td colspan="2">1050</td></tr>
<tr><td colspan="2">全　高（mm）</td><td colspan="2">1870</td><td colspan="2">1900</td></tr>
<tr><td colspan="2">軸　距（mm）</td><td colspan="4">1350</td></tr>
<tr><td rowspan="2">輪距</td><td>前輪（mm）</td><td colspan="2">880</td><td colspan="2">850</td></tr>
<tr><td>後輪（mm）</td><td colspan="4">810（900）</td></tr>
<tr><td colspan="2">最低地上高（mm）</td><td colspan="2">335</td><td colspan="2">350</td></tr>
<tr><td colspan="3">質量（重量）（kg）</td><td>690</td><td>715</td><td>695</td><td>720</td></tr>
<tr><td rowspan="8">エンジン</td><td colspan="2">機関型式</td><td colspan="4">D1005</td></tr>
<tr><td colspan="2">形式</td><td colspan="4">水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル（E-TVCS）</td></tr>
<tr><td colspan="2">総排気量Ｌ（cc）</td><td colspan="4">1.001（1001）</td></tr>
<tr><td colspan="2">出力／回転速度
kw/rpm（PS/rpm）</td><td colspan="2">12.1/2600
（16.5/2600）</td><td colspan="2">13.6/2600
（18.5/2600）</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用燃料</td><td colspan="4">ディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td colspan="2">燃料タンク容量</td><td colspan="4">27</td></tr>
<tr><td colspan="2">始動方式</td><td colspan="4">セルモータ式</td></tr>
<tr><td colspan="2">バッテリ</td><td colspan="4">50B24L-MF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">タイヤ</td><td colspan="2">前輪</td><td colspan="2">6-12</td><td colspan="2">6.00-12</td></tr>
<tr><td colspan="2">後輪</td><td colspan="2">8.3-20</td><td colspan="2">8.3-22</td></tr>
<tr><td rowspan="5">車体</td><td colspan="2">クラッチ方式</td><td colspan="4">乾式単板（シングル）</td></tr>
<tr><td colspan="2">制動装置</td><td colspan="4">一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）</td></tr>
<tr><td colspan="2">かじ取り方式</td><td colspan="4">インテグラル型パワーステアリング</td></tr>
<tr><td colspan="2">差動方式</td><td colspan="4">２ピニオンかさ歯車式（デフロック付）</td></tr>
<tr><td colspan="2">変速方式</td><td colspan="4">選択かみ合式，常時かみ合式併用（［Ｆ 仕様］油圧無段変速併用）</td></tr>
<tr><td colspan="3">変速段数</td><td>前進９段後進９段</td><td>前後進
無段</td><td>前進９段
後進９段</td><td>前後進
無段</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">走行速度
(km/h)</td><td>前進</td><td>0.55 ～ 12.95</td><td>0 ～ 13.15</td><td>0.59 ～ 14.9</td><td>0 ～ 14.0</td></tr>
<tr><td>後進</td><td>0.55 ～ 12.95</td><td>0 ～ 12.53</td><td>0.59 ～ 14.9</td><td>0 ～ 13.3</td></tr>
<tr><td colspan="3">最小旋回半径（m）</td><td colspan="4">1.7</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ＰＴＯ</td><td>回転速度／
エンジン
回転速度</td><td>rpm</td><td colspan="4">530，799，1182，662（逆転）／ 2600</td></tr>
<tr><td colspan="2">軸寸法（mm）</td><td colspan="4">JIS35</td></tr>
<tr><td rowspan="2">作業機
昇降装置</td><td colspan="2">制御方式</td><td colspan="4">ポジションコントロール</td></tr>
<tr><td colspan="2">装置方式</td><td colspan="4">３点リンク JIS Ｏ 型</td></tr>
</table>

注）・全長はバンパ先端から後輪タイヤ後端までの寸法です。
　　・輪距の（　）は調節できますが，道路走行はしないでください。

型式名			KB205	KB205F	KB205Q	KB205FQ	KB225	KB225F	KB225Q	KB225FQ
駆動方式			４輪駆動							
機体寸法	全長（mm）（注）		2345		2480		2370		2505	
	全幅（mm）		1130		1210		1180		1260	
	全高（mm）		1900		1960		1955		1990	
	軸距（mm）		1350		1365		1350		1365	
	輪距	前輪（mm）	850				900		985	
		後輪（mm）	890		970		950		1030	
	最低地上高（mm）		350				375			
質量（重量）（kg）			705	730	860	885	715	740	870	895
エンジン	機関型式		D1105				D1305			
	形式		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル（E-TVCS）							
	総排気量 L（cc）		1.123（1123）				1.261(1261)			
	出力／回転速度 kw/rpm（PS/rpm）		15.1/2600 (20.5/2600)				16.5/2600 (22.5/2600)			
	使用燃料		ディーゼル軽油							
	燃料タンク容量		27		21		27		21	
	始動方式		セルモータ式							
	バッテリ		50B24L-MF							
タイヤ	前輪		6.00-12						6-14	
	後輪		9.5-20						9.5-22	
車体	クラッチ方式		乾式単板（シングル）							
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）							
	かじ取り方式		インテグラル型パワーステアリング							
	差動方式		２ピニオンかさ歯車式（デフロック付）							
	変速方式		選択かみ合式，常時かみ合式併用（**［F 仕様］**油圧無段変速併用）							
変速段数			前進９段 後進９段	前後進 無段	前進９段 後進９段	前後進 無段	前進９段 後進９段	前後進 無段	前進９段 後進９段	前後進 無段
走行速度 (km/h)		前進	0.59～14.9	0～14.0	0.59～14.9	0～14.0	0.6～14.4	0～14.0	0.6～14.4	0～14.0
		後進	0.59～14.9	0～13.3	0.59～14.9	0～13.3	0.6～14.4	0～13.3	0.6～14.4	0～13.3
最小旋回半径（m）			1.7							
PTO	回転速度／エンジン回転速度	rpm	530，799，1182，662（逆転）／2600	530，799，1182，662（逆転）／2600						
	軸寸法（mm）		JIS35							
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール							
	装置方式		３点リンク JIS Ｏ型							

注）・全長はバンパ先端から後輪タイヤ後端までの寸法です。
　　・輪距の（　）は調節できますが，道路走行はしないでください。

付表

<table>
<tr><td colspan="3">型式名</td><td colspan="13">－</td></tr>
<tr><td colspan="3">商品名</td><td colspan="3">KB185PC</td><td colspan="5">KB205PC</td><td colspan="5">KB225PC</td></tr>
<tr><td colspan="3">安全フレーム／
安全キャビン</td><td colspan="3">安全フレーム</td><td colspan="3">安全フレーム</td><td colspan="2">安全キャブ</td><td colspan="3">安全フレーム</td><td colspan="2">安全キャブ</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">クローラタイプ</td><td>PC1</td><td>PC2</td><td>PC3</td><td>PC1</td><td>PC2</td><td>PC3</td><td>PC1</td><td>PC2</td><td>PC1</td><td>PC2</td><td>PC3</td><td>PC1</td><td>PC2</td></tr>
<tr><td>片ばしご
(VP)</td><td>ハイラグ
(WP)</td><td>幅狭
(ZP)</td><td>片ばしご
(VP)</td><td>ハイラグ
(WP)</td><td>幅狭
(ZP)</td><td>片ばしご
(VP)</td><td>ハイラグ
(WP)</td><td>片ばしご
(VP)</td><td>ハイラグ
(WP)</td><td>幅狭
(ZP)</td><td>片ばしご
(VP)</td><td>ハイラグ
(WP)</td></tr>
<tr><td rowspan="9">機体寸法</td><td rowspan="2">全長
(mm)</td><td>安全フレーム</td><td colspan="13">2365(PC1:片ばしご) 2370(PC2:ハイラグ) 2355(PC3:幅狭) (フロントフレーム～クローラ後端)</td></tr>
<tr><td>安全キャブ</td><td colspan="13">2515(PC1:片ばしご) 2520(PC2:ハイラグ) (フロントフレーム～クローラ後端)</td></tr>
<tr><td colspan="2">全幅（mm）</td><td colspan="13">PC1,PC2:1260(クローラ部) PC3:1120(クローラ部) 1195(前輪接地点幅)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">全高
(mm)</td><td>安全フレーム</td><td colspan="13">1965(PC1:片ばしご) 1970(PC2:ハイラグ) 1958(PC3:幅狭)</td></tr>
<tr><td>安全キャブ</td><td colspan="13">2025(PC1:片ばしご) 2030(PC2:ハイラグ)</td></tr>
<tr><td colspan="2">軸距（mm）</td><td colspan="6">1350</td><td colspan="2">1365</td><td colspan="3">1350</td><td colspan="2">1365</td></tr>
<tr><td rowspan="2">輪距</td><td>前輪（mm）</td><td colspan="13">1020</td></tr>
<tr><td>後輪（mm）</td><td colspan="13">PC1,PC2:930 PC3:920(クローラ中央部)</td></tr>
<tr><td colspan="2">最低地上高（mm）</td><td colspan="13">365(PC1:片ばしご) 370(PC2:ハイラグ) 360(PC3:幅狭)(クローラフレーム)</td></tr>
<tr><td colspan="3">質量（kg）［F仕様］</td><td colspan="2">845
(870)</td><td>835
(860)</td><td colspan="2">855
(880)</td><td>845
(870)</td><td colspan="2">1010
(1035)</td><td colspan="2">865
(890)</td><td>855
(880)</td><td colspan="2">1020
(1045)</td></tr>
<tr><td rowspan="8">エンジン</td><td colspan="2">型式名</td><td colspan="3">D1005</td><td colspan="5">D1105</td><td colspan="5">D1305</td></tr>
<tr><td colspan="2">種類</td><td colspan="13">水冷４サイクル３気筒ディーゼル（E-TVCS）</td></tr>
<tr><td colspan="2">総排気量（L{cc}）</td><td colspan="3">1.001{1001}</td><td colspan="5">1.123{1123}</td><td colspan="5">1.261{1261}</td></tr>
<tr><td colspan="2">出力／回転速度
kW{PS}/rpm</td><td colspan="3">13.6{18.5}/2600</td><td colspan="5">15.1{20.5}/2600</td><td colspan="5">16.5{22.5}/2600</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用燃料</td><td colspan="13">ディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td colspan="2">燃料タンク容量（L）</td><td colspan="13">14</td></tr>
<tr><td colspan="2">始動方式</td><td colspan="13">セルモータ式</td></tr>
<tr><td colspan="2">バッテリ</td><td colspan="13">50B24L-MF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">タイヤ</td><td colspan="2">前輪</td><td colspan="13">6-14-2PR</td></tr>
<tr><td colspan="2">後輪</td><td colspan="13">クローラ</td></tr>
<tr><td colspan="3">ゴムクローラサイズ</td><td colspan="13">PC1,PC2:330 × 34 × 84 PC3:200 × 34 × 84（幅×ラグ数×ラグピッチ）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">車体</td><td colspan="2">クラッチ形式</td><td colspan="13">乾式単板</td></tr>
<tr><td colspan="2">ブレーキ形式</td><td colspan="13">ディスク式（湿式）</td></tr>
<tr><td colspan="2">かじ取り方式</td><td colspan="13">パワーステアリング（インテグラル式）</td></tr>
<tr><td colspan="2">差動方式</td><td colspan="13">２ピニオンかさ歯車式（デフロック付）</td></tr>
<tr><td colspan="2">変速方式</td><td colspan="13">選択かみ合式，常時かみ合式併用（［F仕様］油圧無段変速併用）</td></tr>
<tr><td colspan="3">変速段数</td><td colspan="13">前進９段，後進９段 （［F仕様］前後進無段）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">走行速度
(km/h)</td><td>前</td><td colspan="13">0.6 ～ 13.2 （［F仕様］0.2 ～ 12.38）</td></tr>
<tr><td>後</td><td colspan="13">0.6 ～ 13.2 （［F仕様］0.4 ～ 11.76）</td></tr>
<tr><td colspan="3">最小旋回半径（m）</td><td colspan="13">1.7</td></tr>
<tr><td rowspan="2">PTO</td><td>回転速度／
エンジン
回転速度</td><td>rpm</td><td colspan="13">530，799，1182，662（逆転）/2600</td></tr>
<tr><td colspan="2">軸寸法（mm）</td><td colspan="13">JIS35</td></tr>
<tr><td rowspan="2">作業機
昇降
装置</td><td colspan="2">制御方式</td><td colspan="13">ポジションコントロール</td></tr>
<tr><td colspan="2">装置方式</td><td colspan="13">３点リンク JIS Ｏ型</td></tr>
</table>

この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

■走行速度表

(km/h)

マニュアルシフト仕様									
副変速レバー	主変速レバー	KB165		KB185		KB205(Q)		KB225(Q)	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
低	1 2 3	0.55 0.94 1.48	0.55 0.94 1.48	0.59 1.01 1.58	0.59 1.01 1.58	0.59 1.01 1.58	0.59 1.01 1.58	0.60 1.00 1.55	0.60 1.00 1.55
中	1 2 3	1.11 1.89 2.96	1.11 1.89 2.96	1.18 2.02 3.17	1.18 2.02 3.17	1.18 2.02 3.17	1.18 2.02 3.17	1.34 2.32 3.45	1.34 2.32 3.45
高	1 2 3	4.84 8.26 12.95	4.84 8.26 12.95	5.18 8.82 14.9	5.18 8.82 14.9	5.18 8.82 14.9	5.18 8.82 14.9	5.19 8.60 14.38	5.16 8.60 14.38

(km/h)

グライドシフト(F)仕様								
副変速レバー	KB165F		KB185F		KB205F		KB225F(Q)	
	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
低	0.18～2.11	0.35～1.90	0.21～2.43	0.40～2.18	0.21～2.43	0.40～2.18	0.21～2.43	0.40～2.18
中	0.53～5.90	0.56～5.43	0.61～6.78	0.64～6.24	0.61～6.78	0.64～6.24	0.61～6.78	0.64～6.24
高	1.31～13.10	1.31～12.50	1.51～14.07	1.51～13.30	1.51～14.07	1.51～13.30	1.51～14.07	1.51～13.30

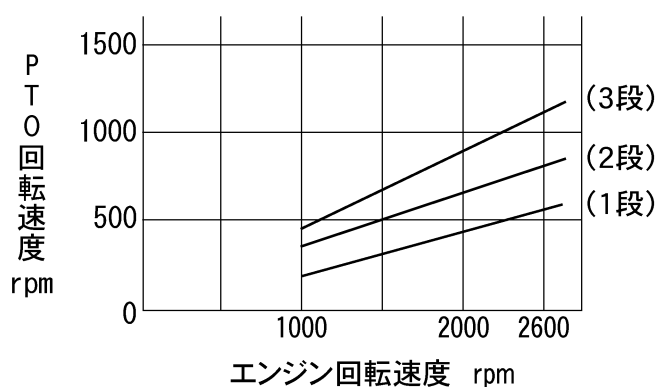
◆ パワクロ仕様

(km/h)

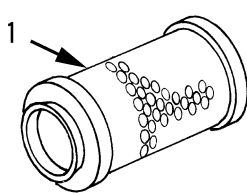
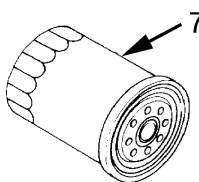
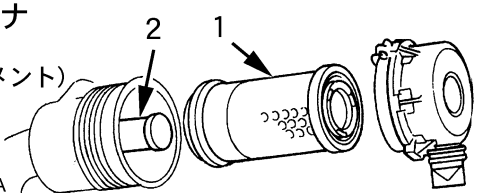
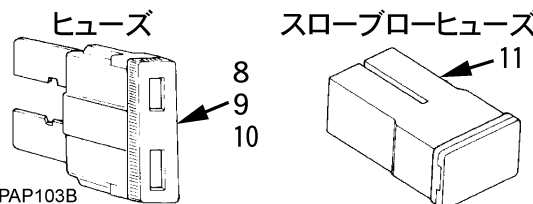
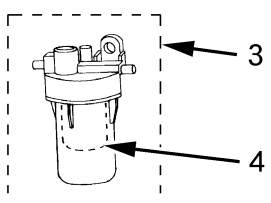
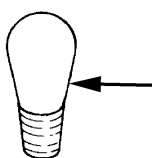
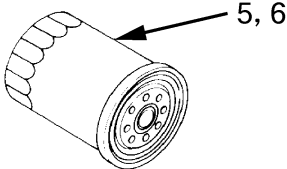
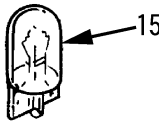
マニュアルシフト仕様			
副変速レバー	主変速レバー	KB185-PC1/PC2/PC3, KB205-PC1/PC2/PC3, KB205Q-PC1/PC2 KB225-PC1/PC2/PC3, KB225Q-PC1/PC2	
		前進	後進
低	1 2 3	0.58 0.97 1.49	0.58 0.97 1.49
中	1 2 3	1.17 1.96 2.94	1.17 1.96 2.94
高	1 2 3	4.97 8.35 13.2	4.97 8.35 13.2

(km/h)

副変速レバー	グライドシフト (F) 仕様 KB185F-PC1/PC2/PC3, KB205F-PC1/PC2/PC3, KB225F-PC1/PC2/PC3 KB205FQ-PC1/PC2, KB225FQ-PC1/PC2	
	前進	後進
低	0.18 ～ 2.14	0.35 ～ 1.92
中	0.54 ～ 5.97	0.56 ～ 5.49
高	1.33 ～ 12.38	1.33 ～ 11.76

■ PTO 回転速度表

■標準付属品

品　名	数量 / 台	備　考	品　名	数量 / 台	備　考
10-12 スパナ	1		保証書（トラクタ）	1	
14-17 スパナ	1		メンテナンスブック	1	
プライヤ	1		取扱説明確認カード	1	
ヒューズ	各 1	(安全フレーム仕様) 10A, 20A (安全キャブ仕様)10A, 15A, 20A (ヒューズボックス内)	保証書（ロータリ）	1	ロータリ装着時のみ
メインスイッチキーアッシ	1		PTO 軸キャップ	1	
取扱説明書	1		キャブキー，アッシ	1	安全キャブ (Q) 仕様のみ
取扱のポイント	1		パワクロメンテナンスシート	1	パワクロ仕様のみ

主な消耗部品一覧表

13
1・2
12
5
3・4
17
1AGATAHAP012B

8・9・10
15
11
13
7
6
1AGATAHAP033B

16
13
14
8・9・10
1・2
12
5
3・4
17
1AGATAHAP002F

14
7
11
6
1AGATAHAP032B

図番	品　名		品番	図番	品　名		品番
1	エレメントアッシ （安全フレーム仕様）		6A100-8263-0	9	ヒューズ 20A	安全フレーム	5H050-4164-1
						安全キャブ	48100-5589-1
1	エレメントアッシ（130） （安全キャブ仕様）		6A671-8263-1	10	ヒューズ 15A （安全キャブ仕様）		52200-4162-1
2	エレメント（インナー）		32721-5824-2	11	スローブローヒューズ（50A） （安全フレーム仕様）		17478-6008-1
3	フィルタ，アッシ（フューエル）		6A320-5886-0	11	スローブローヒューズ（60A） （安全キャブ仕様）		T1156-3050-0
4	フィルタ		6A320-5993-0	12	デンキュウ（12V，23W）		31391-3436-0
5	油圧オイルフィルタカートリッジ		6A600-3901-0	13	バルブ（12V，21W）（安全フレーム仕様，安全キャブ仕様，前方用）		T2255-9912-1
6	油圧ミッションオイルフィルタカートリッジ **［グライドシフト（F）仕様］**		6A600-3901-0	14	バルブ（12V，21W）		T1370-9912-1
7	フィルタ，アッシ （オイル，カートリッジ）		16271-3209-2	15	ランプ（12V，1.7W）		6A700-3027-0
8	ヒューズ 10A	安全フレーム	5H050-4162-1	16	バルブ（12V，35W ハロゲン）		T1275-9106-0
		安全キャブ	48100-5588-1	17	バルブ（12V，10W）		6A830-54631-1

アタッチメント一覧表

分類	品番	品名	用途・仕様		併用アタッチメント	適応タイヤサイズ				
						8.3-20	8.3-22	9.5-20	9.5-22	
補助車輪関係	98352-7560-0	P-15 反転ストレーク KB225 安全キャブ仕様には装着できません	ストレーク幅 15cm	5セット／台	98352-7260-0 8.3-20ストレーク取付台	○				
					98352-6460-0 8.3-22ストレーク取付台		○			
					98352-8360-0 9.5-20ストレーク取付台			○	○	
					98352-8460-0 9.5-22ストレーク取付台					○
	98352-7660-0	P-20 反転ストレーク (KB225 安全キャブ仕様には装着できません)	ストレーク幅 20cm	5セット／台	98352-7260-0 8.3-20ストレーク取付台	○				
					98352-6460-0 8.3-22ストレーク取付台		○			
					98352-8360-0 9.5-20ストレーク取付台			○	○	
					98352-8460-0 9.5-22ストレーク取付台					○
	98352-7760-0	P-30 反転ストレーク (KB205/225 安全キャブ仕様には装着できません)	ストレーク幅 30cm	5セット／台	98352-7260-0 8.3-20ストレーク取付台	○				
					98352-6460-0 8.3-22ストレーク取付台		○			
					98352-8360-0 9.5-20ストレーク取付台			○		
					98352-8460-0 9.5-22ストレーク取付台					○
	98352-7260-0	8.3-20 ストレーク取付台	反転ストレーク取付け用		P-15, P-20, P-30の反転ストレークを任意選択	○				
	98352-6460-0	8.3-22 ストレーク取付台	反転ストレーク取付け用				○			
	98352-8360-0	9.5-20 ストレーク取付台	反転ストレーク取付け用					○	○	
	98352-8460-0	9.5-22 ストレーク取付台 (安全キャブ仕様には装着できません)	反転ストレーク取付け用							○

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメントまたは部品	適応トラクタ			
					KB165	KB185	KB205	KB225
前部ウエイト関係	96315-1250-0	ブラケットアッシ（フロントウエイト）	右記 25kg ウエイトを最大５個まで取付可能（全重量 125kg）	99801-1100-0 HT フロントウエイトアッシ	○	○	○	○
	99801-1100-0	HT フロントウエイトアッシ	25kg ウエイト	ブラケットアッシ（フロントウエイト）	○	○	○	○
	6A700-5141-0	バンパ（ウエイト５）	※５ kg　１個 使用個数　１個	01133-51225 ボルト２個	○	○	○	○
	6A700-5145-0	バンパ（ウエイト 20）	※ 20kg　１個 使用個数　１個	01133-51225 ボルト２個	○	○	○	○
	T2050-4978-0	バンパー（30）	※ 30kg　１個 使用個数　１個	01133-51245 ボルト２個	○	○	○	○
	T0430-4979-0	バンパー（45）	※ 45kg　１個 使用個数　１個	01133-51245 ボルト２個	○	○	○	○
	99221-1200-0	ゼンブウエイトアッシ	※ 28kg　１個 使用個数　１～２個	※印付きウエイトに追加	○	○	○	○
洗車ポンプ	96397-1510-0	Ｌ 型洗車ポンプ			○	○	○	○
その他	96314-1580-1	JB18 作業灯アッシ	12V18.4W 安全フレーム仕様用		○	○	○	○
	96316-2740-0	GB16 ヒッチアッシ	Ｐ 仕様トラクタには標準装備されている		○	○	○	○
	96314-4880-0	キャノピ，アッシ（GB16）	全高（折りたたみ時） KB165 1930mm（1695mm） KB185 1960mm（1735mm） KB205 1960mm（1735mm） KB225 2015mm（1790mm） PC1 2040mm（1795mm） PC2 2045mm（1800mm） PC3 2020mm（1760mm） PC3N 1970mm（1715mm）		○	○	○	○
	96314-1770-0	KB20Q 作業灯アッシ	12V27W（２個セット） 後部作業用 安全キャブ仕様用				○	○

※印付きウエイト：既にいずれかを装着してある場合は付け替えになります。追加はできません。

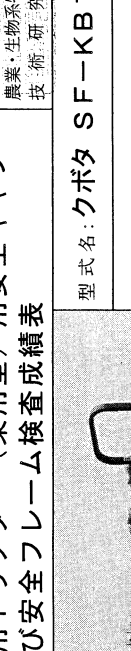
インプルメント一覧表

注　意

＊ トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20 %以上になるようにバランスウエイトを装着し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装着してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上を確保できない作業機は装着しないで下さい。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。（詳細は購入先にご相談ください。）

品番	品名	品番	品名
7F412-02010	RSP125K（サイドロータリ）	7F482-00010	RKP125K-B（センタロータリ）
7F412-02020	RSP125K-V（サイドロータリ）	7F482-00020	RKP125K-VB（センタロータリ）
7F412-02210	RSP125K-S（サイドロータリ）	7F482-00210	RKP125K-BS（センタロータリ）
7F412-02220	RSP125K-VS（サイドロータリ）	7F482-00220	RKP125K-VBS（センタロータリ）
7F412-00010	RSP125K-B（サイドロータリ）	7F413-02030	RSP135KPC（パワクロ用サイドロータリ）
7F412-00020	RSP125K-VB（サイドロータリ）	7F413-02040	RSP135KPC-V（パワクロ用サイドロータリ）
7F412-00210	RSP125K-BS（サイドロータリ）	7F413-02230	RSP135KPC-S（パワクロ用サイドロータリ）
7F412-00220	RSP125K-VBS（サイドロータリ）	7F413-02240	RSP135KPC-VS（パワクロ用サイドロータリ）
7F413-02010	RSP135K（サイドロータリ）	7F413-00030	RSP135KPC-B（パワクロ用サイドロータリ）
7F413-02020	RSP135K-V（サイドロータリ）	7F413-00040	RSP135KPC-VB（パワクロ用サイドロータリ）
7F413-02210	RSP135K-S（サイドロータリ）	7F413-00230	RSP135KPC-BS（パワクロ用サイドロータリ）
7F413-02220	RSP135K-VS（サイドロータリ）	7F413-00240	RSP135KPC-VBS（パワクロ用サイドロータリ）
7F413-00010	RSP135K-B（サイドロータリ）	7F414-02030	RSP145KPC（パワクロ用サイドロータリ）
7F413-00020	RSP135K-VB（サイドロータリ）	7F414-02040	RSP145KPC-V（パワクロ用サイドロータリ）
7F413-00210	RSP135K-BS（サイドロータリ）	7F414-02230	RSP145KPC-S（パワクロ用サイドロータリ）
7F413-00220	RSP135K-VBS（サイドロータリ）	7F414-02240	RSP145KPC-VS（パワクロ用サイドロータリ）
7F414-02010	RSP145K（サイドロータリ）	7F414-00030	RSP145KPC-B（パワクロ用サイドロータリ）
7F414-02020	RSP145K-V（サイドロータリ）	7F414-00040	RSP145KPC-VB（パワクロ用サイドロータリ）
7F414-02210	RSP145K-S（サイドロータリ）	7F414-00230	RSP145KPC-BS（パワクロ用サイドロータリ）
7F414-02220	RSP145K-VS（サイドロータリ）	7F414-00240	RSP145KPC-VBS（パワクロ用サイドロータリ）
7F414-00010	RSP145K-B（サイドロータリ）	7F415-02030	RSP155KPC（パワクロ用サイドロータリ）
7F414-00020	RSP145K-VB（サイドロータリ）	7F415-02230	RSP155KPC-S（パワクロ用サイドロータリ）
7F414-00210	RSP145K-BS（サイドロータリ）	7F415-00030	RSP155KPC-B（パワクロ用サイドロータリ）
7F414-00220	RSP145K-VBS（サイドロータリ）	7F415-00230	RSP155KPC-BS（パワクロ用サイドロータリ）
7F415-02010	RSP155K（サイドロータリ）	7F416-02030	RSP165KPC（パワクロ用サイドロータリ）
7F415-02210	RSP155K-S（サイドロータリ）	7F416-02230	RSP165KPC-S（パワクロ用サイドロータリ）
7F415-00010	RSP155K-B（サイドロータリ）	7F416-00030	RSP165KPC-B（パワクロ用サイドロータリ）
7F415-00210	RSP155K-BS（サイドロータリ）	7F416-00230	RSP165KPC-BS（パワクロ用サイドロータリ）
7F416-02010	RSP165K（サイドロータリ）		
7F416-02210	RSP165K-S（サイドロータリ）		
7F416-00010	RSP165K-B（サイドロータリ）		
7F416-00210	RSP165K-BS（サイドロータリ）		

検査成績表

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成16年度
農業・生物系特定産業技術研究機構

型式名：クボタ　SF－KB16

合格番号：204013

種　　類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型　式　名

クボタ KB20F　　クボタ KB20　　クボタ KB18F　　クボタ KB18
クボタ KB16F　　クボタ KB16

2．主要諸元（最大トラクター）

項目	単位	値
■ 型式名		クボタ KB20F
■ 種類		4輪駆動
■ 質量（フレーム付き）	kg	720
■ 軸距	mm	1350
■ 機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	14.7{20}/2600

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり，取付金具を介してディファレンシャルギヤケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（2点式）

3．主要寸法　※

項目		値
■ 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		91.0 cm
■ フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		129.0 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		68.0 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		－ cm
■ 戸口の幅	（上部）	－ cm
	（中部）	－ cm
	（下部）	－ cm
■ 戸口の高さ	（フートプレートから）	－ cm
■ 最低位ステップの高さ		35.5 cm
■ フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	190.0 cm
■ フレームの全幅	（フェンダーを含む）	101.0 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		24.0 cm

※1．クボタ KB20F（タイヤサイズ ： 前輪 6.00-12 4PR　後輪 9.5-20 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 福井化成（株），K2571-56111
3．ステアリングホイールのチルトは上から2段目に調節。

4．主要材料

■ 主フレーム ： STK 400, STKR 400, SS 400, SPHC, SPCE
■ 装着ブラケット ： SS 400
■ 組立・装着ボルト ： S 40～45 C

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部左側，側部右側に対して実施。
■ 基準質量 ： 745 kg
■ 所要吸収エネルギー ： 後部負荷　1.20 kJ {122 kgf･m}
　　側部負荷　2.16 kJ {220 kgf･m}
■ 圧壊力 ： 10.95 kN {1117 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位
■ 後　部（前方へ） ： 右側　14.0 cm　左側　14.0 cm
■ 側　部（左側方へ） ： 13.5 cm
■ 上　部（下方へ） ： 右側　2.5 cm　左側　3.5 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 ： 10.5 cm

2．騒　音　※

■ 89 dB(A)［クボタ KB20F］

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付　記

本フレームは，任意鑑定受験機（平16任鑑9号，コードⅢ）であり，強度試験，分解調査については，任意鑑定の試験成績を転用した。

1AGATABAP0010

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表	平成16年度 農業・生物系特定産業 技術研究機構

型式名：クボタ Q－KB20

合格番号：204012

種　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型式名

クボタ KB20F　　クボタ KB20

2．主要諸元（最大トラクター）

■ 型式名　：クボタ KB20F
■ 種類　：4輪駆動
■ 質量（キャブ付き）　kg：875
■ 軸距　mm：1365
■ 機関出力／回転数　kW{PS}/rpm：14.7{20}/2600

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管，鋼板及びアルミを主材としたボルト締めによる組立構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及びディファレンシャルギヤケース部にボルトで装着。

ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備

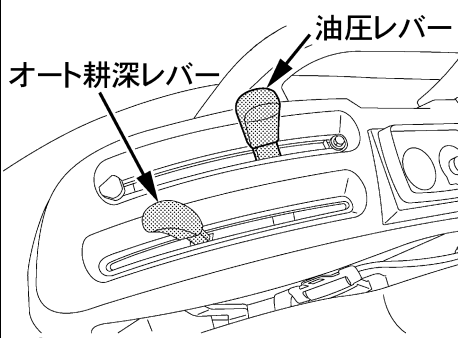
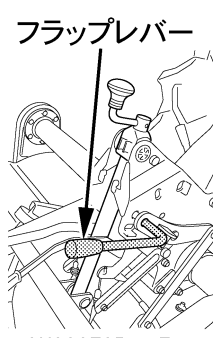
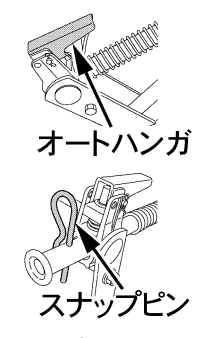
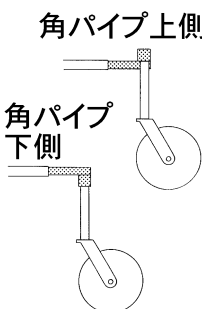
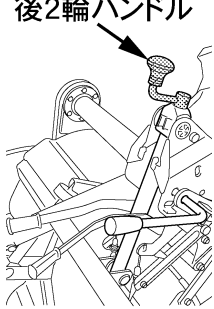
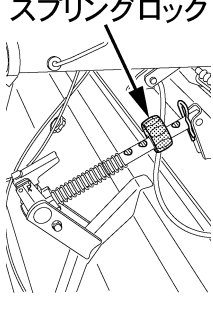
シートベルト（2点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法　※

■ 座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ　：96.5 cm
■ フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ　：133.5 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅　：74.0 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅　：79.0 cm
■ 戸口の幅　（上部）：69.0 cm
　（中部）：80.0 cm
　（下部）：28.0 cm
■ 戸口の高さ　（フートプレートから）：122.0 cm
■ 最低位ステップの高さ　：36.5 cm
■ キャブ装着時のトラクターの全高　（キャブ上端まで）：196.5 cm
■ キャブの全幅　（フェンダーを含む）：101.0 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離　：22.5 cm

※1．クボタ KB20F（タイヤサイズ：前輪 6.00-12 4PR 後輪 9.5-20 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：福井化成（株），K2571-56111
3．ステアリングホイールのチルトは上から2段目に調節。

4．主要材料

■ 主フレーム　：A 6063 S, FCD 450, SGD 400-D, SS 400, SPHC, SPCE
■ 装着ブラケット　：STKR 400, SS 400
■ 組立・装着ボルト　：SAE 10B23H, S 40～45 C

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■ 基準質量　：900 kg
■ 所要吸収エネルギー　：後部負荷　1.45 kJ {148 kgf･m}
　：側部負荷　2.37 kJ {242 kgf･m}
■ 圧壊力　：13.23 kN {1349 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■ 後部（前方へ）　：右側　2.5 cm　左側　5.5 cm
■ 前部（前方へ）　：右側　3.0 cm　左側　5.5 cm
■ 側部（左側方へ）　：前側　8.0 cm　後側　12.5 cm
■ 上部（下方へ）　：前部　右側　-1.0 cm　左側　1.5 cm
　：後部　右側　-0.5 cm　左側　1.5 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差　：14.5 cm

2．騒音　※

■ 86 dB(A)　[クボタ KB20F]

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付記

本キャブは，任意鑑定受験機（平16任鑑8号，コードⅢ）であり，強度試験，分解調査については，任意鑑定の試験成績を転用した。

1AGATABAP0020

目次　困ったときには　安全　サービスと保証 小特の取扱い　運転のしかた　作業のしかた　安全キャブ装備品の取扱い　トラクタの簡単な手入れと処置　付表　索引

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容		油圧レバー オート耕深レバー 1AGATAAAP029D		フラップレバー 1AHAAAEAP002E	オートハンガ スナップピン 1AHAAACAP091B
		油圧レバー	オート耕深 レバー	フラップレバー **［サイドドライブ］**	オートハンガ又は スナップピン
ポジション コントロール	浅耕し （5 ～ 8 cm）	希望耕深になる よう調整 （後２輪付の場合 は最下げ位置）	オート「切」位置	浅耕し	フリー
	一般耕うん （8 ～ 15 cm）			耕うん	
	深耕し （15 cm 以上）				
	代かき			代かき	
	うね立て			培土	カバーを上げ固定 V カバー仕様は フリー
メカオート （MA 仕様）	浅耕し （5 ～ 8 cm）	最下げ位置	希望耕深に なるよう調整	浅耕し	フリー
	一般耕うん （8 ～ 15 cm）			耕うん	
	深耕し （15 cm 以上）				
	代かき			代かき	
モンロー マチック （MA 仕様）	水田の耕うん	−	−	−	−
	畑の耕うん				
	プラウ作業等				

<table>
<tr><td>角パイプ上側
角パイプ下側
1AGATAAAP068A</td><td>後2輪ハンドル
1AHAAAEAP002F</td><td>スプリングロック
1AHAAAEAP016D</td><td>水平制御
○ 水平
○ 傾斜地
切替
水平制御スイッチ
1AGATAAAP045D</td><td>角度調節
水平
1 2 3
左下 右下
角度調節ダイヤル
1AGATAAAP045E</td></tr>
<tr><td>後２輪ホルダの上下位置（後２輪付の場合）</td><td>後２輪ハンドル（後２輪付の場合）</td><td>スプリングロック</td><td>水平制御スイッチ</td><td>角度調節ダイヤル</td></tr>
<tr><td>角パイプ上側（後２輪が上がる側）</td><td rowspan="3">希望耕深になるよう調整
なおポジションレバーは最下げ位置</td><td rowspan="2">希望の接地圧になるよう調整
［スプリングロックのセット位置を後方に下げ，押付け力を強くすると，均平・整地に効果があります。］</td><td rowspan="3">–</td><td rowspan="3">–</td></tr>
<tr><td>角パイプ下側（後２輪が下がる側）</td></tr>
<tr><td>角パイプ上側（後２輪が上がる側）</td><td>最前位置</td></tr>
<tr><td>後２輪を外す</td><td>–</td><td>希望の接地圧になるよう調整
［スプリングロックのセット位置を後方に下げ，押付け力を強くすると，均平・整地に効果があります。］</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="4">–</td><td rowspan="4">–</td><td rowspan="4">–</td><td>水平</td><td>希望の角度になるよう調整</td></tr>
<tr><td>水平</td><td rowspan="2">–</td></tr>
<tr><td>傾斜地</td></tr>
<tr><td>切</td><td>希望の角度になるよう調整</td></tr>
</table>

補　足

＊ 主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。土質など作業条件に合わせ適宜調整してください。

索引

英数字

100時間ごとの点検・整備 68
１年ごとの点検・整備 80
200時間ごとの点検・整備 74
２年ごとの点検・整備 80
300時間ごとの点検・整備 78
400時間ごとの点検・整備 79
50時間ごとの点検・整備 64
800時間ごとの点検・整備 80
PTO....................................... 35
PTO回転速度表 90
PTO軸キャップ 35
PTO変速レバー 35

あ

アクセルレバーとアクセルペダル 22
アタッチメント一覧表 93
安全キャブ・安全フレームとシートベルトについて...... 11

い

一般的な耕うん要領 42
インプルメントの装着 48
インプルメント一覧表 95
インプルメント用操作ボックスの取付 48

う

ウエイト（オプション） 41
ウォッシャ液の補充 83
運転席周りの調節 10
運転前の点検 4
運転中の作動確認 23

え

エアクリーナエレメントの交換 80
エアクリーナエレメントの清掃 71
エアコン 46
エアコンコンデンサの詰まり 77
エアコンベルトの張り 78
エアコン配管，ホースの点検 80
エンジンオイルの量及び汚れ 57
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換..... 74
エンジンオイル・ミッションオイル 54
エンジンオイルの交換 68
エンジンの始動と停止 5
エンジンの不調と処置 85
エンジンバルブクリアランスの点検 80
エンジン始動システムの点検 65

お

オート耕深レバー 39
主な消耗部品一覧表 91

か

外気フィルタの清掃 77
外部電源取出端子 14
格納 83
各部の名称［モンローマチック］............ 37
各変速レバーの取扱い 19
角度調節ダイヤル 38
風向調整 46
寒冷時のワイパの使用 45
寒冷時の暖機運転 9

き

キースイッチ 8
給油（水）一覧表 53

く

空気の流れ 46
グライドシフト 20
クラッチハウジングの水抜き 67
クラッチペダル 17
クラッチペダルの点検・調整 72
クラッチペダルの遊び・点検 61
グリース 54
グリースの注入 64

け

けん引ヒッチ（別売） 34

こ

ゴムクローラの交換 64
ゴムクローラの張り調整................... 63
コントロールパネル 47
コンビネーションスイッチ 13
小型特殊自動車としての取扱い 3

さ

サービスと保証 1
サイドウインド 44
サイドカバーの取り外し 56
坂道での運転 24
作業ごとの一般的な調整要領 98
作業機を取付けないときの注意 34
作業機昇降装置 29
作業機落下速度の調整 31
作業灯 45
作業灯スイッチ 45
三点リンク 32

し

シート 10
始動のしかた.............................. 5

室内エアフィルタの清掃 77
主要諸元 86
状況に応じた操作 24

す

水温計 23
推奨オイル・グリース一覧表 54
水平制御スイッチ 37
スプロケットの交換 64
スローブローヒューズの交換 82

せ

洗車時の注意 49
旋回のしかた 24
前車軸ケースオイルの交換 79
前輪駆動レバー 18

そ

走行装置の取扱い 15
走行速度表 89

た

タイヤ・ウエイト 40
タイヤの空気圧 40
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 59
タイヤ取付けボルトの点検 67

ち

チェックチェーン 34
注油 82
駐車ブレーキの解除のしかた 22
駐車ブレーキの作動点検 61
長期格納時の手入れ 83
チルトステアリングハンドル 12

て

停止のしかた 7
停車・駐車 16
定期点検箇所一覧表 50
デフロックの使い方 24
転輪・遊輪のオイルシール点検 76
電子アップレバー（ポンパ） 29

と

ドア 43
ドア・窓の開閉とロック 43
トーイン調整・タイロッドの点検 76
灯火類の操作 13
道路走行中の注意 26
トップリンク 33
トラクタの給油（水） 53
トラクタの主要諸元 86
トラクタの周りを歩いて 56
トラクタの方向転換のしかた 42
トラクタメータ 23
トラックへの積み・降ろし 26
取扱い操作方法［エアコン］............... 48

な

ならし運転（最初の約 50 時間）............. 10

に

日常点検 56
日常点検［PC仕様］....................... 63

ね

燃料計 23
燃料の空気抜きのしかた 82
燃料の補給 62
燃料フィルタエレメントの清掃・交換 79
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 59
燃料ホースの交換 81
燃料ホースの点検 68
燃料供給台 63

は

廃棄物の処理について 49
倍速ターンレバー 18
倍速ターン高速けん制装置の点検 66
バキュエータバルブの清掃 58
発進・走行 15
バックアップスイッチ 30
バックミラー 13
バッテリあがりの処置 9
バッテリ電解液の点検 69
パワーステアリングの取扱い 27
パワクロ仕様の運転のしかた 28

ひ

必要に応じた点検・整備 82
ヒータ使用上の注意 48
ヒータ配管，ウォータホースの点検 80
一うねおき耕うんのしかた 42
ヒューズの交換 82
標準付属品 90

ふ

ファンベルトの点検・調整 72
不調と処置 85
ブレーキペダル 17
ブレーキペダルの点検・調整 73
ブレーキペダルの遊び・点検 60
フロントグリルの取り外し 55
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 44

目次
困ったときには
安全
サービスと保証 小特の取扱い
運転のしかた
作業のしかた
安全キャブ装備品の取扱い
トラクタの簡単な手入れと処置
付表
索引

ほ

防虫網の清掃 60
ボンネットの開閉 55
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方 55
ほ場への出入り時の注意 25

ま

マニュアルシフト 19
満タンお知らせブザー［MA仕様］............ 63

み

ミッションオイルの交換 78
ミッションオイルの量及び汚れ 57

め

メータ・ランプ類の作動 62
メカオートの取扱い 39

も

モンローシリンダホースの交換［MA仕様］.... 81
モンローマチックの取扱い［MA仕様］........ 37

ゆ

油圧（ポジションコントロール）レバー...... 29
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 75
油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換..... 75

ら

ラジエータの洗浄 81
ラジエータホースの交換 81
ラジエータホースの点検 74
ランプ類の交換 82

り

リフトロッドの調整 33
リヤウインド 43
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ 45
輪距の調整 40
隣接耕うんのしかた 42

れ

冷却水の交換 80
冷却水の量 58
冷媒（ガス）量の点検 83

ろ

ロアーリンク取付け穴の選択 33
ロータリ着脱時の注意［S仕様以外］......... 39

わ

ワイパ 44
ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの点検・交換........ 67

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください。

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　－
ご購入日	型式	車台番号
エンジン型式　機番	その他装着型式　機番	

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部	電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部	電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部	電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部	電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部	電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部	電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部	電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部	電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部	電(0859)39-3181	〒689-3547	米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課	電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部	電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部	電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部	電(072)241-8092	〒590-0823	堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所	電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所	電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所	電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

KB165/185/205/225

AL．F．1-1．1．AK

Kubota

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の19kW未満汎用ディーゼルエンジン排ガス自主規制に適合していることを示しています。

株式会社クボタ

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番　6A900-6251-1